

下大賀遺跡

一般国道118号道路改築事業
地内埋蔵文化財調査報告書

平成27年3月

茨城県常陸大宮土木事務所
公益財団法人茨城県教育財団

し も お お が
下 大 賀 遺 跡

一般国道118号道路改築事業
地内埋蔵文化財調査報告書

平成27年3月

茨城県常陸大宮土木事務所
公益財団法人茨城県教育財団

序

茨城県では、市町村や県の枠を超える広域的な交流と連携を進め
るため、県土の骨格となる一般国道や主要地方道などの幹線道路網
の整備を進めています。

そこで、茨城県常陸大宮土木事務所は、円滑な交通の確保と幹線
道路強化を目的として、平成8年度から県道日立笠間線交差点から
現大宮バイパス起点までの区間を優先区間として、国道118号4車
線化の事業を展開しています。しかしながら、その事業予定地内に
は埋蔵文化財包蔵地である下大賀遺跡が所在し、記録保存の措置を
講ずる必要があるため、当財団が茨城県常陸大宮土木事務所から埋
蔵文化財発掘調査の委託を受け、平成24年9月から11月までの3
か月間及び平成25年5月から6月の2か月間にわたり下大賀遺跡の
発掘調査を実施しました。

本書は、その調査の成果を収録したものです。学術的な研究資料
としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の
向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、委託者
であります茨城県常陸大宮土木事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、
那珂市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協
力に対し、深く感謝申し上げます。

平成27年3月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長 鈴木欣一

例　　言

1 本書は、茨城県常陸大宮土木事務所の委託により、公益財団法人茨城県教育財團が平成24・25年度に発掘調査を実施した茨城県那珂市瓜連1402-2番地ほかに所在する下大賀遺跡の発掘調査報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。

　　調査 平成24年9月1日～11月30日

　　平成25年5月1日～6月30日

　　整理 平成26年12月1日～平成27年3月31日

3 発掘調査は、平成24年度が調査課長桜村宜行、平成25年度が調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。

平成24年度

　　首席調査員兼班長 稲田義弘

　　首席調査員 繩引英樹

　　次席調査員 兼子博史 平成24年9月1日～10月31日

　　次席調査員 木村光輝 平成24年11月1日～11月30日

平成25年度

　　首席調査員兼班長 繩引英樹

　　次席調査員 斎藤和浩

　　調査員 内田勇樹

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長後藤一成のもと、調査員内田勇樹が担当した。

5 第1号竪穴建物跡から出土した刀子及び第2号竪穴建物跡から出土した不明金属製品（鉄挺カ）、第4号竪穴建物跡から出土した鉄製紡錘車の保存処理については、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。

6 出土した人骨は、調査終了後、那珂市瓜連1222の草地山蓮華院常福寺にて、供養、埋葬した。

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、X = + 56,840 m, Y = + 54,360 mの交点を基準点（A 1 a1）とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A, B, C …、西から東へ 1, 2, 3 … とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c … j、西から東へ 1, 2, 3 … と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構	P - ピット	PG - ピット群	SD - 溝跡	SE - 井戸跡
	SF - 道路跡	SI - 壑穴建物跡	SK - 土坑	TP - 陥し穴
遺物	DP - 土製品	M - 金属製品	Q - 石器・石核・剥片	TP - 拓本記録土器
土層	K - 扰乱			

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図については原則として 60 分の 1 の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	焼土・施釉		甕部材・粘土範囲・黒色処理		柱あたり・煤				
●	土器	○	土製品	□	石器	△	金属製品	- - - -	硬化面

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色図』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量で記述した。

5 遺構一覧表・遺物観察表の表記については、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は m, cm, g で示した。なお、現存値は () を、推定値は [] を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

6 壑穴建物跡の「主軸」は、甕を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

7 今回の報告分で、調査段階での遺構名を変更したものは以下のとおりである。

SK 8 → TP 1 SK86 → TP 2 SK14 → 第 1 号火葬施設 SK75 (平成 25 年度) → SK88
SD 3 (平成 25 年度) → SD 4 SD 4 (平成 25 年度) → SD 5 SD 5 (平成 25 年度) → SD 6
SB 1 · 2 · 3 → PG 2

目 次

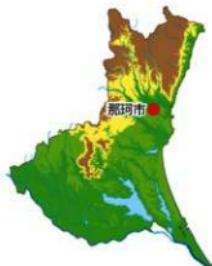
序	
例 言	
凡 例	
目 次	
下大賀遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	4
第2章 位置と環境	5
第1節 位置と地形	5
第2節 歴史的環境	5
第3章 調査の成果	11
第1節 調査の概要	11
第2節 基本層序	11
第3節 遺構と遺物	13
1 縄文時代の遺構と遺物	13
陥し穴	13
2 平安時代の遺構と遺物	14
(1) 墓穴建物跡	14
(2) 井戸跡	32
3 その他の遺構と遺物	34
(1) 火葬施設	34
(2) 土坑	35
(3) 溝跡	43
(4) 道路跡	47
(5) ピット群	47
(6) 遺構外出土遺物	52
第4節 まとめ	55
写真図版	PL 1 ~ PL10
抄 錄	

しも おお が 下 大賀 遺跡 の 概要

遺跡の位置と調査の目的

下大賀遺跡は那珂市の北部、玉川と久慈川が合流する地点から西へ約2kmのところに位置し、玉川右岸の標高43mの台地上に立地しています。

一般国道118号道路改築事業に伴い、平成24年9月から11月、平成25年5月から6月にかけて発掘調査を行いました。



調査の内容

当遺跡は、東西約2.3km、南北約1kmにわたる広大な範囲が埋蔵文化財包蔵地として登録されています。今回の調査区は、その東部にあたります。調査の結果、縄文時代の陥し穴、平安時代の竪穴建物跡や戸井戸跡などのほか、火葬施設や土坑、溝跡、道路跡が見つかりました。主な出土遺物は、土師器、須恵器、陶器、金属製品、石器などです。



下大賀遺跡遠景（南から）

調査の結果

調査区の北部では、平安時代の堅穴建物跡を5棟確認しました。それより南では堅穴建物跡は確認できず、溝跡や土坑などを確認しました。また、調査区南部では、井戸跡1基を確認しました。北部で確認された堅穴建物跡は竈を伴う堅穴建物跡で、5棟のうち2棟が北側に竈が作られ、残りは東側に作られて



第5号堅穴建物跡遺物出土状況（南から）



第5号堅穴建物跡出土墨書土器「馬」



第1号井戸跡（東から）

いました。第5号堅穴建物跡からは、「馬／□長」や「馬長」と墨書された土器が出土しました。第5号堅穴建物跡は他の建物跡と比べて規模が大きく、「馬長」銘の墨書土器が出土していることから在地の有力者などの地位の高い人が住んでいたことが想定されます。

井戸跡の大きさは、確認面で径2.88m、深さが1.75mのところまでは漏斗状に掘り込み、それより下は長径0.95m、短径0.81mの円筒形で、深さ4.5mです。下層から9世紀後半ごろの須恵器の甕が出土しています。井戸跡と堅穴建物跡は、およそ250mほど離れています。この間に堅穴建物跡や掘立柱建物跡などは確認できず、今回報告する堅穴建物跡が集落の南端になり、北側に集落が広がっていることが想定されます。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

茨城県常陸大宮土木事務所は、那珂市において、一般国道118号の道路改築事業を進めている。

平成12年7月17日、茨城県常陸大宮土木事務所長（現 茨城県常陸大宮土木事務所長）は、茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道118号道路改築事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けた茨城県教育委員会は、平成18年6月30日に現地踏査を実施し、平成23年8月30日及び9月1日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。茨城県教育委員会教育長は、平成23年10月31日に、茨城県常陸大宮土木事務所長あてに、事業地内に遺跡が所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

平成24年1月16日、平成25年1月17日、茨城県常陸大宮土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに文化財保護法第94条に基づく土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知をした。平成24年2月15日、平成25年2月5日、茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、茨城県常陸大宮土木事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成24年2月27日、平成25年2月15日、茨城県常陸大宮土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道118号線道路改築事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成24年3月5日、平成25年2月20日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県常陸大宮土木事務所長あてに、下大賀遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として公益財團法人茨城県教育財團を紹介した。

公益財團法人茨城県教育財團は、茨城県常陸大宮土木事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成24年9月1日から11月30日まで、平成25年5月1日から6月30日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

下大賀遺跡の調査は、平成24年9月1日から11月30日までの3か月間、及び平成25年5月1日から6月30日までの2か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

平成24年度

工程	期間	9月	10月	11月
調査準備 表土除去 遺構確認				
遺構調査				
遺物洗浄 注写 真整理				
撤 収				

平成25年度

工程	期間	5月	6月
調査準備 表土除去 遺構確認			
遺構調査			
遺物洗浄 注写 真整理			
撤 収			

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

下大賀遺跡は、茨城県那珂市瓜連1402-2番地ほかに所在している。

那珂市は、茨城県の中央部の北寄りに位置し、当遺跡が所在する瓜連地区は、那珂台地の北縁部に位置する。周辺の地形は、西から南方向にかけて八溝山系から延びる標高90m前後の瓜連丘陵と呼ばれる丘陵地形、中央部には那珂台地、北部には久慈川によって形成された額田段丘、久慈川沿いには沖積低地が広がり、4つに区分できる。那珂台地は、更新世後期の見和層とこれを覆う茨城粘土層で構成され、関東ローム層は、瓜連丘陵、那珂台地及び縁辺部の段丘面を広く覆って分布し、厚さは2~3mである。この中に20~30cmの鹿沼輕石層を挟んでいるのが特徴である¹⁾。

当遺跡は、本市北部を東流する久慈川と玉川が合流する地点より西約2kmの標高43mの台地上に立地している。台地は、本市と常陸大宮市が接する北西側の境界付近から始まり、瓜連丘陵と並行して緩やかに傾斜しながら南東側に広がり、中央部から東側にかけて台地が全体的に広がっている。瓜連丘陵は、当遺跡の立地する瓜連地区的南部、戸崎地区付近でなくなる。当遺跡の立地する台地付近は、瓜連丘陵の北東側、玉川右岸に広がる台地であり、北側の低地に臨む台地縁辺部は急な崖地形になっており、低地との比高は約25mである。また、遺跡の北側から西側には玉川に流れ込む支流によって形成された小支谷が入り込んでいる。調査前の現況は畑地、宅地である。

第2節 歴史的環境

下大賀遺跡(①)が所在する瓜連地域は、旧石器時代から近世までの遺跡が多数分布している。ここでは、『茨城県遺跡地図』²⁾に登録されている当該地域の主な遺跡を中心に、時代ごとに概観する。なお、下大賀遺跡の分布範囲には、以前は上宿古墳群、上宿遺跡、二ツ堂遺跡、新宿古墳群、静駅付近遺跡が登録されていたが、2000年の分布調査によりこれらは下大賀遺跡に統合されている³⁾。

旧石器時代の遺跡は、当遺跡周辺の瓜連地域ではあまり確認されていないが、東側の旧那珂町地域では、久慈川と山田川が交流する地点の南側約1kmの台地上に額田大宮遺跡、森戸遺跡、久慈川と浅川が合流する地点の南側約1.2kmの台地上に西組遺跡、北坪遺跡、その南側、久慈川に流入する支流によって作られた小支谷の谷津頭西側付近の台地上に八石遺跡(29)、中丸遺跡(31)、飛内遺跡(33)などがある。なかでも額田大宮遺跡では、細石刃、彫刻刀、スクレーパー、円盤形石器などの良好な資料が出土しており、後期旧石器細石刃文化の最終末期の遺跡として注目される⁴⁾。森戸遺跡では、チヨッパー、削器、搔器、石核、剥片などが出土しており⁵⁾、久慈川中流域の右岸台地上に旧石器文化が広がっていることがうかがえる。

縄文時代の遺跡は、早期の田戸下層式や子母口式の土器が大塚遺跡、鹿島台遺跡(23)、右井戸遺跡などから出土し、中・後期では、加曾利E式や大木8a式、大木8b式、堀ノ内式土器が出土している下大賀遺跡、加曾利E式、堀ノ内式土器が出土している谷津向遺跡(26)がある⁶⁾。そのほかに櫛現下遺跡(41)、野田遺跡(42)、西室家遺跡(43)、江後遺跡(45)などからも縄文土器が採集されている⁷⁾。瓜連地域で発見された縄文土器の大半は、南関東の子母口式に比定されるもので、大塚遺跡から出土した縄文土器が瓜連周辺で最も

古いものとされている⁸⁾。また、JR 水郡線の静駅付近の畠やその西側に広がる上宿地区からも土器片が出土しており、生活の場として使われていたことがうかがえ⁹⁾。瓜連地区の縄文時代の集落は、玉川と久慈川が合流する地点の右岸台地上の縁辺部を中心に分布する様相である。

弥生時代の遺跡は、下大賀遺跡¹⁰⁾、瓜連遺跡〈21〉、今回報告する調査区域から北へ約 500m のところに位置する二ツ堂遺跡¹¹⁾、十林寺遺跡、大塚遺跡¹²⁾、鹿島遺跡などから弥生時代後期の東中根式、十王台式土器などが出土し、瓜連遺跡からは、弥生時代後期の堅穴建物跡が 7 軒確認されている¹³⁾。また、常陸大宮市の久慈川沿いにも小祝田 B 遺跡、幌巾遺跡、坪井上遺跡〈11〉、上岩瀬富士山遺跡〈13〉、難塚遺跡、鷹巣大追遺跡などが台地縁辺部に広がり¹⁴⁾。弥生時代の集落が久慈川の台地縁辺部に広がっていた様相がうかがえる。

古墳時代の遺跡は、十林寺古墳群〈2〉、新宿古墳群〈3〉が玉川右岸台地上に、大塚古墳〈22〉、鹿島台古墳群などが久慈川に面する台地北縁部に分布している。十林寺古墳群は、下大賀遺跡の遺跡分布範囲の北東側に位置し、今回調査した地点から北北東に約 500m ほどの距離にあり、3 基の古墳が確認されている¹⁵⁾。新宿古墳群は、下大賀遺跡の遺跡分布範囲内の西端に所在する遺跡で、8 基からなる古墳群であるが、現況は第 5 号墳の権現塚古墳とその南側に点在する 4 基の古墳が残存するのみである¹⁶⁾。周辺には下大賀遺跡、瓜連遺跡、鹿島台遺跡などの同時期の集落遺跡が認められている¹⁷⁾。なお、「常陸國風土記」久慈郡の条には、「郡西□里静織里、上古之時、織綾之機未在知人、干時此村初織、因名、北有小水、丹石交錯、色似瑠璃、火口鑽尤好、故以号玉川」とあり、瓜連地域を静織の里、すなわち倭文郷に比定され、北側を東流する玉川では瑪瑙が産出することで知られ、倭文郷や玉造部などのこの地域の集落の氏族集團を示唆するものである¹⁸⁾。

奈良・平安時代の当地域は、久慈郡に属している。「倭名類聚抄」によると久慈郡は、岡田、八部、倭文、高月、助川、美和、志萬、眞野、神前、久來、大田、山田、河内、楊鳥、世矢、佐竹、高市、木前、佐野、都、餘戸の 21 郷が挙げられている¹⁹⁾。また、「新編常陸国誌」の「倭文郷 之登利」によると「風土記ニヨリテ地圖ヲ接ズルニ、コノ郷東ハ木前郷ニ接シ、西南並ニ那珂郡ノ界ニ至リ、北ハ眞野郷ニ隣リテ靜、古德、瓜連、戸崎、下大賀、上村田、下村田、石澤、上岩瀬、下岩瀬ノ十村、九千石バカリノ地、皆古ノ倭文郷ナリ」とあり、「木前郷 支左岐」には、「倭名鉢云、木前、按ズルニ、今ノ那珂郡南酒出、北酒出ノ両村共ニ木崎ト云フ地アリ、コノ地古ハ久慈郡ニ属シタレバ、古ノ木前郷タルコト明ナリ、木前ハ城崎ナリ、凡古俗ノ言ニ、地ノ一区ヲナシタルモノコレヲ城崎ト云ヘバナリ、地圖ニヨリテ考フルニ、コノ郷東ハ神崎郷ニ隣リ、西ハ倭文郷ニ接シ、南ハ那珂郡ノ界ニ至リ、北ハ久慈川ニ淮リテ、南北酒出、門部、磯崎、中岡、中里、豊喰、飯田、福田、鴻巣ノ十村、七千七百余石ノ地、皆古ノ木前郷ナリ」とあり、瓜連地域は倭文郷と木前郷の一部にまたがっている地域とみられている²⁰⁾。この地域で確認されている集落跡は、鹿島台遺跡で奈良・平安時代の堅穴建物跡 11 軒²¹⁾、権現下遺跡で古墳～平安時代後期の堅穴建物跡 33 軒²²⁾、西坪井遺跡（旧下村田遺跡）〈12〉で奈良・平安時代の堅穴建物跡 17 棟が確認されている²³⁾。また出土遺物では、権現下遺跡から鉄製紡錘車の紡輪部や滑石製で上面に鋸齒文が線刻されている石製紡錘車、「□東日」「太倉」「東一」「餅」「田」「子粟□羊」などの墨書・箋書土器が 12 点出土している²⁴⁾。鹿島台遺跡では、「寺」「高月郷」「高」などの墨書土器が 9 点出土している。「寺」の墨書土器から私度僧の存在や村落内寺院の存在の可能性が指摘されている²⁵⁾。また、「高月郷」の墨書土器からは、「倭名類聚抄」によると「箕月」を「高月」とし²⁶⁾、「新編常陸国誌」では「箕月」の誤写とし、「箕月ヲ以テ名トスルモノハ、即水城ノ意」としており²⁷⁾、水城とは現在の日立市水木であり、倭文郷と高月（密月）郷の交流をうかがわせる墨書土器である²⁸⁾。常陸大宮市下村田小中遺跡では、石製・土製紡錘車や「中子」「曰□里（屋）」「子子」「□□」「千万」「六万」「万合」「丈」「曹」などの墨書土器が 34 点出土している。また「丈」の焼印（烙印）も出土しており、印面の大きさから牛

馬などに押すための焼印と考えられ、小規模な公牧あるいは私的な牧の存在が考察されている²⁹⁾。また、現在は常陸太田市薬谷町に所在する久慈郡家に比定されている長者屋敷遺跡あたりが田後駅とされているが³⁰⁾、『増補大日本地名辞書』では、那珂市下大賀や静、常陸大宮市下村田付近が田後駅にあたるとしており³¹⁾、焼印との関連性もうかがえる。

南北朝時代になると、常陸の南朝方拠点として、楠木正成の代官として遣わされた楠木正家が瓜連城を築き、北朝方の将、佐竹の軍勢と久慈川を挟んで対峙した。瓜連城は常福寺境内を本丸とし、旧町域をほぼ含む東西南北にそれぞれ700mほどで、現在は土堤、土壘、内堀が残っている³²⁾。瓜連城落城後、了実上人が草地山³³⁾延葉院常福寺を開山し、二世了實上人によって現在の地に常福寺が再建された。その後佐竹氏・江戸氏の保護を受けて発展した。さらに江戸期には、徳川家康から百石の寺領が与えられ、早くから檀林として格付けされ、寛永十二（1635）年には、当寺は常陸国の大淨土宗の總本山となり、近隣の人々より厚い信仰を受け現在に至っている³⁴⁾。

本文中の〈 〉内の番号は、表1及び第1図の該当番号と同じである。

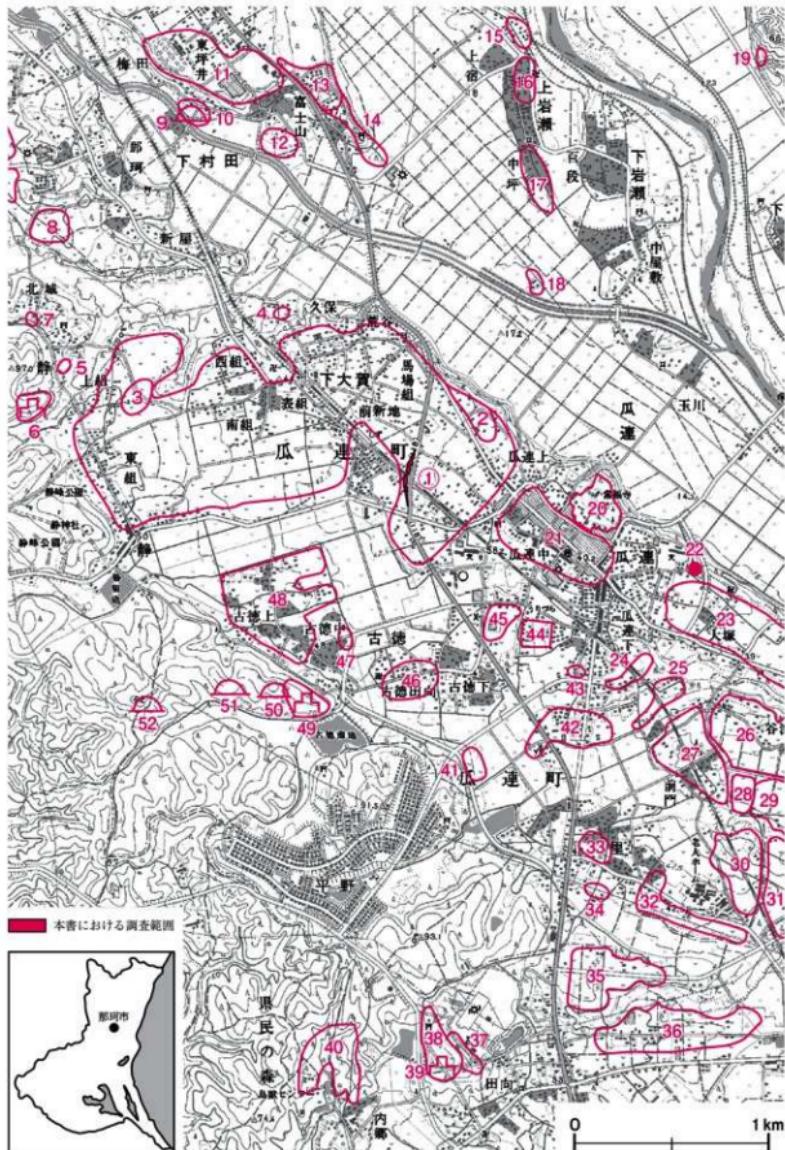
註

- 1) 瓜連町史編さん委員会「瓜連町史」瓜連町 1985年7月
- 2) 茨城県教育庁文化課編「茨城県道路地図」茨城県教育委員会 2001年3月
- 3) 藤原均・加藤雅美「茨城県那珂市十林寺古墳群第1号墳・下大賀遺跡内埋蔵文化財調査報告書」那珂市教育委員会・常陸考古学研究所 2007年2月
- 4) 川崎純徳他「額田大宮遺跡」那珂町史編さん委員会 1978年3月
- 5) 加藤雅美他「一般国道349号道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書」北郷C遺跡・森戸遺跡」「茨城県教育財团文化財調査報告」第55集 1990年3月
- 6) 千種重樹「山王原遺跡」県営那珂北部畠地帯総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」那珂町教育委員会 2000年3月
- 7) 註1) に同じ。
- 8) 註1) に同じ。
- 9) 註1) に同じ。
- 10) 橫倉要次「那珂郡瓜連町下大賀遺跡採集の弥生土器について」『茨城県考古学協会誌』第13号 2001年5月
- 11) 橫倉要次「那珂郡瓜連町二ツ堂遺跡採集の弥生土器について」『要良岐考古』第18号 1996年5月
- 12) 橫倉要次「那珂郡瓜連町大塚遺跡採集の弥生土器と紡錘車・石器について」『要良岐考古』第17号 1996年5月
- 13) 加藤雅美他「瓜連城跡地内埋蔵文化財発掘調査報告書」No.1～No.4地点」瓜連町教育委員会 1996年3月
- 14) 渡邊清実「上岩瀬富士山遺跡 17国補道改第17-03-068-0-053号埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財团文化財調査報告」第260集 2006年3月
- 15) 註3) に同じ。
- 16) 註1) に同じ。
- 17) 宮崎剛「鹿島台遺跡 保土通遺跡 都市計画道路平野杉木線道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財团文化財調査報告」第356集 2012年3月
- 18) 註1) に同じ。
- 19) 茨城県立歴史館編「茨城県史料 古代編」茨城県 1968年3月
- 20) 中山信名著・栗田寛輔訂「新編常陸國誌」宮崎報恩会 1969年
- 21) 註17) に同じ。
- 22) 藤原均「茨城県那珂郡瓜連町椎現下遺跡調査報告書」瓜連町教育委員会 2002年3月

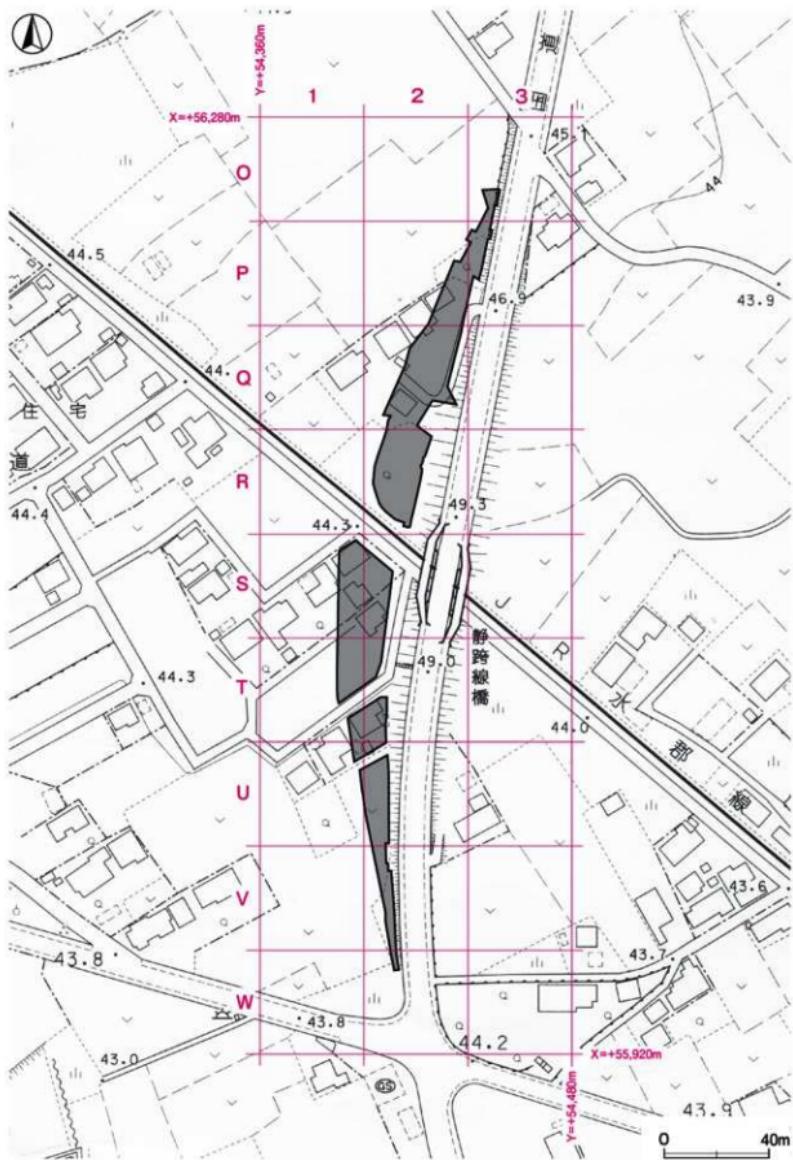
- 23) 荒井保雄「一級河川玉川改修工事地内埋蔵文化財調査報告書 下村田遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第110集
1996年3月
- 24) 註22)と同じ。
- 25) 註17)と同じ。
- 26) 註20)と同じ。
- 27) 註20)と同じ。
- 28) 註17)と同じ。
- 29) 大宮町教育委員会「上村田小中遺跡」大宮町教育委員会 1988年3月
- 30) 古代交通研究会「日本古代道路事典」八木書店 2004年5月
- 31) 吉田東伍「増補大日本地名辞書」第6巻 坂東 富山房 1970年6月
- 32) 註1)と同じ。
- 33) 註1)と同じ。

表1 下大賀遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	下大賀遺跡	○	○	○	○	○	○	○	27	高後遺跡	○	○	○	○	○	○
2	十林寺古墳群			○					28	榎戸遺跡				○		
3	新宿古墳群			○					29	八石遺跡	○	○	○	○		
4	久保遺跡				○	○			30	孫目遺跡	○	○	○	○	○	
5	滝前遺跡	○							31	中丸遺跡	○		○	○		
6	城菩提城跡					○			32	前谷津遺跡	○		○	○		
7	上坪遺跡				○				33	飛内遺跡	○	○	○	○		
8	堂山A遺跡		○	○	○				34	十文字遺跡				○		
9	念佛塚						○		35	戸崎井尻遺跡			○	○		
10	念佛塚遺跡			○					36	戸崎木戸遺跡	○		○	○		
11	坪井上遺跡	○	○	○	○				37	台久保遺跡	○	○	○	○	○	
12	西坪井遺跡(下大村田遺跡)		○	○	○				38	戸崎鹿鳥神社前遺跡	○	○	○	○	○	
13	上岩瀬富士山遺跡		○	○	○				39	戸崎鹿鳥館跡				○		
14	富士山古墳群			○					40	椿遺跡	○		○			
15	川岸遺跡				○				41	樅現下遺跡	○		○			
16	岩瀬城跡	○			○	○			42	野田遺跡	○	○	○	○	○	○
17	上岩瀬中坪遺跡				○	○			43	西室家遺跡	○	○	○	○	○	
18	本宮遺跡	○		○	○				44	水戸海道遺跡	○	○	○	○	○	
19	二階穴(横穴)			○					45	辻後遺跡	○	○	○	○	○	
20	瓜連城跡					○			46	田向遺跡	○		○	○		
21	瓜連遺跡	○	○	○		○	○		47	新屋遺跡			○	○		
22	大塚古墳				○				48	中坪遺跡	○		○	○	○	
23	鹿鳥台遺跡	○	○	○	○	○	○		49	古徳城跡				○		
24	保土通遺跡				○	○	○		50	小屋塚				○		
25	熊ノ堂遺跡	○	○	○	○	○			51	前長田塚群				○		
26	谷津向遺跡	○	○	○	○				52	中山塚				○		



第1図 下大賀遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000分の1「常陸大宮・石塚」）



第2図 下大賀遺跡調査区設定図（那珂市都市計画図 2,500 分の 1 から作成）

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

下大賀遺跡は、那珂市の北部に位置し、玉川右岸の標高約43mの台地上に立地している。当遺跡は東西2.3km、南北1kmの広大な範囲が指定されており、今回報告する調査区域はその東部にあたる。調査面積は3,734m²で、調査前の現況は畠地及び宅地である。

調査の結果、陥穴2基（繩文時代）、堅穴建物跡5棟（平安時代）、井戸跡1基（平安時代）、火葬施設1基（時期不明）、土坑59基（時期不明）、溝跡18条（時期不明）、道路跡1条（時期不明）、ピット群6か所（時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に14箱出土している。主な遺物は、土師器（壺・高台付杯・高台付碗・高台付皿・鉢・甕・瓶）、須恵器（壺・蓋・甕）、灰釉陶器（碗）、綠釉陶器（碗）、陶器（甕）、土製品（管状土錘・支脚・紡錘車）、石器（砥石）、石核、剥片、金属製品（刀子・紡錘車）などである。

第2節 基本層序

調査区中央部（R-2c2区）の台地平坦部にテストピットを設定し、基本土層（第3図）の観察を行った。

第1層は、黒褐色を呈する耕作土である。層厚は70～80cmである。

第2層は、褐色を呈するローム層への漸移層である。白色粒子を多量、赤色粒子を少量含み、粘性・締まりとともに普通で、層厚は14～24cmである。今市・七本桜軽石層である。

第3層は、褐色を呈するソフトローム層である。白色粒子を少量、赤色粒子を微量含み、粘性・締まりとともに普通で、層厚は4～10cmである。

第4層は、褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりとともに普通で、層厚は34～36cmである。

第5層は、明黄褐色を呈するハードローム層である。

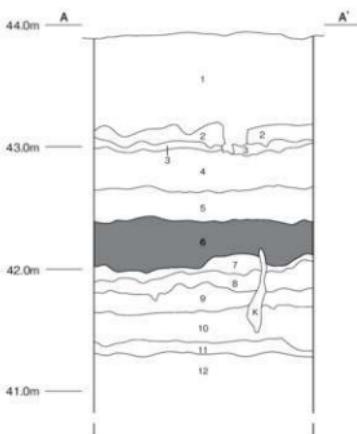
粘性・締まりとともに強く、層厚は23～30cmである。

第6層は、にぶい褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとともに強く、層厚は28～44cmである。第II黒色帯と考えられる。

第7層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとともに強く、層厚は5～16cmである。

第8層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。鹿沼軽石粒子を少量含み、粘性・締まりとともに強く、層厚は7～25cmである。鹿沼軽石層への漸移層である。

第9層は、黄褐色を呈する鹿沼軽石層である。粘性は強く、締まりは普通で、層厚は12～22cmである。



第3図 基本土層図

第10層は、褐色を呈するハードローム層である。砂質粒子を微量に含み、粘性は強く、締まりは普通で、層厚は21～35cmである。

第11層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性は強く、締まりは普通で、層厚は5～14cmである。

第12層は、黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強い。層厚は38cmまで確認したが、下部は未掘のため不明である。

造構は、第2層上面で確認できた。

第3節 遺構と遺物

1 繩文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、陥し穴2基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

陥し穴

第1号陥し穴（第4図）

位置 調査B区南部のT 1 d8区、標高43mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.70m、短径1.00mの楕円形で、

長径方向はN-88°-Eである。深さは88cmで、底面はほぼ平坦である。短径の断面はU字状を呈している。

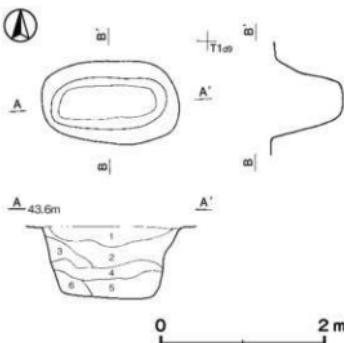
覆土 6層に分層できる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

1	黒	色	砂粒少量、ロームブロック微量
2	暗	褐色	砂粒中量、ロームブロック・七本桜軽石粒子微量
3	褐	暗褐色	ロームブロック少量
4	暗	褐色	ロームブロック中量
5	黒	褐色	ロームブロック微量、七本桜軽石粒子・砂粒微量
6	褐	褐色	ロームブロック微量

所見 時期は、出土遺物がないため明確ではないが、

形状から縄文時代と考えられる。



第4図 第1号陥し穴実測図

第2号陥し穴（第5図）

位置 調査A区北部のT 2 i1区、標高43mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.68m、短軸0.58mの隅丸長方形で、

長軸方向はN-55°-Wである。深さは74cmで、底面はほぼ平坦である。短軸の断面はV字状を呈している。

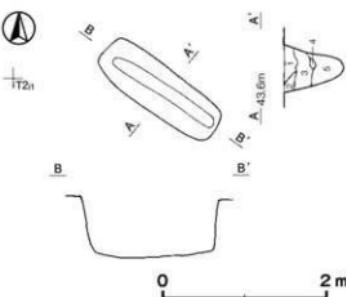
覆土 5層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	黒	色	ロームブロック中量
2	暗	褐色	ロームブロック少量
3	にぶ	黄褐色	ローム粒子微量
4	褐	色	ロームブロック少量
5	褐	褐色	ローム粒子少量

所見 時期は、出土遺物がないため明確ではないが、

形状から縄文時代と考えられる。



第5図 第2号陥し穴実測図

表2 繩文時代陥し穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	側 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	T 1 d8	N - 88° - E	楕円形	1.70 × 1.00	88	平底	外傾	人骨		
2	T 2 ii	N - 55° - W	隅丸長方形	1.68 × 0.58	74	平底	外傾	人骨		

2 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡5棟、井戸跡1基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡（第6・7図）

位置 調査C区北部のP 3el区、標高43mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 東部が調査区域外に延びているため、南北軸は3.34mで、東西軸は2.92mしか確認できなかった。平面形は方形もしくは長方形と推定できる。竪の付設位置を東壁と推測すると、主軸方向はN - 85° - Eである。壁は高さ10~15cmで、ほぼ直立している。

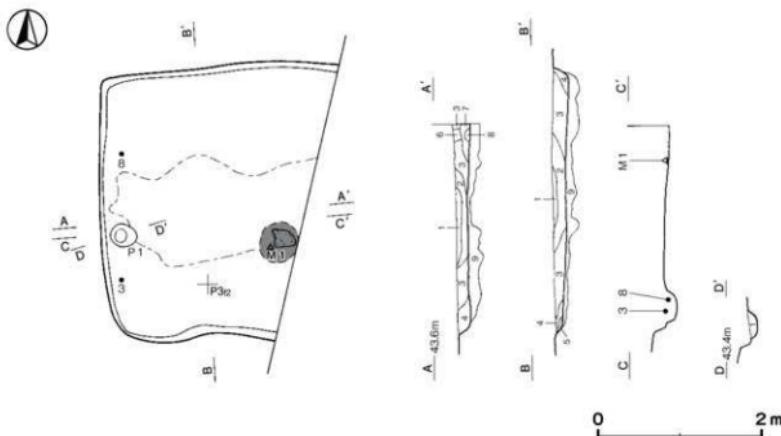
床 平坦な貼床で、北側と南側を除く中央部が踏み固められている。貼床は、ロームブロックを含んだ第9層を埋土して構築されている。

ピット P 1は深さ12cmで、西壁際のほぼ中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

土層解説

1 基 桂 色 ロームブロック・焼土ブロック少量

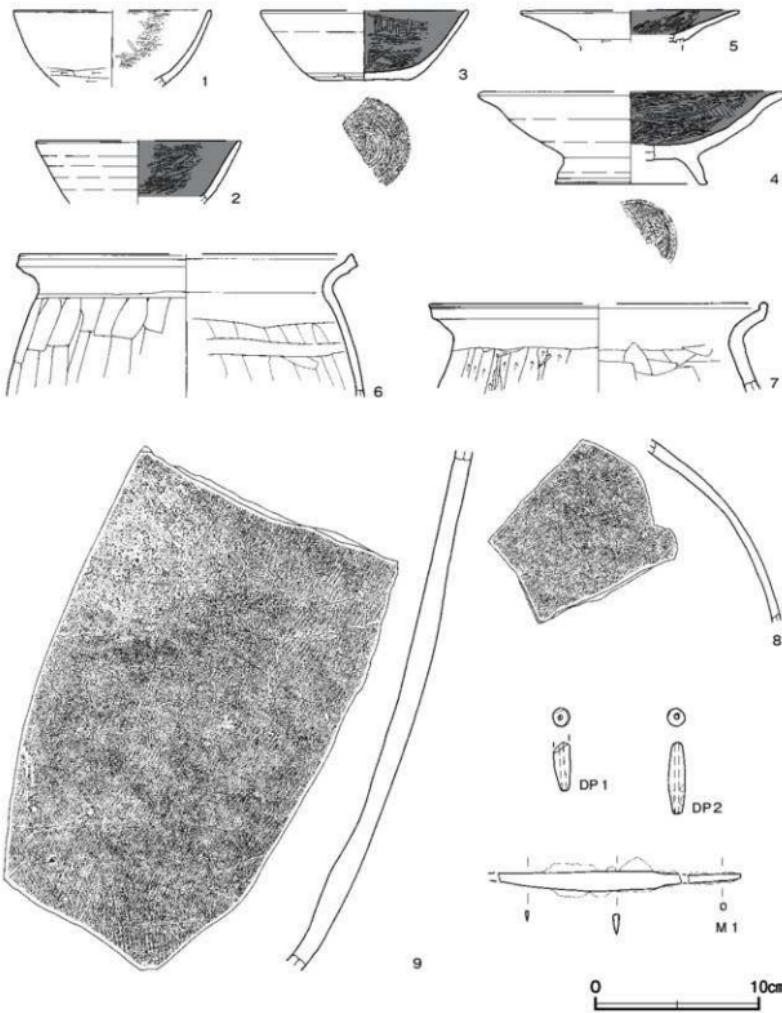
覆土 8層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第9層は、貼床の構築土である。



第6図 第1号竪穴建物跡実測図

土層解説

- | | | | |
|---------|-----------|---------|------------------|
| 1 黒 色 | ローム粒子微量 | 6 灰 色 | 粘土ブロック中量 |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック中量 | 7 黒 色 | ロームブロック少量、粘土粒子微量 |
| 3 黒 褐 色 | ロームブロック少量 | 8 黒 褐 色 | ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 4 黒 褐 色 | ロームブロック微量 | 9 黒 褐 色 | ロームブロック中量、粘土粒子微量 |
| 5 黒 褐 色 | ローム粒子微量 | | |



第7図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 98 点（坏類 26、高台付皿 2、甕類 70）、須恵器片 11 点（坏 2、甕 9）、土製品 2 点（管状土錘）、金属製品 1 点（刀子）が、全域の覆土上層から床面にかけて出土している。3 及び M 1 は、床面からそれぞれ出土していることから、廃絶時に廢棄されたものとみられる。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀後葉に比定できる。

第 1 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 7 図）

番号	種 別	器種	口径	高さ	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴	出土地点	備 考
1	土師器	坏	[120]	(47)	-	長石・石英・ 雲母・針状物質	棕	普通 乾燥	体部外下面下端手持ちへラ削り 内面横枝のヘラ 削き	覆土中	20%
2	土師器	坏	[124]	(39)	-	長石・石英	明赤褐	普通	内面へラ削き	覆土中	20%
3	土師器	坏	[127]	4.4	[5.8]	長石・石英・ 赤色粒子	に赤い粉	普通	体部外下面下端回転へラ削り 内面へラ削き 廃 部回転へラ削り	床面	30% PL 6
4	土師器	高台付皿	[190]	57	92	長石・石英・ 赤色粒子	に赤い粉	普通	内面へラ削き 底部回転へラ削り後高台貼付	覆土中	40% PL 7
5	土師器	高台付皿	[13.4]	(20)	-	長石・石英・ 赤色粒子	に赤い粉	普通	体部外下面下端回転へラ削り 内面へラ削き	覆土中	10%
6	土師器	甕	[204]	(88)	-	長石・石英・ 赤色粒子	明赤褐	普通	「焼造部～調節部外・内面無ナデ」 体部外表面の ハラナデ 体部内面へナデ後ロコロナデ	覆土中	20% PL 7
7	土師器	甕	[207]	(55)	-	長石・石英・ 赤色粒子	棕	普通	「焼造部～調節部外・内面無ナデ」 体部外表面の ハラナデ 内面へラ削き	覆土中	5%
8	須恵器	甕	-	(113)	-	長石・石英	褐	普通	内面ナデ	床面	5%
9	須恵器	甕	-	(320)	-	長石・石英・鐵	黄灰	普通	体部外面前方向の平行摩き 内面無文の当て具痕	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	胎 土	特 徴	出土地点	備 考
DP 1	管状土錘	(30)	1.0	0.2	(24)	長石・石英	一部欠損 ナデ 一方から穴孔	覆土中	PL10
DP 2	管状土錘	4.4	1.1	0.2	4.4	長石	ナデ 一方から穴孔	覆土中	PL10

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土地点	備 考
M 1	刀子	(146)	1.2	0.4	(15.1)	鐵	刃部・茎部一部欠損 刃部断面三角形 茎部断面長方形	床面	PL10

第 2 号竪穴建物跡（第 8・9 図）

位置 調査 C 区北部の P 2 e0 区、標高 43 m はどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 88 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 330 m、短軸 3.03 m の方形で、主軸方向は N - 20° - W である。壁は高さ 26cm で、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。全体に暗褐色を主体とする第 9 層を埋土して構築されている。

竈 北西壁のはば中央に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 116cm で、燃焼部幅は 58cm である。袖部は、地山を掘り残した部分に粘土ブロックを少量含んだ黒褐色土の第 12・13 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を若干掘りくぼめており、火床面は赤変硬化していない。煙道部は壁外へ三角形状に奥行き 39cm、幅 69cm 掘り込み構築されている。

竈土層解説

1	黒 褐 色	ロームブロック少量	8	楕円赤褐色	燒土ブロック少量、ロームブロック微量
2	に赤い黃褐色	燒土ブロック・粘土ブロック少量、ロームブロック ケ闊量	9	暗 褐 色	粘土粒子少量、燒土粒子微量
3	黒 色	燒土ブロック・粘土粒子微量	10	暗 褐 色	燒土ブロック・ローム粒子少量
4	極 暗 褐 色	ロームブロック・燒土ブロック少量	11	暗 褐 色	燒土ブロック・炭化物少量
5	黒 褐 色	ローム粒子・燒土粒子少量	12	黒 褐 色	粘土ブロック少量、ロームブロック・燒土ブロッ ク微量
6	灰 褐 色	燒土ブロック・粘土粒子少量、ローム粒子微量	13	黒 褐 色	燒土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量、ロー ム粒子微量
7	黒 褐 色	ローム粒子少量			

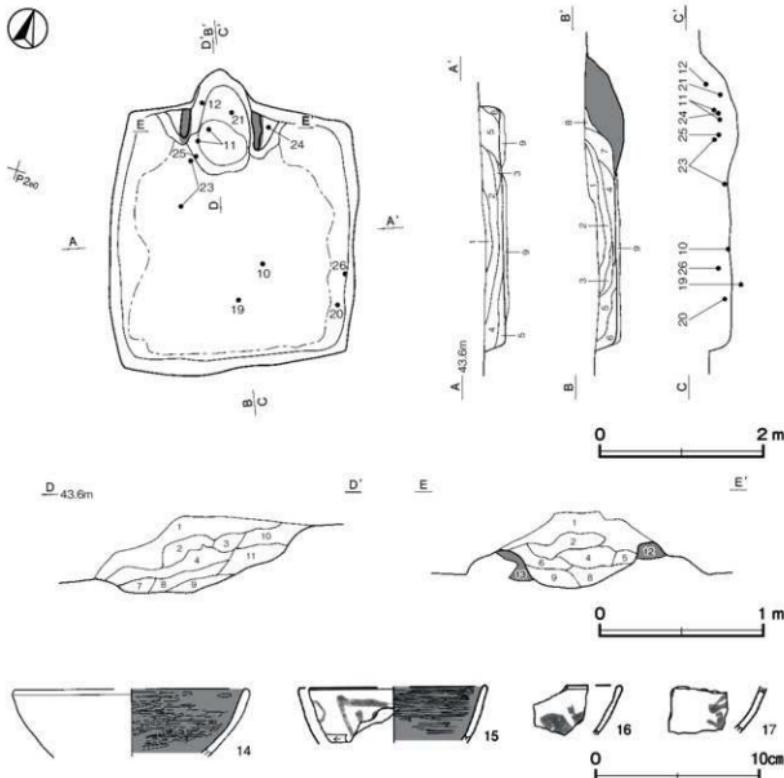
覆土 8層に分層できる。多くの層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。第9層は、貼床の構築土である。

土層解説

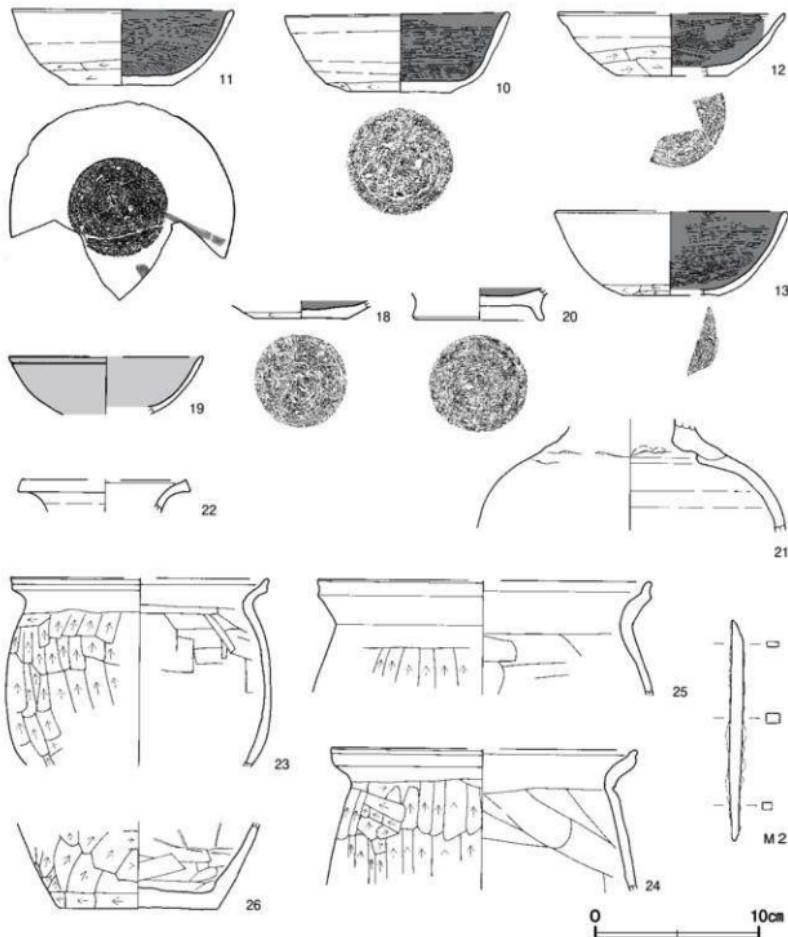
1 黒 色	粘土ブロック・ローム粒子微量	5 暗 紺 色	ロームブロック少量、焼土粒子・粘土粒子微量
2 黒 緑 色	ロームブロック少量、焼土粒子・粘土粒子微量	6 暗 褐 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 黒 緑 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒 緑 色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
4 暗 緑 色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土粒子	8 黒 緑 色	ローム粒子・焼土粒子微量
	子・炭化粒子微量	9 暗 緑 色	ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片 403 点(坏類 137、高台付椀 1、壺類 265)、須恵器片 33 点(坏 6、瓶 2、壺類 25)、綠釉陶器片 1 点(碗)、土製品 1 点(管状土錐)、金属製品 1 点(不明)が、竪から南東部にかけての覆土中層から下層を中心に出土している。10は中央部の床面から出土していることから、廃絶時に遺棄されたものとみられる。11・21・24・25は、竪の覆土中層から下層にかけて出土していることから、埋戻しの過程で投棄されたか流れ込んだものとみられる。

所見 時期は、出土土器から 9世紀後葉に比定できる。



第8図 第2号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第9図 第2号竪穴建物跡出土遺物実測図

第2号竪穴建物跡出土遺物観察表（第8・9図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
10	土師器	环	140	49	64	長石、石英、赤色粒子、細纖維	に赤い模様	普通	体部外面下端手持ちへラ削り 内面へラ磨き 底部斜面へラ切り後へラナダ	床面	95% PL 6
11	土師器	环	137	47	64	長石、石英、赤色粒子、細纖維	褐色	普通	体部外面下端手持ちへラ削り 底部斜面へラ削り 体部外側墨書き	発土中層	60% PL 6・9
12	土師器	环	[140]	39	[68]	長石、石英、赤色粒子	に赤い模様	普通	体部外面下端手持ちへラ削り 内面へラ磨き 底部斜面へラ削り	発土上層	30%
13	土師器	环	[142]	52	[58]	長石、石英	に赤い模様	普通	体部外面下端手持ちへラ削り 内面へラ磨き 底部斜面へラ削り	覆土中	30%
14	土師器	环	[142]	(41)	-	長石、石英、赤色粒子	に赤い模様	普通	内面へラ磨き	覆土中	20%
15	土師器	环	[115]	(34)	-	長石、石英、赤色粒子	に赤い模様	普通 体部外面下端手持ちへラ削り	内面へラ磨き 底部斜面へラ削り	覆土中	10% PL 9

番号	種別	器種	口径	縦高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
16	土師器	环	-	(3.1)	-	長石・石英	に赤い模様	普通	内面へラ磨き 体部外表面墨書「田ヶ口」	覆土中	5% PL 9
17	土師器	环	-	(2.9)	-	長石・石英、赤色粒子	に赤い模様	普通	内面へラ磨き 体部外表面墨書「口」	覆土中	5% PL 9
18	土師器	环	-	(1.1)	5.7	長石・石英、赤色粒子	模様	普通	胎部外側へ輪回転へラ削り 内面へラ磨き 底部回転へラ削り	底部	覆土中 10%
19	縁付陶器	碗	[11.8]	(3.6)	-	長石	オリーブ灰	普通 外・内面施釉	貼床構造土 傷陥発見	10% PL 7	
20	土師器	高台付碗	-	(2.0)	8.0	長石・石英、赤色粒子	に赤い模様	普通	内面へラ磨き 底部回転へラ削り後高台付	覆土下層	20%
21	領悶器	瓶	-	(6.9)	-	長石・石英	灰黄褐	普通 外・内面クロロナデ 胎部外表面 ハ内面施釉	胎部外表面 ハ内面施釉	10% PL 7	
22	冠悶器	長颈瓶	[10.0]	(2.0)	-	長石・石英	黒	普通 外・内面クロロナデ		覆土中 5%	
23	土師器	甕	[15.6]	(11.6)	-	長石・石英、赤色粒子・雜	模様	口縁部一帯外・内面施ナデ 体部外表面墨書のハラ削り	胎土下層	20% PL 8	
24	土師器	甕	[18.6]	(8.7)	-	長石・石英、赤色粒子・雜	模様	口縁部・内面横ナデ 体部外表面墨書のハラ削り	胎土中層	20%	
25	土師器	甕	[20.3]	(7.0)	-	長石・石英	に赤い模様	普通 外・内面へラ磨き 体部外表面墨書のハラ削り	胎土中層	10%	
26	土師器	甕	-	(5.4)	9.8	長石・石英、赤色粒子・素母	模様	胎部外表面墨書のハラ削り 内面へラナデ 底部 ハラ削り	胎土中層	20%	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 2	不明	13.7	0.8	0.2~0.6	292	鉄	断面長方形 鉄鋸切	覆土中	PL10

第3号竪穴建物跡（第10～12図）

位置 調査C区北部のP 3 b2区。標高43mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第15号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸320m、短軸315mの方形で、主軸方向はN-75°-Eである。壁は高さ17~27cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、土坑状に掘りくぼめた部分に、第10~23層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 東壁やや南寄りに付設されている。煙道部の一部が調査区域外に延びているため、規模は焚口部から煙道部までは96cmしか確認できなかった。燃焼部幅は54cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、粘土ブロックを主体とする第17~21層を積み上げて構築されている。火床部は9cm掘りくぼめて第15~16層を埋土して利用しており、火床面は赤変硬化していない。燃焼部と煙道部は壁外に三角形状に奥行39cm、幅102cm掘り込み構築されている。

竈土層解説

1	黒褐色	粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック少微量	11	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量
2	黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量、ロームブロック少微量	12	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量
3	褐灰オーリーブ色	粘土ブロック少量、ロームブロック微量	13	黒褐色	粘土ブロック少量、焼土ブロック・ローム粒子微量
4	灰オーリーブ色	粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック・灰化粧子微量	14	黒褐色	粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック・灰化粧子微量
5	黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量	15	暗赤褐色	灰中量、焼土ブロック少量
6	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、粘土粒子微量	16	灰褐色	灰中量、焼土ブロック少量、炭化物・ローム粒子微量
7	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量	17	灰オーリーブ色	粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粧子微量
8	黒褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・粘土ブロック・灰化粧子少量	18	黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量
9	黒褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化物・ローム粒子微量	19	黒褐色	ロームブロック少量、粘土粒子微量
10	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化物・ローム粒子微量	20	オリーブ褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
			21	黒褐色	ロームブロック・粘土粒子少量、焼土ブロック微量

ピット 2か所。P 1は深さ14cmで、西壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 2は深さ16cmで、性格不明である。

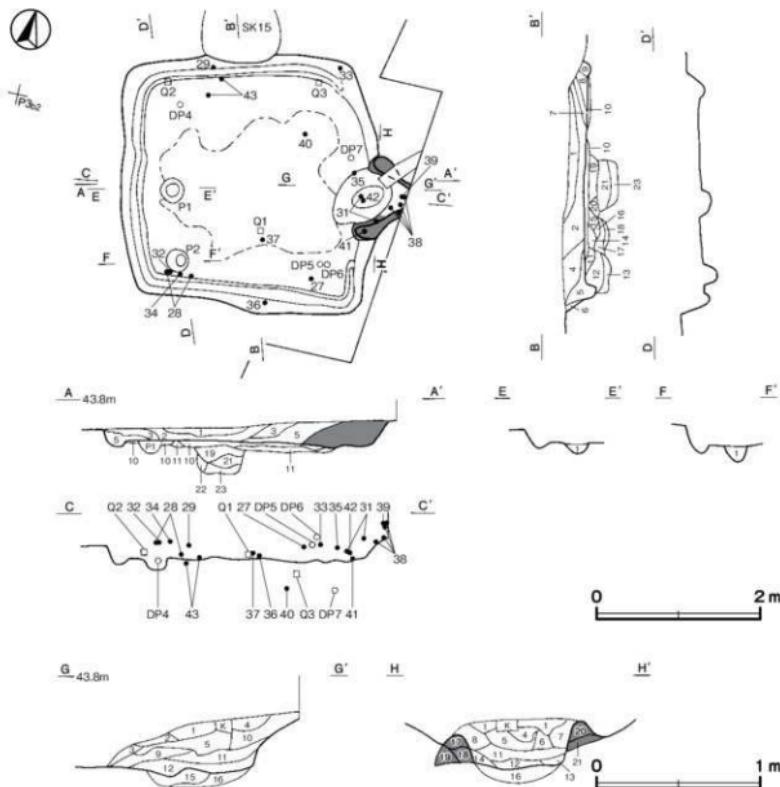
ピット土層解説（各ピット共通）

1	黒褐色	ロームブロック微量
---	-----	-----------

覆土 9層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれており、埋め戻されている。第10～23層は貼床の構築である。

十一

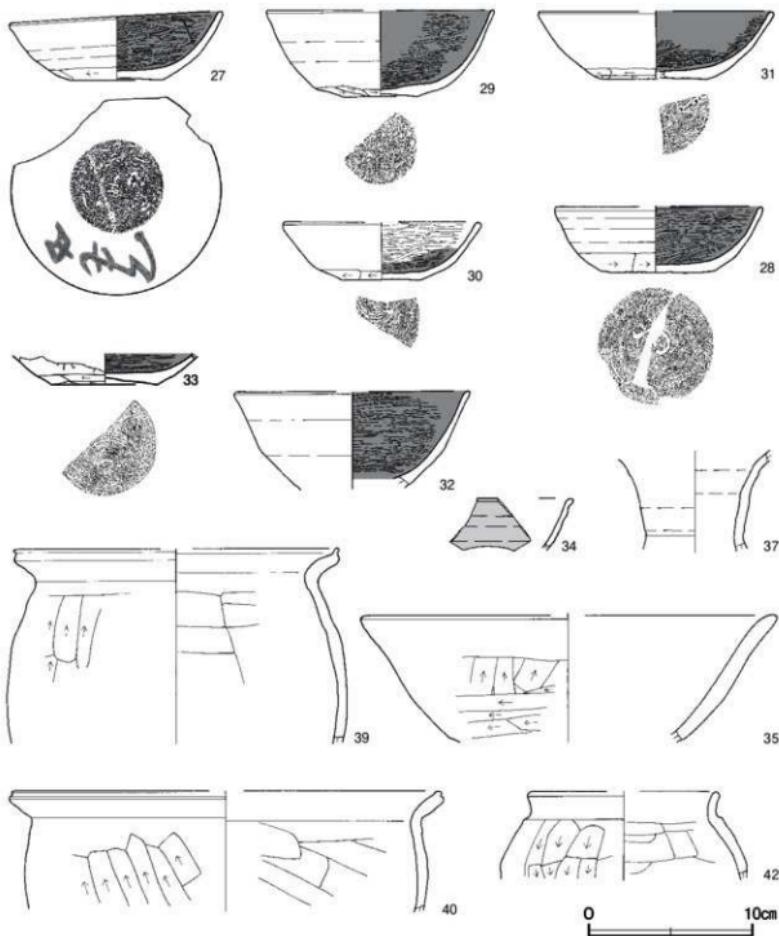
- | 上層腐殖 | 黒褐色 | ロームブロック微量 | 12 | 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
|------|--------|---------------------------|----|-----|-----------------------------|
| 2 | 黒褐色 | 焼土ブロック、粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒微量 | 13 | 灰褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 3 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量、炭化物微量 | 14 | 暗褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量 |
| 4 | 黒褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量 | 15 | 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 5 | 暗褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、粘土ブロック微量 | 16 | 黑褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 6 | にぶい黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 17 | 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 7 | 暗褐色 | ロームブロック微量 | 18 | 褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 8 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 19 | 黑褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 9 | にぶい黄褐色 | ロームブロック微量 | 20 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 10 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 21 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 11 | 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 22 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| | | | 23 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |



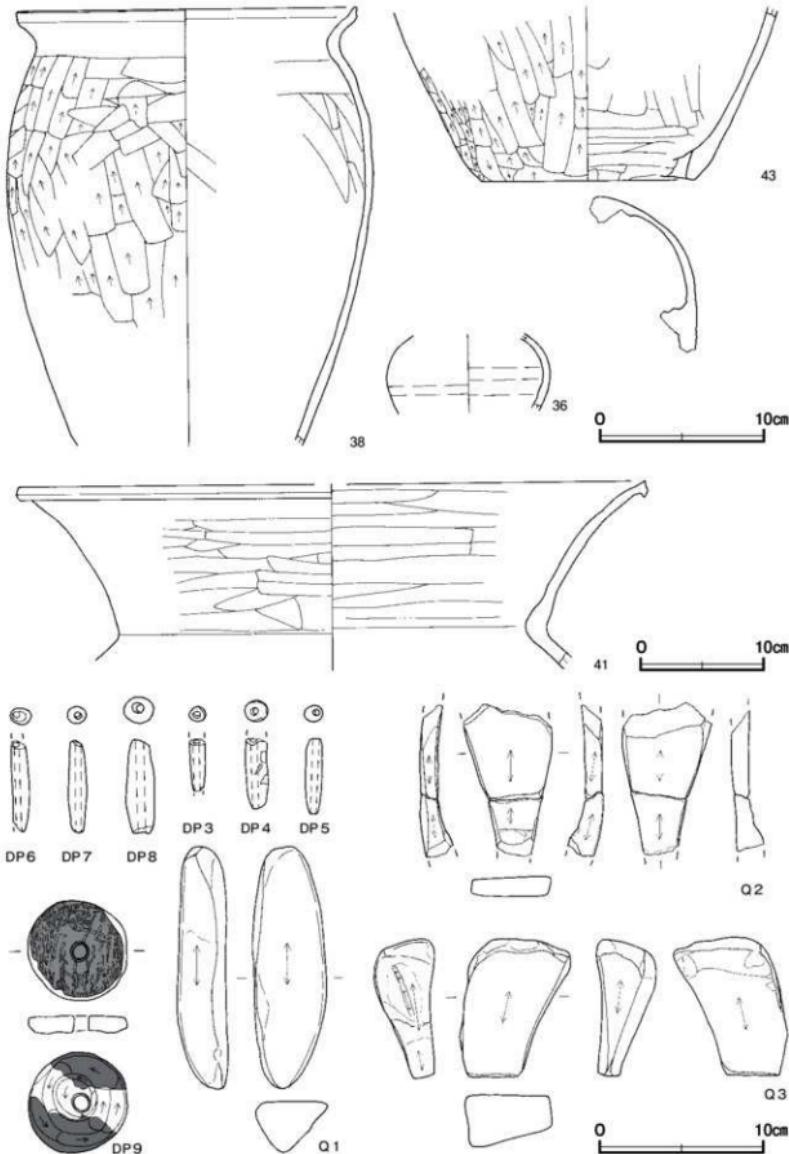
第10図 第3号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 320 点（坏類 69、鉢 1、甕類 249、瓶 1）、須恵器片 61 点（坏 2、壺 1、瓶 1、甕類 57）、灰釉陶器片 1 点（椀）、土製品 10 点（管状土錘 7、支脚 1、紡錘車 1、不明 1）、石器 3 点（砥石）が、全城の覆土上層から中層を中心に出土している。43 は北部中央の床面から、31・38 は竈煙道部、火床面からそれぞれ出土していることから、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。28 は南西コーナー部、36 は南央部壁寄り、37・Q 1 は中央部南の覆土下層から出土していることから、廃絶後の埋め戻しの過程で投棄されたか流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀後葉に比定できる。



第 11 図 第 3 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第12図 第3号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第3号竪穴建物跡出土遺物観察表（第11・12図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
27	土師器	环	128	4.3	5.7	長石・石英・赤色粒子	に古い黄褐色	普通	体部外表面手持ちヘラ削り 内面ヘラ削き 砕	覆土上層	90% PL 6・9
28	土師器	环	[128]	4.1	7.1	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部外表面手持ちヘラ削り 内面ヘラ削き 砕 底部削除	覆土下層	50% PL 6
29	土師器	环	[139]	5.3	4.6	長石・石英	に古い黄褐色	普通	体部外表面手持ちヘラ削り 内面ヘラ削き 砕 底部削除	覆土上層	40%
30	土師器	环	[120]	3.6	[4.8]	長石・石英・赤色粒子	に古い褐色	普通	体部外表面手持ちヘラ削り 内面ヘラ削き 砕 底部削除	貼床構造土	20%
31	土師器	环	[144]	4.2	[6.4]	長石・石英	に古い黄褐色	普通	体部外表面手持ちヘラ削り 内面ヘラ削き 砕 底部削除	露覆土中層	20%
32	土師器	环	[142]	6.0	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通 内面ヘラ削き		覆土上層	20%
33	土師器	环	-	(2.0)	6.5	長石・石英・赤色粒子	に古い黄褐色	普通	体部外表面手持ちヘラ削り 内面ヘラ削き 砕 底部削除	覆土上層	30% PL 9
34	灰陶陶器	桶	-	(3.2)	-	-	灰白	普通	外・内面クロナダ 外面施釉	覆土上層	10% 残肢発見
35	土師器	鉢	[252]	(7.8)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナダ 体部外表面窓のヘラ削 底部削除	露覆土上層	10%
36	須恵器	壺	-	(4.8)	-	長石	灰黄	普通 外・内面クロナダ 体部外表面自然落	露覆土上層	5%	
37	須恵器	長颈瓶	-	(6.3)	-	長石・石英	黒	不良 外・内面クロナダ		露土下層	5%
38	土師器	甕	21.0	(26.9)	-	長石・石英・赤色粒子	に古い橙	普通	口縁部外・内面横ナダ 体部外表面窓のヘラ削 底部削除	露覆土下層～中層	50% PL 8
39	土師器	甕	[20.0]	(12.0)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナダ 口縫部つまみあげ	露覆土上層	20%
40	土師器	甕	[26.0]	(7.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナダ 体部外表面窓のヘラ削 底部削除	貼床構造土	5%
41	須恵器	甕	[51.5]	(15.3)	-	長石・石英	橙	普通 口縁部一頭部外・内面ヘラナダ		露覆土下層	5% PL 8
42	土師器	小形甕	[115]	(5.5)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナダ 体部外表面窓のヘラ削 底部削除	露覆土上層	5%
43	土師器	瓶	-	(10.7)	[132]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通 体部外表面窓のヘラ削り 内面ヘラナダ	床面	20% PL 8	

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 3	管状土錐	(33)	1.0	0.4	(2.7)	長石・石英	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	露土中	PL10
DP 4	管状土錐	(4.4)	1.4	0.5	(6.9)	長石・石英	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	貼床構造土	PL10
DP 5	管状土錐	4.6	1.1	0.3	4.9	長石・石英・針状物質	ナデ 一方向からの穿孔	露土上層	PL10
DP 6	管状土錐	(5.6)	1.2	0.3	(6.8)	長石・石英・針状物質	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	露土上層	PL10
DP 7	管状土錐	5.7	1.1	0.4	6.7	長石・石英・針状物質	ナデ 一方向からの穿孔	貼床構造土	PL10
DP 8	管状土錐	5.8	1.8	0.5	14.7	長石・石英・赤色粒子・纏	ナデ 一方向からの穿孔	露土中	PL10
DP 9	鉢織草	6.1	6.1	1.0	50.1	長石・石英・赤色粒子・纏	土師器環軸用 鉢部外表面ヘラ削り 内面ヘラ削き 繩面削り 出し 繩付着	露土中	PL10

第4号竪穴建物跡（第13・14図）

位置 調査C区北部のP 3 b1区、標高43mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 東から南東コーナー部にかけて耕作により擾乱されているが、長軸3.26m、短軸3.02mの方形で、主軸方向はN-87°-Eである。壁は高さ17~23cmで、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竪 東壁中央部に付設されている。煙道部の一部及び右袖部分にかけて擾乱があり、竪部分の覆土は、遺構確認面から15~24cm下層で確認できた。火床面は赤面硬化しておらず、焚口部とともに不明確である。

竪土解説

- 1 暗褐色 桃土ブロック少量、ロームブロック微量
- 2 暗褐色 桃土ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・桃土粒子少量

- 4 底褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量

ピット 3か所。P 1は深さ20cm、P 2は深さ13cmで主柱穴の可能性が考えられる。P 3は深さ13cmで、西壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）
1 黒褐色 ローム粒子微量

2 黑褐色 ロームブロック少量

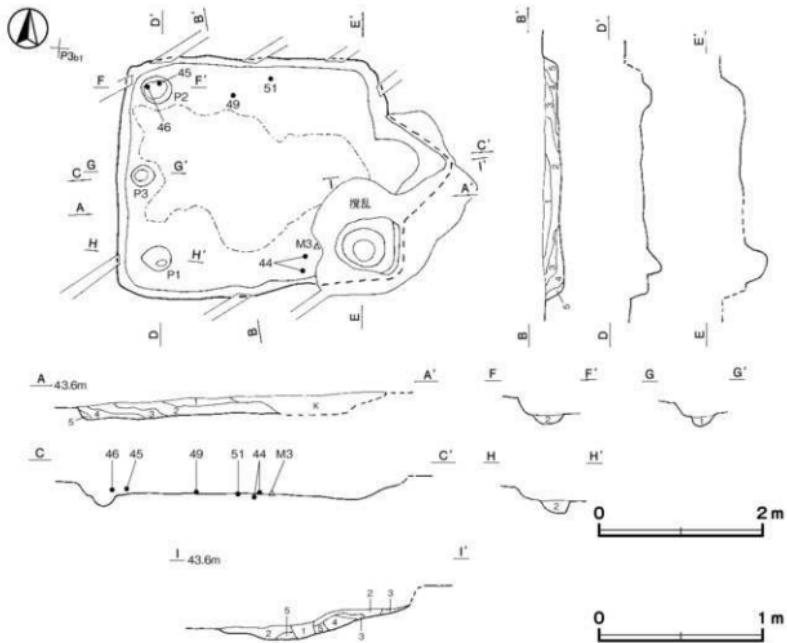
覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれていること及び遺物の出土状況などから、埋め戻されたと考えられる。

土層解説

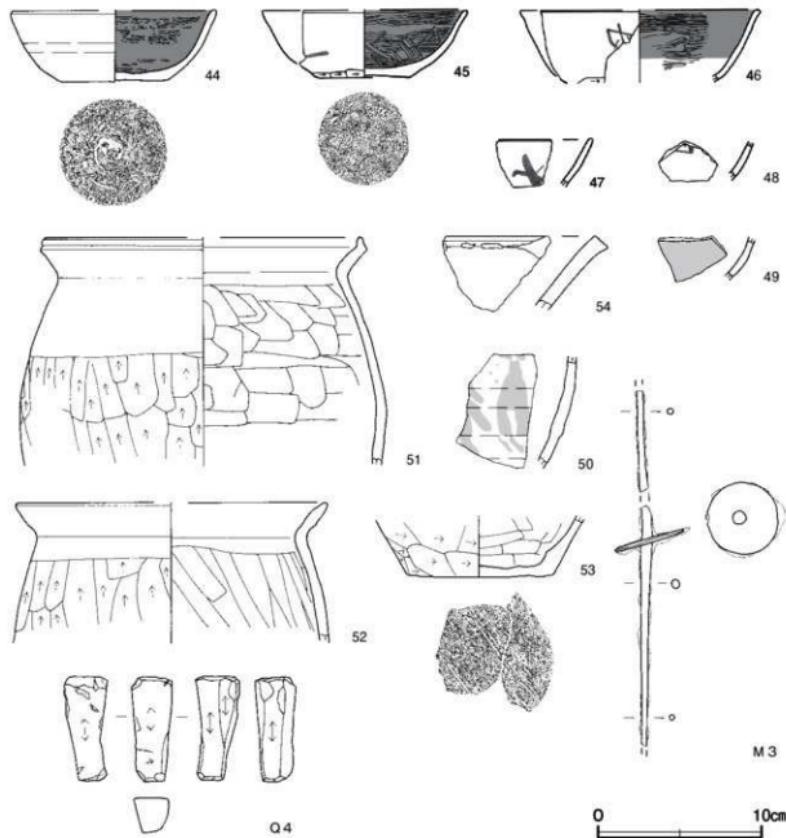
1 黒色	粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・粘土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	4 黑褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土器片247点（壺類53、甌類194）、須恵器片17点（壺類3、甌類14）、灰釉陶器片1点（瓶）、綠釉陶器片1点（椀）、土製品1点（支柱）、石器2点（砥石、不明）、金属製品4点（紡錘車1、不明3）が、全域の覆土上層から中層を中心に出土している。44・M3は中央南東部、51は北部中央壁寄りの床面からそれぞれ出土しているため、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。45・46は北西コーナー部の覆土下層から出土していることから、廃絶後の埋め戻しの過程で投棄されたものか流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第13図 第4号竪穴建物跡実測図



第14図 第4号堅穴建物跡出土遺物実測図

第4号堅穴建物跡出土遺物観察表（第14図）

番号	種 别	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼 成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
44	土師器	環	[126]	4.4	6.5	長石・石英、赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	内面ヘラ削き 底部ハラ切り後外周ナダ	床面	70% PL 6
45	土師器	環	[125]	4.2	5.5	長石・石英、赤色粒子	にぶい橙	普通	外壁外周下端斜手持ハラ削り 内面ヘラ削き 底部ハラ切り後外周ハラ削り 体部外表面墨書き〔口〕	覆土下層	50% PL 6・9
46	土師器	環	[145]	(4.5)	-	長石・石英、赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部外表面下端斜手持ちハラ削り 内面ヘラ削き 外表面墨書き〔長さ〕	覆土下層	20% PL 9
47	土師器	環	-	(2.9)	-	長石・石英	にぶい黄	普通	内面ヘラ削き 外面墨書き〔大きさ〕	覆土中	5% PL 9
48	土師器	環	-	(2.5)	-	長石・石英、赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	内面ヘラ削き 外面墨書き〔口〕	覆土中	5% PL 9
49	縦拍開器	槌	-	(2.8)	-	長石	オリーブ、黒白	普通	内面クロコロナデ 外面施釉	床面	5% 縱拍開器
50	灰陶陶器	瓶	-	(7.1)	-	長石・石英	灰黄	普通	外・内面クロコロナデ 外面施釉	貼床構造土	5% 瓶
51	土師器	甕	[19.5]	(14.1)	-	長石・石英、赤色粒子	明赤褐	普通	口周部ハラ削り 壁部外・内面、体部外表面墨書きナダ	床面	30% PL 8
52	土師器	甕	[19.0]	(8.7)	-	長石・石英、赤色粒子	橙	普通	口周部・底部外・内面墨書き ボディ外表面墨書きのヘラ削り 内面ヘラナダ	覆土中	10%
53	土師器	甕	-	(3.8)	[90]	長石・石英、赤色粒子	明赤褐	普通	体部外表面斜位のヘラ削り 内面ヘラナダ 底部ヘラ削り	覆土中	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
54	瓶	壺	-	(16)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	外・内面クロナデ	覆土中	5%
Q 4	砥石	65	25	28	48.9	凝灰岩	灰面4面	他は破断面		覆土中	PL10
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質			特徴	出土位置	備考
M 3	結縁車	(21.0)	43	44	0.8	(30.2)	鉄	輪部一部欠損		床面	PL10

第5号竪穴建物跡（第15～19図）

位置 調査C区北部のO 3h3区。標高43mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第20号土坑、第4号ピット群P 1・P 2に掘り込まれている。

規模と形状 南東部が調査区域外に延びているが、長軸5.08m、短軸4.97mの方形で、主軸方向はN-24°-Wである。壁は高さ36～45cmで、ほぼ直立している。

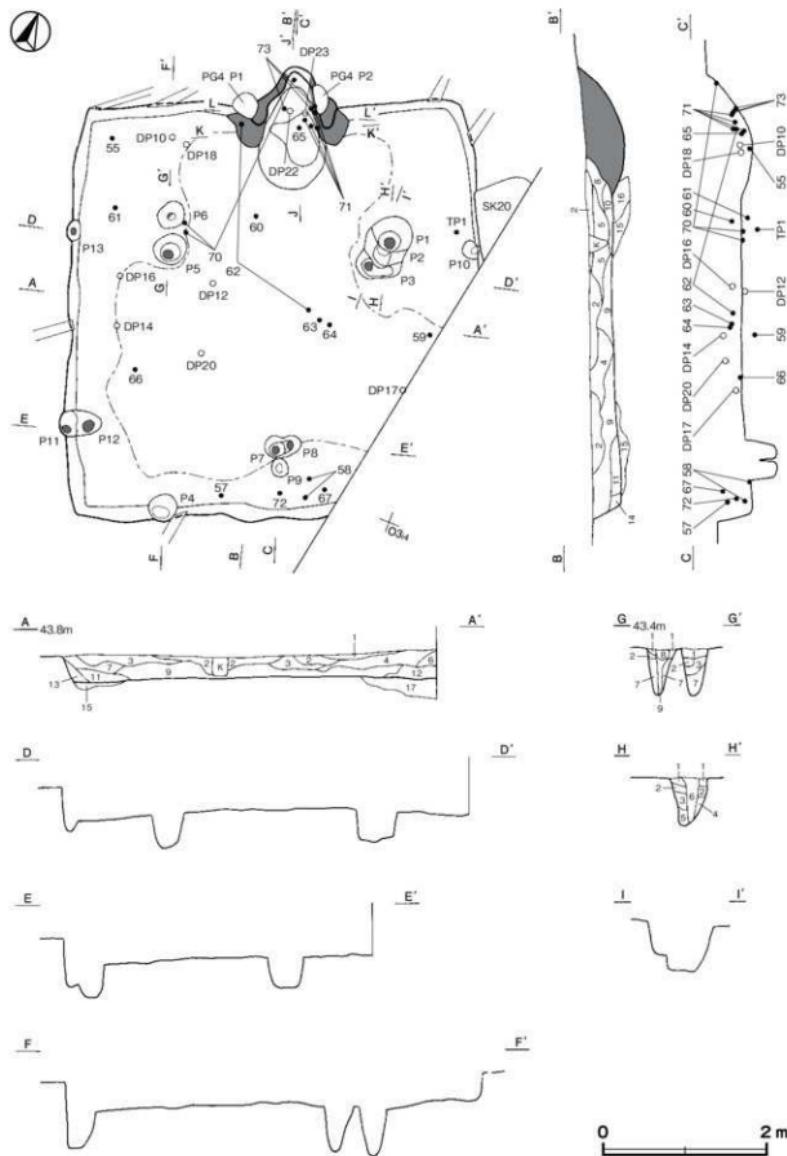
床 平坦な貼床である。中央部は地山のロームを掘り残し、その周囲を掘り下げた後に第15～17層を埋土して構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで159cmで、燃焼部幅は61cmである。袖部は床面と同じ高さの上に、粘土ブロックを主体とする第29～33層を積み上げて構築されている。火床部は床面を8cm掘り下げて第25～28層を埋土して構築されており、支脚(DP22・DP23)2本が据えられている。火床面は赤変硬化していない。燃焼部と煙道部は壁外に三角形状に奥行45cm、幅39cm掘り込み構築されている。

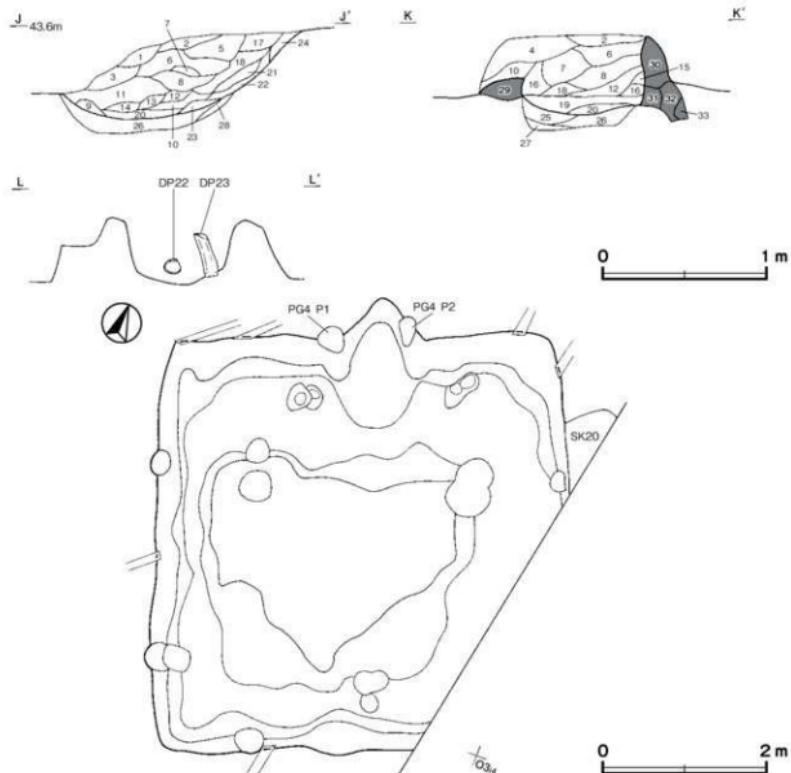
竈土層解説

1	暗褐色	粘土ブロック少量、焼土ブロック・ローム粒子微量	20	極暗赤褐色	粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
2	にふい黄褐色	粘土ブロック少量、ロームブロック微量	21	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
3	黒褐色	粘土ブロック少量、ロームブロック微量	22	灰褐色	焼土ブロック少量、炭化物・ローム粒子・粘土粒子微量
4	にふい黄褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量	23	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量
5	黄褐色	粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	24	極暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量
6	灰黄褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量	25	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
7	褐色	粘土ブロック少量、焼土ブロック・ローム粒子微量	26	灰褐色	焼土ブロック少量、粘土ブロック・ローム粒子微量
8	暗褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	27	黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
9	暗褐色	粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック微量	28	にふい黄褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土ブロック微量
10	極暗褐色	焼土ブロック少量、粘土ブロック微量	29	灰オーバー色	粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック微量
11	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物微量	30	オリーブ黄色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量
12	にふい赤褐色	焼土ブロック少量、粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	31	オリーブ褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
13	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量	32	暗灰黄色	粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
14	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量	33	黑褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物微量
15	にふい黄褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック微量			
16	にふい黄褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物微量			
17	オリーブ色	粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量			
18	オリーブ色	炭化物少量、焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子微量			
19	極暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・粘土粒子微量			

ピット 13か所。P 1は深さ58cmで、2回の立て替えの跡がある。P 2・P 3はP 1の立て替え前の柱穴である。P 4は深さ47cm、P 5は深さ59cm、P 6は深さ61cmで、柱穴の配置状況からみるとP 1～P 6は主柱穴と考えられる。P 7～P 9は深さ33～35cmで、南東壁近くの中央部に位置していることから、出入り口施設に伴う柱穴と考えられる。P 10～P 13は深さ16～45cmで壁柱穴と考えられる。



第15図 第5号堅穴建物跡実測図(1)



第16図 第5号堅穴建物跡実測図(2)

ピット土層解説 (各ピット共通)

1 にぶい褐色 ロームブロック中量	6 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
2 楊葉褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量	7 褐色 ロームブロック少量
3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量	8 楊葉褐色 ロームブロック・炭化物微量
4 暗褐色 ロームブロック少量	9 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
5 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、粘土ブロック・炭化物・細繊維量	

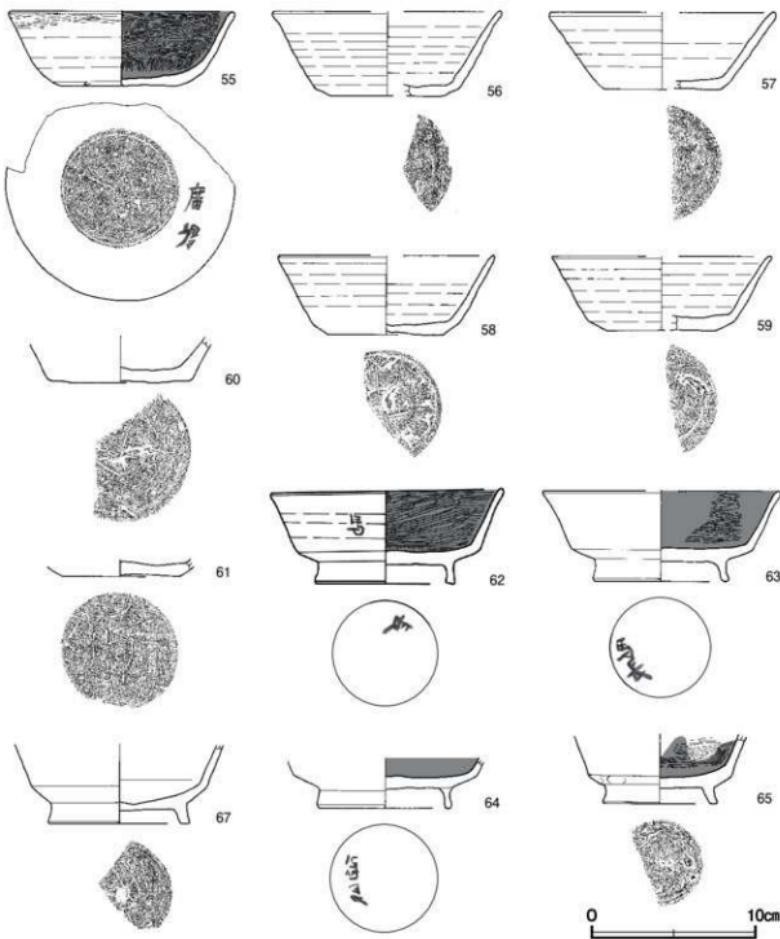
覆土 14層に分層できる。不自然な堆積状況から埋め戻されたと考えられる。第15～17層は貼床の構築土である。

土層解説

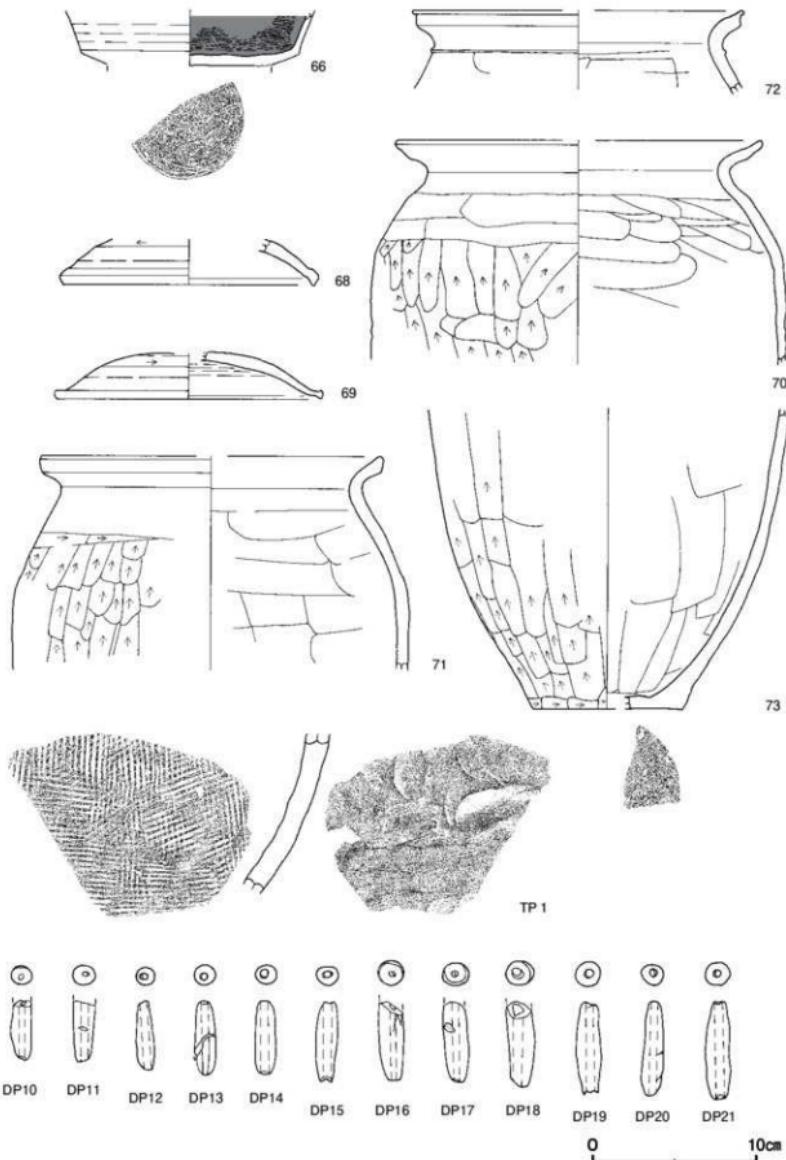
1 黒褐色 ロームブロック微量	10 灰褐色 粘土粒子少量、ロームブロック微量
2 暗褐色 ローム粒子微量	11 暗褐色 ロームブロック少量
3 黑褐色 ローム粒子微量	12 楊葉褐色 ロームブロック微量
4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量	13 暗褐色 ロームブロック微量
5 黑褐色 焼土ブロック・粘土ブロック微量	14 黒褐色 ローム粒子少量
6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量	15 黑褐色 ロームブロック少量
7 黑褐色 ローム粒子中量	16 にぶい褐色 ロームブロック中量、七本桜軽石ブロック微量
8 黑褐色 粘土ブロック少量、炭化粒子微量	17 暗褐色 七本桜軽石ブロック少量、ロームブロック微量
9 暗褐色 ロームブロック中量	

遺物出土状況 土師器片 429 点（坏類 53、甕類 376）、須恵器片 89 点（坏類 55、蓋 7、甕 27）、土製品 22 点（管状土錐 13、支脚 6、不明 3）、金属製品 10 点（刀子 2、不明 8）が、全城の覆土中から出土している。55 は北西コーナー部、58 は南央部の壁際、66 は西央部の床面からそれぞれ出土しているため、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。70 は竈煙道部のものと西北部床面のものとが接合しており、廃絶時に破碎して投棄されたものと考えられる。62・65・71・73 は竈下層から出土しており、廃絶時に廃棄されたか流れ込んだものと考えられる。

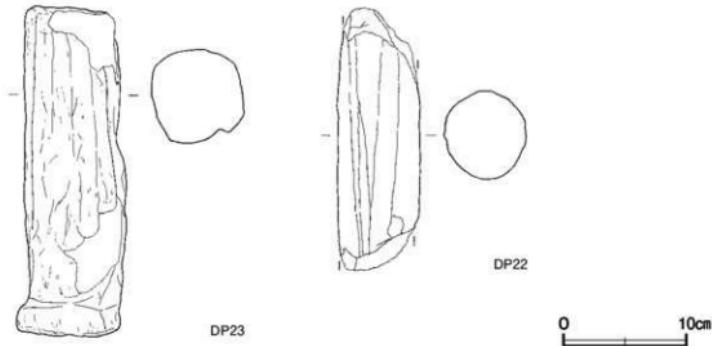
所見 時期は、出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。



第 17 図 第 5 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第18図 第5号堅穴建物跡出土遺物実測図(2)



第19図 第5号堅穴建物跡出土遺物実測図(3)

第5号堅穴建物跡出土遺物観察表(第17~19図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
55	土師器	环	13.8	4.6	7.2	長石・石英、 赤色粒子	にぶい橙	普通 ヘラ削り	口縁部・内面へラ削り 体部外側下端・底部回転 ヘラ削り	床面	80% PL. 6 - 9
56	須恵器	环	[14.0]	5.2	[6.8]	長石・石英、 纈	灰	普通	底部右回転ヘラ削り 手持ちヘラ削り	覆土中	30% PL. 7 木柵下窓渠
57	須恵器	环	[13.8]	4.8	[7.2]	長石・石英、 糞状物質	暗灰黄	普通	底部右回転ヘラ削り 手持ちヘラ削り	覆土中層	30% PL. 7 木柵下窓渠
58	須恵器	环	[13.2]	4.9	7.0	長石・石英、 糞状物質	暗灰黄	普通	底部右回転ヘラ削り ヘラ記号	床面	木柵下窓渠
59	須恵器	环	[13.4]	4.6	[6.8]	長石・石英、 糞状物質	灰	普通	底部右回転ヘラ削り 周外周回転ヘラ削り 中央ヘ ナデ	床面構築上	30% PL. 7 木柵の内窓渠
60	須恵器	环	-	(2.9)	8.8	長石・石英、 糞状物質	灰	普通	底部右回転ヘラ削り 周外周回転ヘラ削り 中央ヘ ナデ	覆土下層	20% 木柵下窓渠
61	須恵器	环	-	(1.0)	7.0	長石・石英、 糞状物質	黄灰	普通	底部手持ちヘラ削り ヘラ記号	貼床構築上	20% 木柵下窓渠
62	土師器	高台付环	14.1	5.9	8.5	長石・石英、 赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ削り 底部右回転ヘラ削り 後高台貼付 舟型外面墨書き「馬」・底部墨書き「日」	覆土下層	80% 木柵下窓渠
63	土師器	高台付环	[14.4]	5.6	8.1	長石・石英、 赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ削り 底部右回転ヘラ削り 後高台貼付 舟型外面墨書き「馬」	覆土下層	50% PL. 7 - 9
64	土師器	高台付环	-	(3.1)	8.0	長石・石英	にぶい橙	普通	内面ヘラ削り 底部右回転ヘラ削り 後高台貼付 舟型外面墨書き「日」	覆土下層	40% PL. 9
65	土師器	高台付环	-	(4.3)	(7.0)	長石・石英、 糞状物質	橙	普通	内面ヘラ削り 底部右回転ヘラ削り 後高台貼付 舟型外面墨書き「馬」	覆土下層	30%
66	土師器	高台付环	-	(3.5)	-	長石・石英、 赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ削り 底部右回転ヘラ削り 高台貼付 舟型外面墨書き「馬」	床面	20%
67	須恵器	高台付环	-	(4.9)	[8.8]	長石・石英、 糞状・糞状物質	灰黄褐	普通	底部右回転ヘラ削り 後高台貼付 ヘラ記号	覆土上層	5% 木柵下窓渠
68	須恵器	蓋	[15.4]	(2.8)	-	長石・石英	褐灰	普通	天井部左回転ヘラ削り	覆土中	10% 木柵下窓渠
69	須恵器	蓋	[16.3]	(2.8)	-	長石・石英、 糞状物質	黄灰	普通	天井部右回転ヘラ削り	覆土中	木柵下窓渠
70	土師器	要	[22.4]	(13.8)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部・面部、内面機ナデ 体部外側上端機 底部外側墨書き「日」	壁神道部、 西北隅柱上	20% PL. 8
71	土師器	要	[21.0]	(13.2)	-	長石・石英、 赤色粒子、糞状物質	明赤褐	普通	口縁部・面部外、内面機ナデ 体部外側墨書き 「日」	覆土下層	10%
72	土師器	要	[20.6]	(4.9)	-	長石・石英、 赤色粒子、糞状物質	棕	普通	口縁部・面部外、内面機ナデ 体部内面ヘナナ 「日」	覆土中層	10%
73	土師器	要	-	(18.5)	[9.2]	長石・石英、 赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外側墨書きのヘラ削り 体部下端横位のヘラ 削り 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り	覆土下層	20%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 1	須恵器	要	長石・石英	暗灰黄	外面部平行叩き後縦位の平行叩き 内面無文当て具痕	貼床構築上	

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP10	管状土錐	(3.7)	1.2	0.3	(5.6)	長石・石英、 糞状物質	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL. 10
DP11	管状土錐	(3.8)	1.4	0.5	(5.4)	長石・石英、 糞状・黒色粒子	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL. 10
DP12	管状土錐	4.3	1.2	0.4	5.0	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL. 10
DP13	管状土錐	4.6	1.3	0.4	(4.9)	長石・石英、 糞状物質	下半部一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL. 10
DP14	管状土錐	4.5	1.3	0.5	6.1	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	PL. 10

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP15	管状土錐	5.0	1.3	0.5	7.8	長石・石英、 細粒	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL10
DP16	管状土錐	(4.8)	1.6	0.4	(10.7)	長石・石英、 赤色粒子	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL10
DP17	管状土錐	(4.9)	1.6	0.4	(10.3)	長石・石英、 針状物質	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL10
DP18	管状土錐	(5.3)	1.7	0.7	(9.9)	長石・石英、 細粒	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL10
DP19	管状土錐	5.6	1.6	0.5	12.8	長石・石英、 細粒・針状物質	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL10
DP20	管状土錐	5.9	1.4	0.4	8.5	長石・石英、 針状物質	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	PL10
DP21	管状土錐	6.1	1.5	0.4	13.0	長石・石英、 針状物質	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL10
DP22	支脚	(21.5)	6.8	-	(722.0)	針状物質	上端・下端一部欠損 ヘラナデ 厚さ72	覆土下層	
DP23	支脚	27.1	9.1	-	(1361.0)	針状物質	上端一部欠損 ヘラナデ 厚さ82	覆土下層	

表3 平安時代堅穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形 長軸×短軸(m)	規模 (cm)	床面	壁構 柱穴 直入口 ピット 梁・棟	内部施設		覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
							柱穴	直入口	ピット	梁・棟		
1	P 3e1	N - 85° - E (長方形)	3.34 × (29.2)	10 ~ 15	平底	-	-	1	-	-	人為 土師器、須恵器、 資生十種、刀子	9世紀後葉
2	P 2-e0	N - 20° - W	方形 3.30 × 3.03	26	平底	-	-	-	直	1	人為 土師器、須恵器、 経織陶器	9世紀後葉 SK88 → 本跡
3	P 3b2	N - 75° - E	方形 3.20 × 3.15	17 ~ 27	平底 全周 はざま	-	1	1	直	-	人為 土師器、須恵器、 資生十種	9世紀後葉 本跡 → SK15
4	P 3b1	N - 87° - E	方形 3.26 × 3.02	17 ~ 23	平底	-	2	1	-	直	人為 土師器、須恵器、 鐵製彷彿車	9世紀後葉
5	O 3h3	N - 24° - W	方形 5.08 × 4.97	36 ~ 45	平底	-	6	3	4	直	人為 土師器、須恵器、 資生十種、文鏡	9世紀後葉 SK20 PG 4

(2) 井戸跡

第1号井戸跡 (第20・21図)

位置 調査A区中央部のV 2a2区、標高43mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は、径2.88mほどの円形で、深さ1.75mのところまでは漏斗状に、それより下部は長径0.95m、短径0.81mの円筒形で、深さは4.5mである。

ピット 8か所。P 1は深さ30cm、P 2は深さ16cmで、遺構の東西に位置している。P 3～P 5は深さ11～17cm、P 6～P 8は深さ17～23cmである。P 3～P 5は遺構北側に、P 6～P 8は遺構南側にそれぞれ対をなすように位置している。

ピット土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック微量

覆土 16層に分層できる。第1～16層は廃絶後に埋め戻した層で、第17～29層は版塗状を呈しており、井戸枠の裏込めである。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・燒土粒子・白色粒子微量

14 暗褐色 ロームブロック・鹿沼輕石粒子少量

2 白褐色 白色粒子少量、ロームブロック・燒土粒子微量

15 灰褐色 ロームブロック・鹿沼輕石粒子少量

3 黑褐色 ロームブロック・白色粒子微量

16 暗褐色 ローム粒子中量、鹿沼輕石粒子少量

4 暗褐色 白色粒子中量、ロームブロック微量

17 黄褐色 白色粒子多量、ロームブロック・炭化物・七本桙
輕石粒子微量

5 暗褐色 白色粒子中量、ロームブロック少量、粘土ブロッ
ク微量

18 黄褐色 白色粒子中量、ロームブロック・炭化粒子微量

6 暗褐色 ローム粒子・白色粒子少量、粘土ブロック微量

19 黄褐色 白色粒子中量

7 黑褐色 ロームブロック微量

20 黄褐色 白色粒子多量、鹿沼輕石粒子少量、ロームブロッ
ク・灰白粒子・粘土粒子・七本桙・鹿沼輕石粒子微量

8 黑褐色 ローム粒子微量

21 暗褐色 白色粒子少量、ローム粒子微量

9 黑褐色 ロームブロック少量

22 にい黄褐色 粘土粒子・白色粒子少量、ロームブロック・鹿沼
輕石ブロック微量

10 暗褐色 ロームブロック少量

23 にい黄褐色 鹿沼輕石ブロック中量、粘土粒子少量、ローム粒
子微量

11 黑褐色 ローム粒子微量(緋まり弱い)

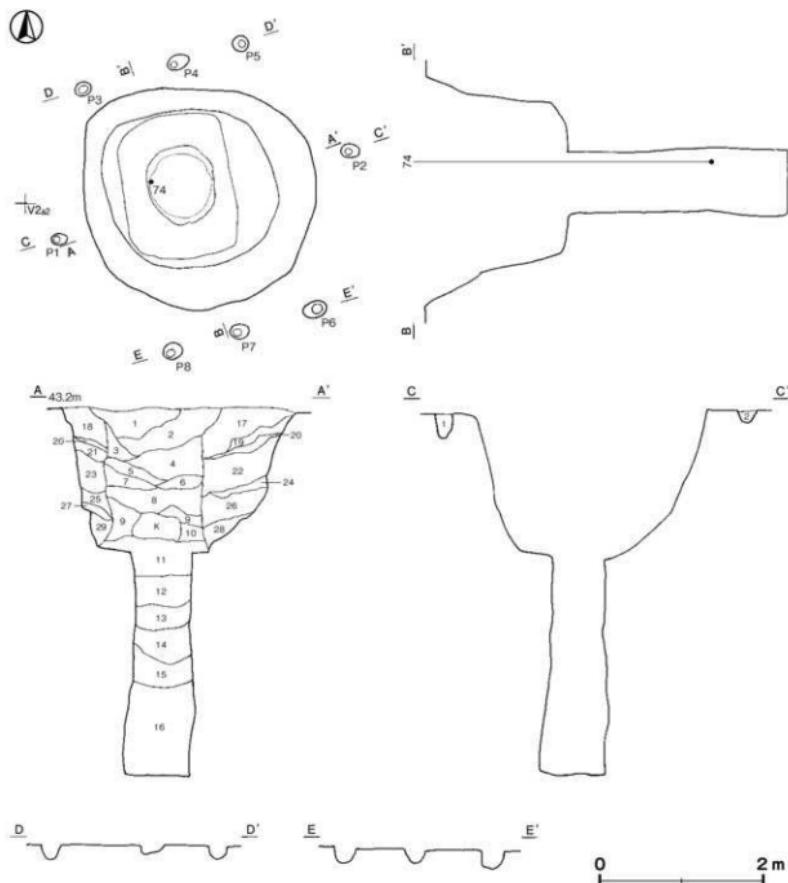
12 黑褐色 鹿沼輕石粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量

13 黑褐色 鹿沼輕石粒子少量、ロームブロック微量

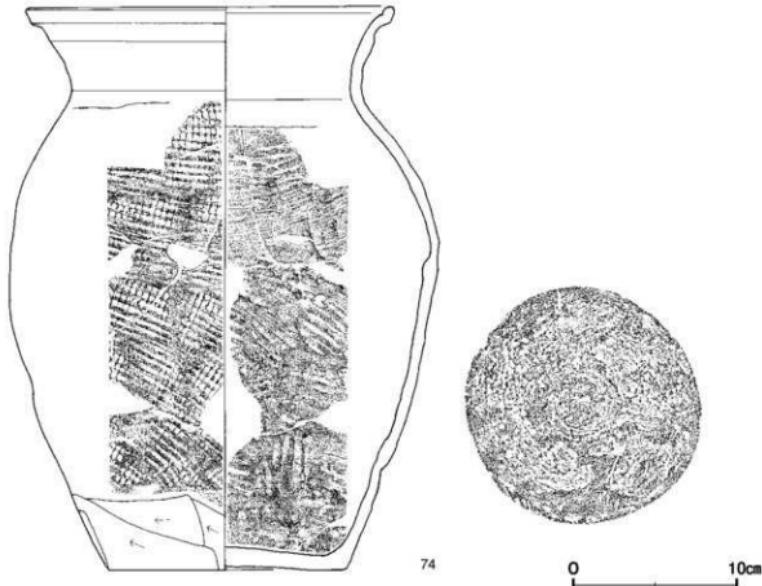
24	褐	色	ロームブロック・白色粒子中量。七本桙軽石粒子少 量。鹿沼軽石ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	27	にぶい黄褐色	ロームブロック・鹿沼軽石ブロック・白色粒子微量
25	褐	色	ロームブロック・白色粒子少量。炭化粒子・七本 桙軽石粒子微量	28	暗褐色	ロームブロック・七本桙軽石粒子・白色粒子微量
26	褐	色	ロームブロック・粘土ブロック・鹿沼軽石ブロ ック・白色粒子微量	29	にぶい黄褐色	鹿沼軽石ブロック少量。ロームブロック微量

遺物出土状況 須恵器 1 点(堺)が出土している。74 は第 16 層上層で割れた状態で出土していることから、埋め戻しの過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀後葉に比定できる。



第20図 第1号井戸跡実測図



第21図 第1号井戸跡出土遺物実測図

第1号井戸跡出土遺物観察表（第21図）

番号	種別	器種	口径	裏高	底径	船土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
74	須恵器	甕	22.4	34.7	14.4	長石・石英	灰	普通	体部外面格子焼き後下端横枝のヘラ削り 体部内面平行線にて具孔、下端ナダ	質土下層 60% PL 8 新治窯産	

3 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期や性格が明らかでない火葬施設1基、土坑59基、溝跡18条、道路跡1条、ピット群6か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 火葬施設

第1号火葬施設（第22図）

位置 調査A区北部のU2b3区、標高43mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.64m、短径0.52mの梢円形である。深さ10cmで、断面は緩やかな皿状である。

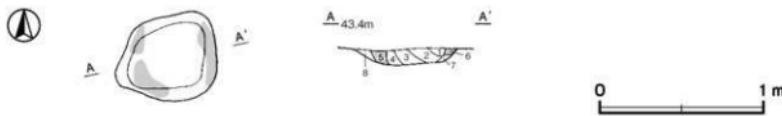
覆土 8層に分層できる。第1～4層は燃焼部で、第3・4層は骨片が含まれた層である。第5・6層は被熱を受けた堆積土である。第7・8層は掘方への埋土である。

土層解説

1	灰	色	炭化粒子少量、燒土ブロック微量	5	根	色	燒土粒子多量、炭化物中量
2	黒	色	炭化物中量、ローム粒子・燒土粒子微量	6	根	色	燒土粒子多量
3	黒	褐	炭化物・骨片少量、燒土ブロック・ローム粒子微量	7	黒	色	炭化物・ローム粒子微量
4	黒	褐	骨片少量、炭化物・ローム粒子・燒土粒子微量	8	暗	褐	燒土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 覆土から骨片が出土している。

所見 火葬骨片が出土していることから、遺骸を火葬した土坑と考えられる。時期を決定できる遺物が出土していないので、時期は不明である。



第22図 第1号火葬施設実測図

(2) 土坑

今回の調査で、その他の土坑59基を確認した。第72号土坑について解説し、その他の土坑は、土層解説と実測図（第25～29図）、一覧表を掲載する。

第72号土坑（第23・24図）

位置 調査C区中央部のP29区、標高43 mの台地平坦部に位置している。

重複 第73号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径205 m、短径1.72 mの楕円形である。深さ74 cmで、断面は緩やかな皿状である。

覆土 4層に分層できる。第1・2層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。第3・4層はロームブロックを多く含み、遺物の出土状況から埋め戻されたものである。

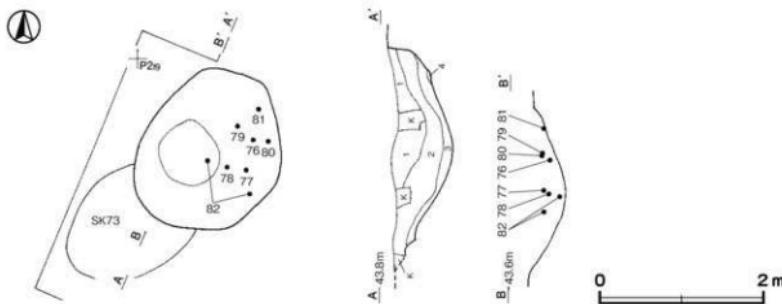
土層解説

1 黒 色	ローム粒子微量
2 黒 褐 色	ローム粒子少量

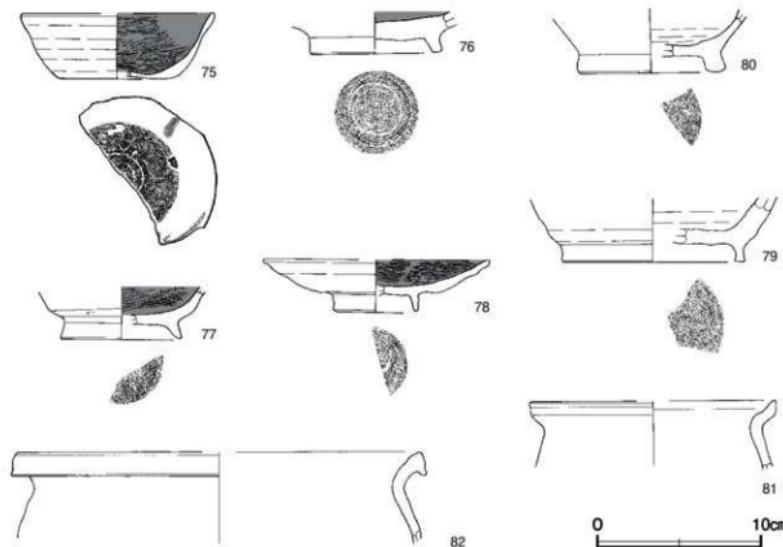
3 黒 褐 色	ロームブロック中量
4 暗 褐 色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片99点（坏類33、高台付皿1、甕類65）、須恵器片16点（坏6、瓶2、甕8）、陶器片1点（碗）が、東部の覆土中層から下層にかけて出土している。廃絶後に埋め戻す過程で投棄されたか流れ込んだものとみられる。

所見 出土土器から9世紀後葉と考えられるが、破片が多いことから、流れ込んだ可能性があり、時期は不明とした。



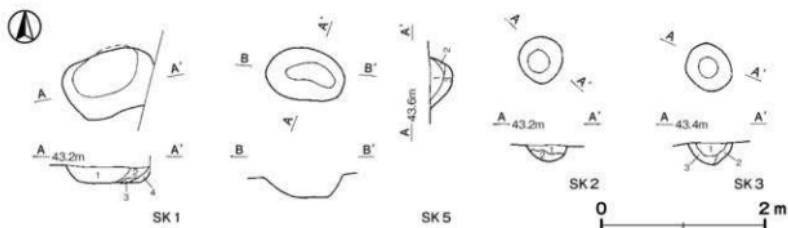
第23図 第72号土坑実測図



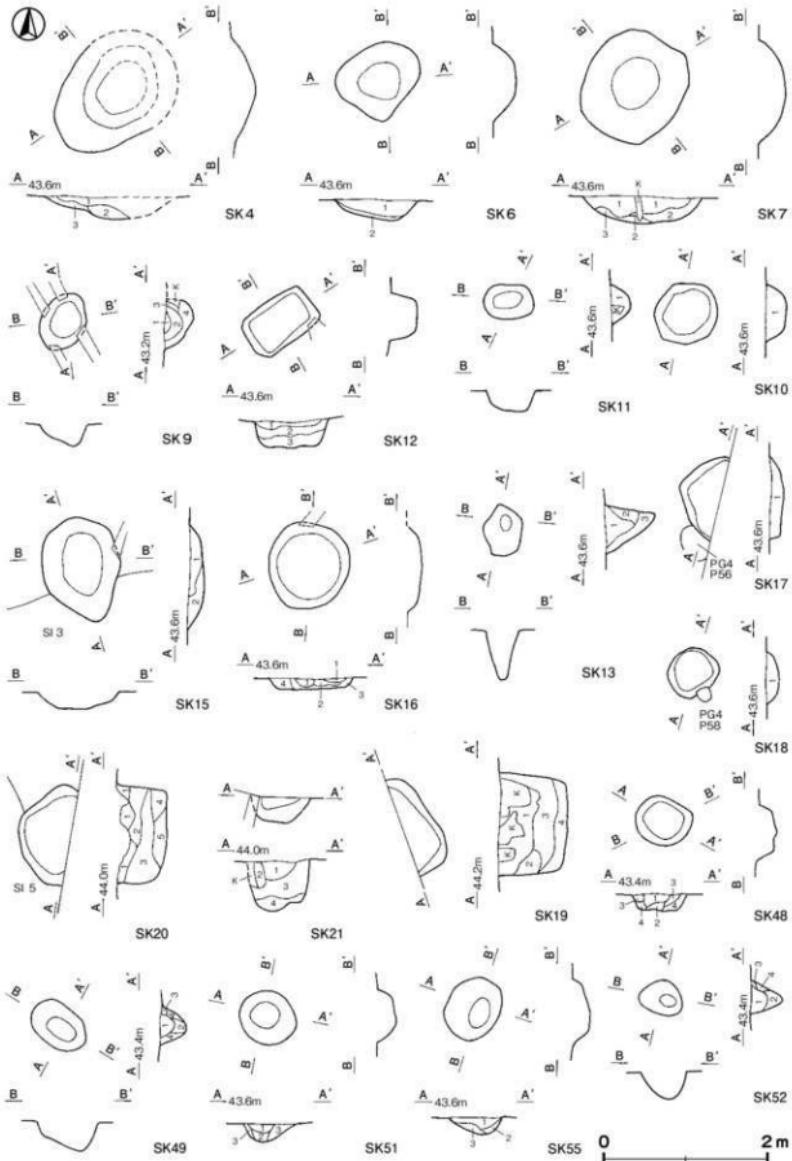
第24図 第72号土坑出土遺物実測図

第72号土坑出土遺物観察表（第24図）

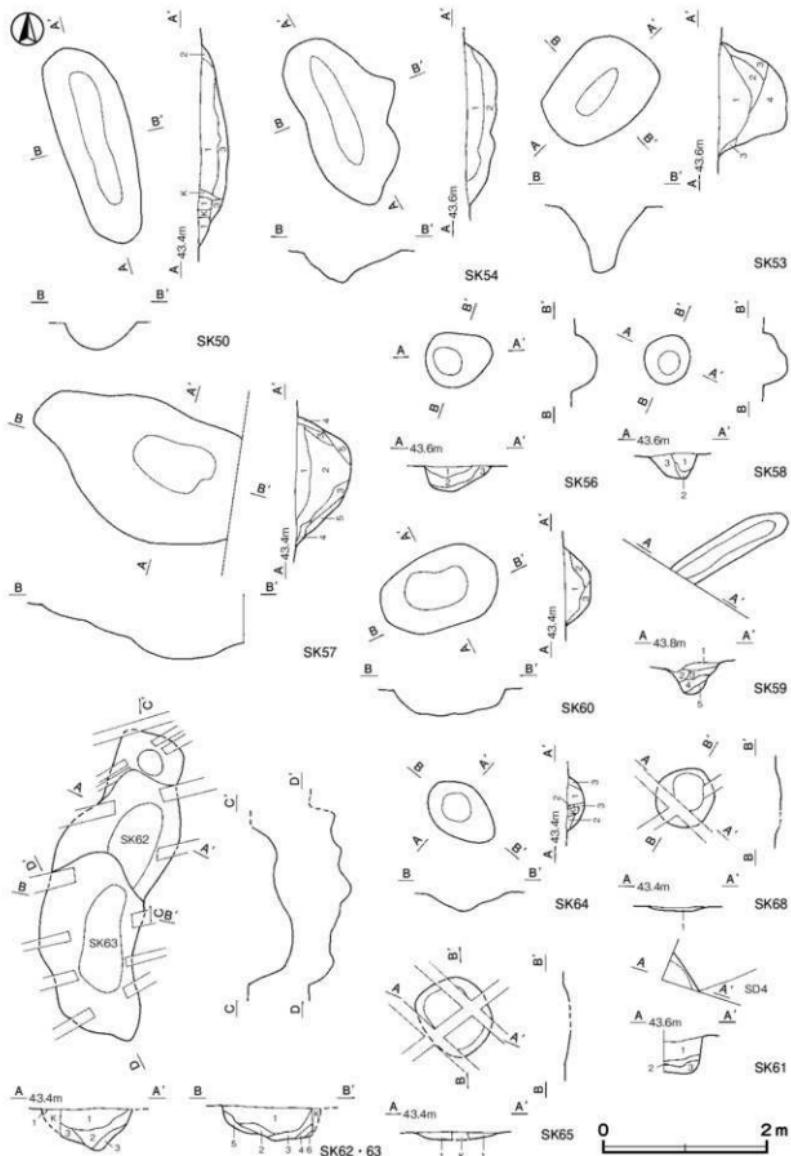
番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
75	土器部	坪	[118]	4.1	[72]	長石・石英・ 針状物質	灰褐色	普通	内面ヘラ磨き 底部へラ切り後外周回転ヘラ削り 全体外周磨擦	覆土中 PL 6・9	30%
76	土器部	高台付坪	-	(2.4)	8.0	長石・石英・ 針状物質	灰黃褐色	普通	内面ヘラ磨き 底部外周ヘラ切り後高台貼付	覆土中層	20%
77	土器部	高台付坪	-	(3.2)	[73]	長石・石英	にぶい褐色	普通	全体外周下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 截形	覆土中層	30%
78	土器部	高台付坪	[136]	3.2	[52]	長石・石英・ 赤褐色粒子・ 針状物質	赤褐色	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼付	覆土中層 PL 7	40% PL 7
79	須恵器	瓶	-	(3.8)	[11.0]	長石・石英・ 针状物質・細纖維	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付 内面自然釉	覆土中層 木柵下窓産	20%
80	須恵器	瓶	-	(3.8)	[8.8]	長石・石英	黄褐色	普通	外・内面ロコナデ 内面自然釉	覆土中層	10%
81	土師器	甕	[150]	(4.3)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	5%
82	須恵器	甕	[248]	(5.7)	-	長石・石英・ 针状物質	灰黃褐色	普通	外・内面ロコナデ	覆土下層 木柵下窓産	5% 木柵下窓産



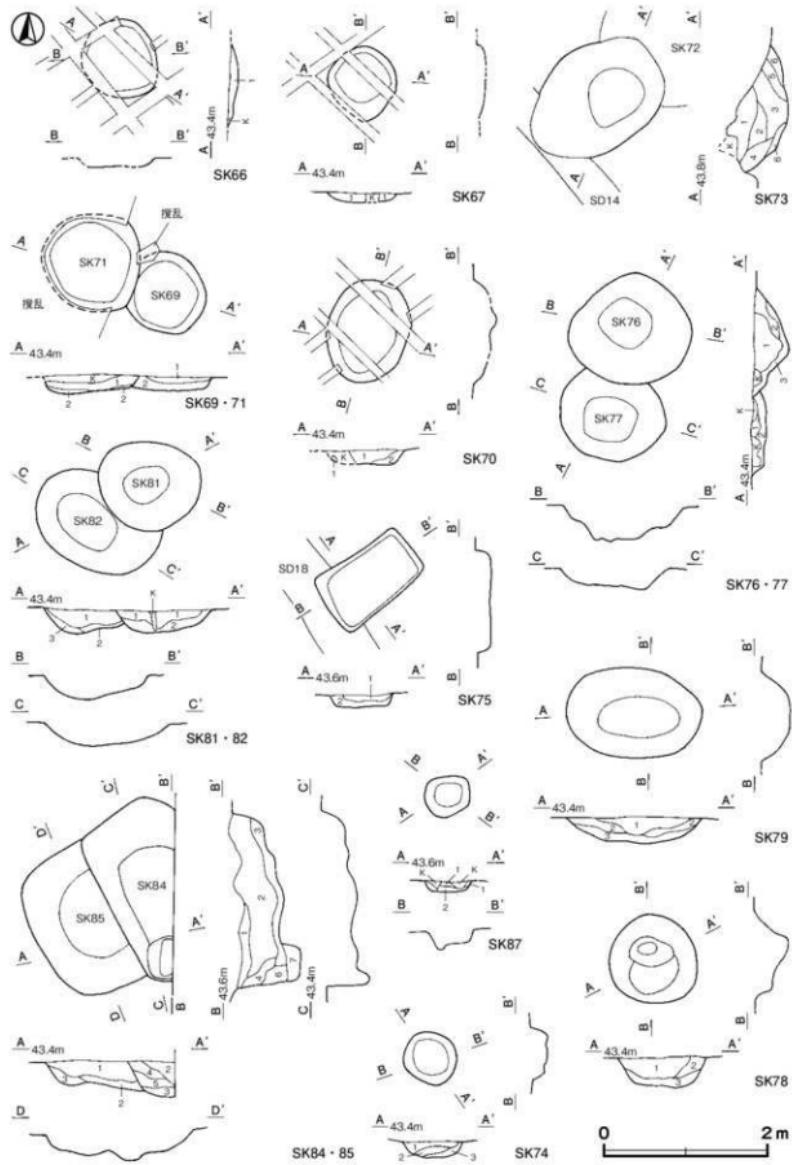
第25図 その他の土坑実測図(1)



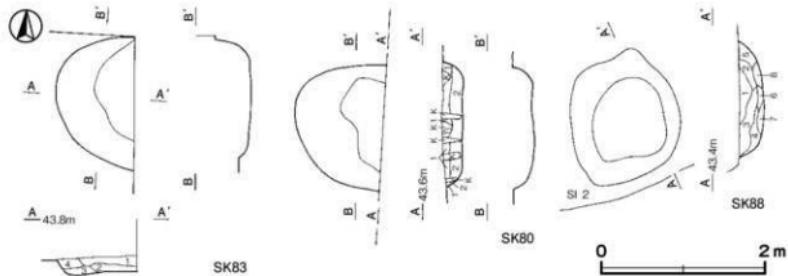
第26図 その他の土坑実測図(2)



第27図 その他の土坑実測図(3)



第28図 その他の土坑実測図(4)



第29図 その他の土坑実測図(5)

第1号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 墓褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子微量

第2号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 墓褐色 ローム粒子・粘土粒子微量

第3号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 墓褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量、粘土粒子微量

第4号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック微量
- 2 墓褐色 ロームブロック微量
- 3 墓褐色 ロームブロック少量

第5号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・砂粒微量
- 2 墓褐色 ロームブロック微量
- 3 楊褐色 ロームブロック微量

第6号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・砂粒微量
- 2 墓褐色 ロームブロック少量、砂粒微量

第7号土坑土層解説

- 1 墓褐色 ロームブロック・砂粒微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 にい褐色 ロームブロック少量

第9号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 墓褐色 ローム粒子微量
- 3 黑褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子微量

第10号土坑土層解説

- 1 墓褐色 ロームブロック少量

第11号土坑土層解説

- 1 楊褐色 ロームブロック微量

第12号土坑土層解説

- 1 墓褐色 ロームブロック微量
- 2 黑褐色 ロームブロック中量
- 3 黑褐色 ロームブロック微量

第13号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック微量
- 2 墓褐色 ロームブロック少量
- 3 にい褐色 ロームブロック少量

第15号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック微量
- 2 黑褐色 ロームブロック・七本桙鉆石粒子少量

第16号土坑土層解説

- 1 墓褐色 ロームブロック微量
- 2 黑褐色 ローム粒子微量
- 3 灰褐色 ロームブロック微量
- 4 楊褐色 ローム粒子微量

第17号土坑土層解説

- 1 墓褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量

第18号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量

第19号土坑土層解説

- 1 墓褐色 ロームブロック微量
- 2 灰褐色 ロームブロック少量
- 3 墓褐色 ロームブロック微量
- 4 灰褐色 ロームブロック微量

第20号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 墓褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量
- 3 黑褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 4 墓褐色 焼土粒子少量、ロームブロック微量
- 5 楊褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

第21号土坑土層解説

- 1 墓褐色 ローム粒子微量
- 2 墓褐色 ロームブロック微量
- 3 墓褐色 ロームブロック少量
- 4 黑褐色 ロームブロック中量

第48号土坑土層解説

- 1 墓褐色 ローム粒子微量
- 2 にい褐色 ロームブロック中量
- 3 墓褐色 ロームブロック中量
- 4 黑褐色 ロームブロック中量

第49号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック中量
- 2 黑褐色 ロームブロック中量
- 3 墓褐色 ローム粒子中量
- 4 にい褐色 ロームブロック多量

第50号土坑土層解説

- 1 黑色 ローム粒子多量
- 2 墓褐色 ローム粒子多量
- 3 黑褐色 ロームブロック少量

第 51 号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量

第 52 号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子中量
- 4 にぶい黄褐色 ローム粒子多量

第 53 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子多量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 3 にぶい黄褐色 ローム粒子少量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量

第 54 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子多量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量

第 55 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 56 号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 57 号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子微量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黑 褐 色 ローム粒子少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 5 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

第 58 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 59 号土坑土層解説

- 1 黑 色 ローム粒子微量
- 2 黑 褐 色 ローム粒子微量
- 3 黑 褐 色 ローム粒子少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 5 褐 色 ロームブロック中量

第 60 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子多量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

第 61 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック多量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子多量

第 62 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子中量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

第 63 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子中量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
- 4 にぶい黄褐色 ローム粒子中量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 6 褐 色 ローム粒子中量

第 64 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量
- 3 黄 褐 色 ロームブロック中量

第 65 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック中量

第 66 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック中量

第 67 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック少量

第 68 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック中量

第 69 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック微量

- 2 黑 褐 色 ロームブロック中量

第 70 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量

- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量

第 71 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子多量

- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 73 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子微量

- 2 黑 褐 色 ロームブロック微量

- 3 黑 褐 色 ロームブロック少量

- 4 黑 褐 色 ローム粒子中量

- 5 黑 褐 色 ローム粒子少量

- 6 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 74 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック微量

- 2 黑 褐 色 ローム粒子少量

- 3 黑 褐 色 ロームブロック中量

第 75 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子微量

- 2 黑 褐 色 ロームブロック少量

第 76 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

- 2 褐 色 ロームブロック少量

- 3 にぶい黄褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量

第 77 号土坑土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

- 2 褐 色 ローム粒子少量

第 78 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量、粘土粒子少量

- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量、粘土粒子微量

- 3 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量

第 79 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量

- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

- 3 褐 色 ロームブロック中量

第 80 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子少量、燒土粒子微量

- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 81 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック少量

- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

第 82 号土坑土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

- 2 褐 色 ロームブロック少量

- 3 褐 色 ローム粒子微量

第 83 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

- 3 黑 褐 色 ロームブロック少量

- 4 暗 褐 色 ローム粒子微量

第 84 号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子微量
 2 黒 色 ローム粒子少量
 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
 4 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
 5 暗褐色 ロームブロック少量
 6 暗褐色 ロームブロック中量、燒土粒子微量
 7 黒 色 ロームブロック微量

第 85 号土坑土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック少量、燒土粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック中量
 3 暗褐色 ローム粒子微量

第 87 号土坑土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック少量
 2 暗褐色 ロームブロック中量

第 88 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、燒土ブロッ
ク微量
 2 暗褐色 ロームブロック・燒土ブロック・粘土ブロック微量
 3 暗褐色 ロームブロック・燒土ブロック少量、粘土ブロッ
ク微量
 4 暗褐色 燃土ブロック少量、ロームブロック・粘土ブロッ
ク微量
 5 黑 色 ロームブロック・焼土ブロック微量
 6 暗褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化物微量
 7 黑 色 ロームブロック微量
 8 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量

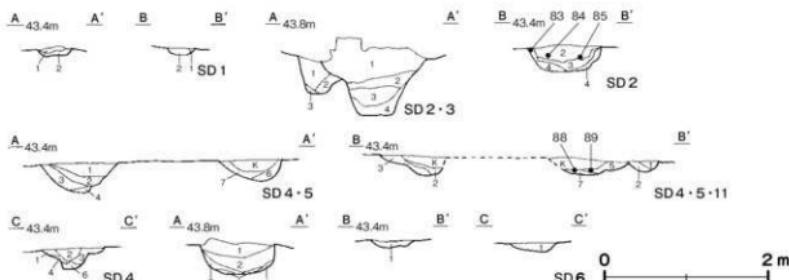
表4 その他の土坑一覧表

番号	位 置	長径方向	平 面 形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	R 2 g5	N~85°~E	[椭円形]	1.08×0.80	20	平坦	緩斜	人為		
2	R 2 e6	—	円形	0.58×0.54	20	圓状	緩斜	1層のみ 自然		
3	R 2 e5	N~55°~W	椭円形	0.59×0.53	28	圓状	緩斜	1層のみ 自然		
4	T 1 a0	N~30°~E	[椭円形]	(1.60)×1.26	28	圓状	緩斜	人為		
5	T 1 b0	N~77°~W	椭円形	0.97×0.63	29	圓状	緩斜	人為		
6	T 1 d0	N~43°~E	不整格円形	0.96×0.83	28	平坦	緩斜	自然		
7	T 1 e9	N~30°~E	隅丸長方形	1.34×1.21	34	圓状	緩斜	自然		
9	V 2 d3	N~45°~E	椭円形	0.68×0.54	28	圓状	緩斜	自然		
10	P 3 d1	N~49°~E	椭円形	0.83×0.75	25	平坦	外傾	人為		
11	P 3 d1	N~83°~E	椭円形	0.60×0.41	27	平坦	外傾	人為		
12	P 3 c2	N~57°~E	長方形	0.91×0.57	35	平坦	外傾	自然	土器器、金属製品	
13	P 3 e1	N~7°~W	不整格円形	0.61×0.49	61	圓状	外傾	自然		
15	P 3 a2	N~13°~W	椭円形	1.32×0.98	21	平坦	緩斜	自然	土器器、金属製品	SI 3→本跡
16	P 3 b2	—	円形	1.06×0.99	15	平坦	外傾	人為	土器器	
17	O 3 a3	—	[円形・椭円形]	1.04×(0.52)	15	平坦	緩斜	自然	PG 4→本跡	
18	O 3 a3	—	円形	0.60×0.55	16	平坦	緩斜	自然	本跡→ PG 4	
19	O 3 i2	—	[方形容]	(1.21)×0.46	85	平凹	直立	人為		
20	O 3 a3	—	[円形・椭円形]	1.23×(0.53)	58	平坦	外傾	人為	土器器、金属製品	SI 5→本跡
21	O 3 g3	—	[円形・椭円形]	(0.68)×0.31	62	圓状	外傾	人為		
48	S 2 d3	N~56°~W	椭円形	0.66×0.57	20	凹凸	外傾	人為		
49	S 2 e1	N~58°~W	椭円形	0.75×0.49	33	圓状	凸程・緩斜	人為		
50	S 1 f0	N~15°~W	椭円形	2.50×0.89	33	圓状	緩斜	自然		
51	S 2 i2	N~77°~W	椭円形	0.74×0.66	24	平坦	緩斜	人為		
52	S 2 j2	N~87°~E	椭円形	0.53×0.43	34	圓状	緩斜	人為		
53	S 2 i2	N~35°~E	椭円形	1.52×1.08	86	平坦	外傾	自然		
54	S 1 f9	N~24°~W	不定形	2.18×1.20	40	平坦	緩斜	自然		
55	S 2 j1	N~32°~E	椭円形	0.79×0.65	20	圓状	男程・緩斜	人為		
56	S 2 j1	N~71°~E	椭円形	0.84×0.70	31	圓状	凸程・緩斜	自然		
57	S 2 g3	N~72°~W	不定形	(2.60)×1.66	67	圓状	緩斜	自然		
58	S 1 j0	N~23°~E	椭円形	0.64×0.55	31	圓状	凸程・緩斜	人為		
59	Q 2 j6	N~30°~W	[椭円形]	(1.41)×0.36	38	平坦	外傾	人為		
60	Q 2 g6	N~67°~E	椭円形	1.50×0.97	31	平坦	緩斜	自然		

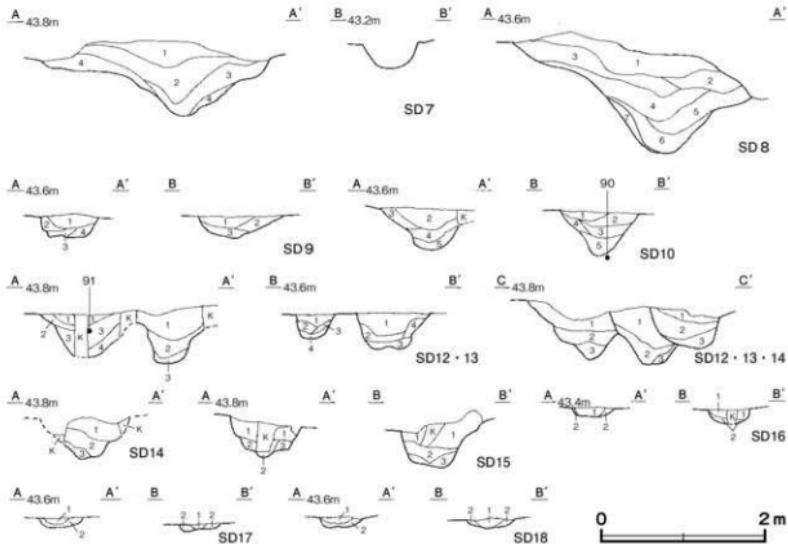
番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
61	Q 2.3	-	-	(0.60 × 0.32)	42	平坦	外傾	自然		SD 4 → 本跡
62	Q 2.4	N - 13° - E	不定形	(1.98) × 1.36	54	凹凸	傾斜	人為		本跡 → SK63
63	Q 2.4	N - 14° - W	不定形	(2.36) × 1.33	52	凹凸	傾斜	自然		SK62 → 本跡
64	Q 2.7	N - 50° - W	椭円形	0.95 × 0.66	22	圓状	傾斜	人為		
65	Q 2.8	N - 35° - W	椭円形	0.97 × (0.86)	10	平坦	傾斜	自然		
66	P 2.7	N - 37° - W	〔椭円形〕	[1.00 × 0.91]	11	平坦	傾斜	自然		
67	P 2.8	N - 45° - W	〔方形〕	[0.83 × 0.82]	12	平坦	傾斜	自然		
68	P 2.9	-	円形	0.76 × 0.72	6	平坦	傾斜	自然		
69	P 2.0	-	円形	1.03 × (0.99)	17	平坦	外傾	自然		本跡 → SK71
70	P 2.8	N - 15° - E	椭円形	1.27 × 0.99	18	凹凸	傾斜	人為		
71	P 2.9	-	〔円形〕	[1.22 × 1.20]	23	平坦	外傾	自然		SK69 → 本跡
72	P 2.9	N - 25° - E	椭円形	2.05 × 1.72	74	圓状	傾斜	[1.28 ± 0.05] ± 0.15 土器部、埴輪部、陶器		SK73 → 本跡
73	P 2.8	N - 57° - W	椭円形	(1.78) × 1.30	(74)	圓状	傾斜	人為		本跡 → SK72, SD14
74	P 2.0	-	円形	0.64 × 0.60	20	凹凸	外傾・傾斜	自然		
75	T 2.1	N - 55° - E	長方形	1.36 × 0.82	20	平坦	外傾	自然		SD18 → 本跡
76	T 2.1	N - 89° - E	椭円形	1.54 × 1.40	44	凹凸	傾斜	自然		SK77 → 本跡
77	T 2.3	N - 78° - W	椭円形	1.36 × (0.98)	26	平坦	傾斜	人為		本跡 → SK76
78	T 1.0	-	円形	1.12 × 1.06	40	圓状	外傾	自然		
79	U 1.a0	N - 80° - W	椭円形	1.66 × 1.10	32	平坦	傾斜	自然		
80	T 2.3	-	〔椭円形〕	[1.54 × (1.10)]	28	平坦	外傾・傾斜	自然		
81	U 1.a0	N - 73° - W	椭円形	1.26 × 1.10	31	圓状	傾斜	自然		SK82 → 本跡
82	U 1.a0	N - 60° - W	椭円形	1.58 × (1.10)	30	圓状	傾斜	自然		本跡 → SK81
83	T 2.3	N - 88° - W	円形・椭円形	1.64 × (0.96)	44	平坦	傾斜	自然		
84	T 2.2	N - 30° - W	〔長方形〕	(2.04 × 1.26)	54	凹凸	傾斜	自然		SK85 → 本跡
85	T 2.2	N - 30° - W	〔長方形〕	1.96 × (1.22)	40	凹凸	外傾	自然		本跡 → SK84
87	T 2.1	N - 50° - E	椭円形	0.60 × 0.52	26	凹凸	外傾	自然		
88	P 2.e0	N - 16° - W	不定形	(1.47 × 1.25)	(30)	圓状	外傾・傾斜	人為	土器部	本跡 → SI 2

(3) 溝跡

今回の調査で、その他の溝跡 18 条を確認した。以下、土層解説と断面図（第 30-31 図）、一覧表を掲載し、平面図については遺構全体図（第 38 図）に掲載する。



第 30 図 その他の溝跡実測図(1)



第31図 その他の溝跡実測図(2)

第1号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・塊土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、桃土粒子微量

第2号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック微量
- 3 黑褐色 ローム粒子微量
- 4 黑褐色 ロームブロック少量

第3号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黑褐色 ロームブロック微量

第4号溝跡土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子少量
- 2 黑褐色 ローム粒子微量
- 3 黑褐色 ロームブロック微量
- 4 黑褐色 ローム粒子中量
- 5 黑褐色 ロームブロック中量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量
- 7 黑褐色 ローム粒子中量

第5号溝跡土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子少量
- 2 黑褐色 ローム粒子中量
- 3 黑褐色 ロームブロック少量
- 4 にふい黄褐色 ロームブロック中量

第6号溝跡土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子少量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 桃褐色 ロームブロック中量
- 5 にふい黄褐色 ロームブロック少量

第7号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、細繊微量
- 4 黑褐色 ローム粒子微量

第8号溝跡土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子少量
- 2 黑褐色 ロームブロック微量
- 3 黑褐色 ローム粒子少量
- 4 黑褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量
- 6 灰褐色 ロームブロック微量
- 7 にふい黄褐色 ロームブロック微量

第9号溝跡土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量
- 3 黄褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第10号溝跡土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 黑褐色 ロームブロック中量
- 4 黄褐色 ロームブロック中量
- 5 黑褐色 ロームブロック少量

第11号溝跡土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量
- 2 黄褐色 ロームブロック中量

第 12 号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第 13 号溝跡土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量

第 14 号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量

第 15 号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第 16 号溝跡土層解説

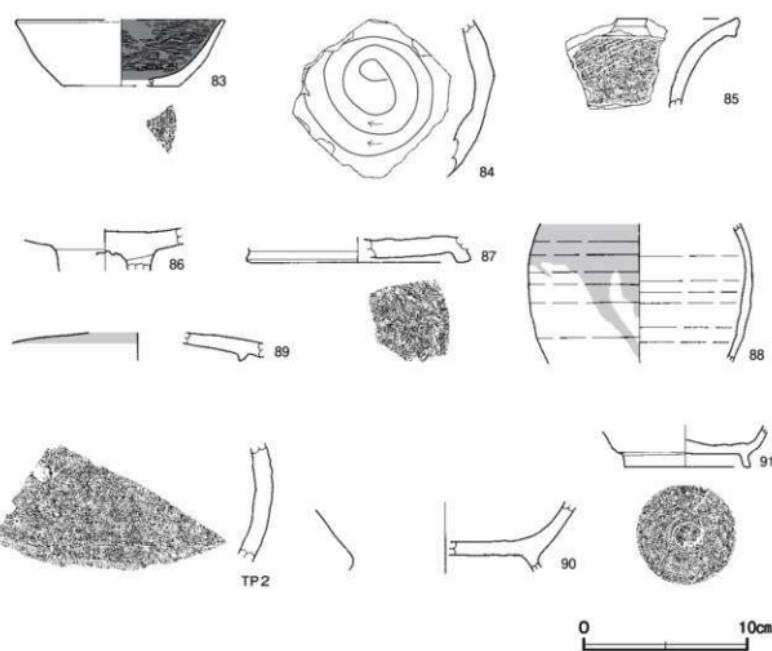
- 1 黑色 ローム粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック中量

第 17 号溝跡土層解説

- 1 黑色 ロームブロック少量
- 2 ぶい青褐色 ロームブロック中量

第 18 号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック少量



第 32 図 その他の溝跡出土遺物実測図

第 2 号溝跡出土遺物観察表（第 32 図）

番号	種別	部種	口径	壁高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
83	土器部	环	[130]	41	[70]	長石・石英、 金色粒子・鉄状物質	黒	普通	内面ヘラ削り 底部外周回転ヘラ削り	覆土上層	20% PL 6
84	須恵器	横瓶	-	(9.7)	-	長石・石英	灰白	普通 直火焼	体部外表面ヘラ削り 内面クロナデ 外面	覆土上層	5%
85	須恵器	甌	-	(5.5)	-	長石・石英、 鉄状物質	灰・黒	普通	口縁部外斜方向の横目文様	覆土上層	5% 木蓋下窯址

第4号溝跡出土遺物観察表（第32図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
86	須恵器	高盤	-	(26)	-	長石・石英	褐灰	普通	脚部4方向透かし孔 外面自然釉	覆土中	10%
87	須恵器	瓶	-	(17)	[132]	長石・石英・針状物質	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中	5% 木加下窓産
88	灰陶陶器	長頸瓶	-	(86)	-	長石・石英	灰白	普通	外・内面ロクロナデ 体部外面施釉	覆土下層	10% PL7 黒留90号窓
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
89	陶器	壺	-	(17)	-	長石・石英	外面施釉	黄釉	須口美濃	覆土下層	5%

第8号溝跡出土遺物観察表（第32図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
TP 2	須恵器	壺	長石・石英	灰白	外・内面ロクロナデ	黄釉	須口美濃	覆土中	須口内窓産

第10号溝跡出土遺物観察表（第32図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
90	陶器	壺	-	(43)	-	長石・石英 灰陶	外・内面ロクロナデ	黄釉	常滑窯	覆土下層	5%

第12号溝跡出土遺物観察表（第32図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
91	須恵器	高台付壺	-	(26)	78	長石・石英・ 針状物質・網織	褐色 普通 斜め	外・内面ロクロナデ 底部回転ヘク切り後高台	黄釉	須口上層	30% 木加下窓産

表5 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規 模			断面	壁面	覆 土	主な出土遺物	備 考	
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)						
1	R 2d2～R 2d5	N - 53° - W	直線	(14.9)	0.28 ~ 0.56	0.12 ~ 0.42	7 ~ 8	逆台形	外傾	自然	土師器	PG 1と重複
2	R 2d2～R 2g5	N - 50° - W	直線	(22.8)	0.25 ~ 1.20	0.15 ~ 0.66	30 ~ 69	逆台形	外傾	自然	土師器、須恵器	SD 3 ～本路、 PG 1と重複
3	R 2d2～R 2e3	N - 51° - W	直線	(6.4)	0.33 ~ 0.60	0.15 ~ 0.28	22 ~ 46	U字状	外傾	自然	土師器	本路～SD 2、 PG 1と重複
4	Q 2d3～Q 2e3	N - 64° - E	直線	(36.2)	0.62 ~ 1.08	0.10 ~ 0.44	17 ~ 48	U字状	被斜	人為	土師器、須恵器、灰陶陶 器、陶器	本路～ SD11、SK61
5	Q 2g3～Q 2h7	N - 63° - E	直線	(18.2)	0.71 ~ 1.94	0.14 ~ 0.47	24 ~ 36	逆台形	被斜	自然	土師器、須恵器、陶器	
6	Q 2g6～R 2g6	N - 2° - E	直線	(37.1)	0.38 ~ 0.96	0.15 ~ 0.34	9 ~ 36	逆台形	外傾、 被斜	自然	土師器	PG 1と重複
7	V 2g3～V 2h3	N - 42° - E	直線	(4.4)	0.60 ~ 0.84	0.24 ~ 0.36	30 ~ 69	U字状	外傾、 被斜	自然	土師器	SD 8、SF 1 → 本路
8	V 2g3～V 2h3	N - 51° - E	直線	(4.2)	1.56 ~ 2.56	0.21 ~ 0.30	136	U字状	被斜	自然	須恵器	本路～SD 7、 SF 1
9	S 1c9～S 2c2	N - 89° - E	直線	(12.9)	0.68 ~ 1.50	0.40 ~ 0.71	27	逆台形	外傾、 被斜	自然	土師器、陶器	PG 7と重複
10	S 1c9～S 2e1	N - 68° - W N - 42° - W	湾曲	11.4	0.72 ~ (1.57)	0.24 ~ 0.42	50 ~ 62	U字状	被斜	人為	土師器、須恵器、陶器	
11	Q 2b4～Q 2g7	N - 74° - E	直線	11.9	0.18 ~ 0.24	0.10 ~ 0.18	25	U字状	被斜	自然		SD 4 → 本路
12	P 2g8～P 2g9	N - 89° - W	直線	(11.9)	0.38 ~ 0.66	0.14 ~ 0.34	30 ~ 70	U字状	外傾、 被斜	自然	土師器、須恵器	本路～SD13
13	P 2g8～P 2g9	N - 89° - W	直線	(11.8)	0.60 ~ 0.95	0.22 ~ 0.51	45 ~ 70	逆台形	外傾	自然	土師器、須恵器	SD12+～本路～SD14
14	P 2g8～P 2g9	N - 39° - W	直線	(13.9)	0.68 ~ 0.58	0.14 ~ 0.28	50	U字状	外傾	自然	土師器、須恵器	SK73、SD13～ 15 → 本路
15	P 2g8～P 3g1	N - 89° - E	直線	(11.2)	0.32 ~ 0.57	0.16 ~ 0.30	45 ~ 52	逆台形	外傾	自然	土師器	本路～SD14、 PG 8と重複
16	T 2g2～T 2g2	N - 30° - W	直線	7.5	0.48 ~ 0.64	0.20 ~ 0.24	18	U字状	被斜	自然	須恵器	
17	T 2h1～T 2g2	N - 34° - W	直線	6.5	0.42 ~ 0.60	0.20 ~ 0.34	10	U字状	被斜	自然		
18	T 1h0～T 2g2	N - 33° - W	直線	11.2	0.25 ~ 0.40	0.06 ~ 0.12	12	U字状	被斜	自然	土師器、陶器	本路～SK75

(4) 道路跡

第1号道路跡(第33図)

位置 調査A区南部のV 2 g3区。標高43mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第8号溝跡の後に構築され、第7号溝に掘り込まれている。

規模と形状 V 2 g3区を北東(N-57°-E)に向かって伸びている。確認できた長さは4.2m、幅1.1m、深さ35cmである。断面は緩やかなU字状である。

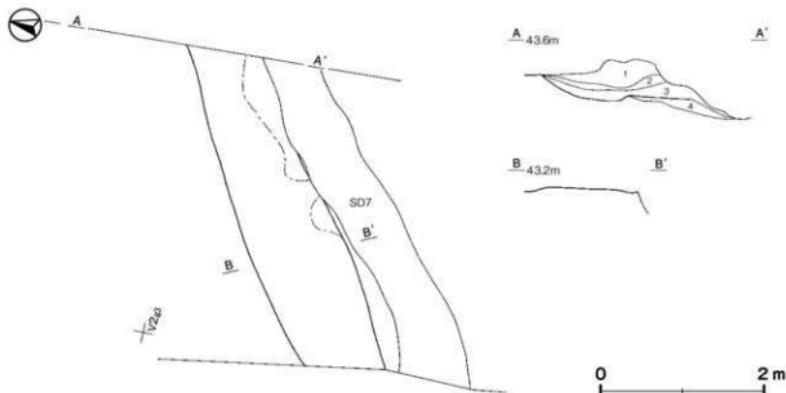
覆土 4層に分層できる。第1~3層はレンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。第4層の上面が硬化しており、路面の構築土と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量
2 黒褐色 ロームブロック微量

3 暗褐色 ロームブロック微量
4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

所見 出土遺物がなく、時期は不明である。



第33図 第1号道路跡実測図

(5) ピット群

今回の調査で、ピット群6か所が確認できた。いずれも明確に建物を想定できず、また伴出する遺物がないことから、時期を決定することもできない。ここではピット群計測表を記載し、平面図は遺構全体図(第38図)に掲載する。



第34図 第4・8号ピット群出土遺物実測図

第4号ピット群ピット出土遺物観察表（第34図）

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP24	管状土鉢	(4.0)	L1	0.3	(4.6)	長石・石英・ 斜長石質	にぶい褐色	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	P 5 鹿土中	

第8号ピット群ピット出土遺物観察表（第34図）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土・色調	文様・特徴	種類	産地	出土位置	備考
92	陶器	鉢	-	(6.9)	-	灰瓦・石英・輝 石質	部外側面ナデ		常滑窯	P48 鹿土中	5%

第1号ピット群ピット計測表

番号	位置	形状	規格 (cm)			番号	位置	形状	規格 (cm)			番号	位置	形状	規格 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	R 2 g5	（椭円形）	58	(54)	24	53	R 2 g2	椭円形	22	20	11	109	R 2 g7	椭円形	30	24	19
2	R 2 g5	椭円形	50	38	25	56	R 2 g2	円形	48	44	13	110	R 2 g7	椭円形	38	30	40
3	R 2 g5	円形	32	32	14	57	R 2 g2	円形	24	22	23	111	R 2 f4	椭円形	22	18	36
4	R 2 g4	椭円形	36	32	34	58	R 2 g2	椭円形	18	14	27	112	R 2 f4	椭円形	20	18	19
5	R 2 g4	椭円形	22	16	24	59	R 2 g2	円形	40	32	18	113	R 2 f5	円形	22	22	56
6	R 2 g4	椭円形	20	18	25	60	R 2 g2	円形	30	28	23	114	R 2 f5	椭円形	30	24	50
7	R 2 h4	椭円形	40	36	43	61	R 2 g2	円形	34	32	15	115	R 2 f5	椭円形	30	28	30
8	R 2 h3	円形	28	28	25	62	R 2 g3	椭円形	26	22	24	116	R 2 f5	椭円形	29	16	24
9	R 2 h3	椭円形	28	24	19	63	R 2 g3	円形	38	36	38	117	R 2 f5	椭円形	40	18	34
10	R 2 h3	（椭円形）	32	(22)	26	64	R 2 g3	椭円形	42	36	40	118	R 2 f5	椭円形	28	24	35
11	R 2 h3	椭円形	32	22	24	65	R 2 g3	椭円形	22	20	18	119	R 2 f5	椭円形	26	16	42
12	R 2 h4	円形	34	34	50	66	R 2 g3	円形	24	22	34	120	R 2 f5	椭円形	22	20	32
13	R 2 h4	椭円形	46	32	32	67	R 2 g3	椭円形	22	20	15	121	R 2 f5	椭円形	20	18	24
14	R 2 h4	円形	20	20	17	68	R 2 g3	椭円形	22	18	15	122	R 2 f5	椭円形	40	24	34
15	R 2 h4	円形	30	28	21	69	R 2 g3	円形	24	24	10	123	R 2 f4	椭円形	22	20	23
16	R 2 h3	円形	24	24	18	70	R 2 f4	円形	22	22	22	124	R 2 f4	椭円形	30	22	52
17	R 2 h3	円形	50	50	16	71	R 2 f4	椭円形	36	32	11	125	R 2 f4	椭円形	40	28	65
18	R 2 h3	椭円形	22	18	17	72	R 2 g3	椭円形	22	20	20	126	R 2 f4	椭円形	22	20	20
19	R 2 h3	円形	36	34	34	73	R 2 g3	円形	26	24	30	127	R 2 f4	椭円形	36	24	70
20	R 2 g3	（不整円形）	36	32	24	74	R 2 f8	円形	20	20	13	128	R 2 f4	円形	18	18	40
21	R 2 g3	椭円形	38	30	30	75	R 2 g4	（円形）	30	(28)	39	129	R 2 f4	椭円形	34	22	52
22	R 2 h3	椭円形	26	22	20	76	R 2 g4	椭円形	24	18	21	130	R 2 f4	椭円形	36	26	39
23	R 2 h3	椭円形	22	20	15	77	R 2 g4	円形	24	24	19	131	R 2 f3	椭円形	30	20	43
24	R 2 h2	椭円形	44	40	23	78	R 2 g4	円形	50	46	82	132	R 2 e3	椭円形	42	30	46
25	R 2 g3	椭円形	38	32	17	79	R 2 h4	椭円形	20	18	32	133	R 2 f4	円形	20	20	18
26	R 2 g3	円形	28	26	28	80	R 2 h4	椭円形	30	20	20	134	R 2 f3	椭円形	32	28	30
27	R 2 g3	椭円形	30	22	52	81	R 2 h4	円形	20	20	27	135	R 2 e3	椭円形	24	14	60
28	R 2 g3	椭円形	36	30	30	82	R 2 h5	椭円形	40	34	19	136	R 2 e3	椭円形	40	18	58
29	R 2 g3	円形	26	24	14	83	R 2 h5	円形	20	20	20	137	R 2 e3	椭円形	22	20	33
30	R 2 g2	円形	24	22	28	84	R 2 h5	（不整円形）	28	24	33	138	R 2 e3	（円形）	30	(26)	77
31	R 2 g2	円形	36	34	18	85	R 2 g5	椭円形	26	22	25	139	R 2 e3	（円形）	36	(32)	52
32	R 2 g2	円形	28	26	20	86	R 2 g5	椭円形	24	14	42	140	R 2 e3	椭円形	30	24	56
33	R 2 g3	椭円形	22	20	16	87	R 2 g5	椭円形	18	14	16	141	R 2 e3	椭円形	28	22	34
34	R 2 g3	円形	24	22	22	88	R 2 g5	円形	22	22	31	142	R 2 e3	椭円形	40	34	24
35	R 2 g2	椭円形	32	22	26	89	R 2 g5	椭円形	26	22	23	143	R 2 e3	円形	34	32	58
36	R 2 g2	椭円形	24	20	30	90	R 2 g5	椭円形	54	42	16	144	R 2 e3	円形	36	34	49
37	R 2 g2	椭円形	22	20	40	91	R 2 e4	円形	30	30	23	145	R 2 e3	円形	26	24	34
38	R 2 g2	円形	34	34	35	92	R 2 g5	椭円形	30	26	18	146	R 2 e3	円形	26	24	38
39	R 2 g2	椭円形	42	34	39	93	R 2 g5	椭円形	20	18	19	147	R 2 e3	椭円形	30	24	33
40	R 2 g2	椭円形	40	36	53	94	R 2 g5	椭円形	16	12	54	148	R 2 e3	椭円形	42	30	26
41	R 2 g3	椭円形	58	40	40	95	R 2 g5	椭円形	22	14	53	149	R 2 e2	椭円形	22	20	35
42	R 2 g3	円形	24	24	44	96	R 2 g5	椭円形	36	26	-	150	R 2 f2	円形	30	28	36
43	R 2 g2	椭円形	24	20	30	97	R 2 g5	椭円形	36	30	57	151	R 2 f2	円形	18	18	23
44	R 2 g2	椭円形	42	32	44	98	R 2 g5	椭円形	36	30	64	152	R 2 f4	円形	20	20	49
45	R 2 g2	椭円形	20	16	28	99	R 2 g5	椭円形	24	18	32	153	R 2 e2	円形	24	24	22
46	R 2 f2	椭円形	60	42	45	100	R 2 g5	椭円形	36	28	66	154	R 2 e2	椭円形	28	24	28
47	R 2 f2	椭円形	42	26	58	101	R 2 g5	椭円形	24	20	35	155	R 2 e2	椭円形	38	34	20
48	R 2 f2	円形	44	42	20	102	R 2 g5	円形	26	26	54	156	R 2 d2	円形	30	28	21
49	R 2 f2	円形	20	20	32	103	R 2 g5	円形	20	20	45	157	R 2 d2	椭円形	28	24	30
50	R 2 f2	椭円形	38	34	16	104	R 2 g5	椭円形	22	20	48	158	R 2 d2	円形	24	22	34
51	R 2 f2	椭円形	40	34	40	105	R 2 g5	椭円形	20	16	52	159	R 2 d2	（円形）	30	(28)	26
52	R 2 e1	椭円形	40	30	29	106	R 2 g5	椭円形	26	(20)	16	160	R 2 d2	円形	30	28	50
53	R 2 e2	円形	28	26	53	107	R 2 g5	円形	26	26	39	161	R 2 d2	不定形	50	40	40
54	R 2 e2	円形	44	38	20	108	R 2 g4	椭円形	24	20	11	162	R 2 d2	椭円形	24	18	36

番号	位置	形状	規格 (cm)			番号	位置	形状	規格 (cm)			番号	位置	形状	規格 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
163	R 2 d2	椭円形	30	26	20	207	R 2 e4	円形	20	20	30	251	R 2 b6	椭円形	22	20	19
164	R 2 d2	円形	38	36	38	208	R 2 e4	椭円形	20	18	37	252	R 2 b6	椭円形	24	20	13
165	R 2 d2	椭円形	24	20	39	209	R 2 e4	椭円形	34	22	29	253	R 2 b6	円形	22	22	20
166	R 2 d2	椭円形	30	24	29	210	R 2 e4	椭円形	30	20	35	254	R 2 a6	円形	24	22	18
167	R 2 d3	椭円形	24	20	27	211	R 2 e4	椭円形	34	26	34	255	R 2 a6	椭円形	22	20	73
168	R 2 d3	椭円形	30	26	22	212	R 2 H	椭円形	42	30	41	256	R 2 a5	円形	28	24	10
169	R 2 d3	椭円形	26	16	29	213	R 2 H	円形	16	16	43	257	R 2 b5	椭円形	24	20	15
170	R 2 d3	椭円形	26	22	48	214	R 2 e4	椭円形	26	22	45	258	R 2 b5	椭円形	22	20	28
171	R 2 d3	円形	20	20	20	215	R 2 e5	椭円形	22	20	25	259	R 2 b5	円形	22	22	20
172	R 2 d3	円形	24	22	21	216	R 5 e5	椭円形	30	24	37	260	R 2 b5	椭円形	30	22	19
173	R 2 d3	円形	26	26	15	217	R 2 H	円形	28	26	26	261	R 2 b5	円形	24	22	22
174	R 2 d3	円形	24	24	29	218	R 2 G	椭円形	30	20	33	262	R 2 b5	円形	24	24	26
175	R 2 d3	椭円形	20	18	43	219	R 2 G	椭円形	22	20	30	263	R 2 b5	[円柱]	22	(22)	15
176	R 2 d3	円形	22	22	15	220	R 2 G	円形	26	22	38	264	R 2 b5	円形	22	22	26
177	R 2 d3	椭円形	32	26	30	221	R 2 G	円形	30	24	23	265	R 2 b5	椭円形	30	26	34
178	R 2 d3	椭円形	44	30	50	222	R 2 G	円形	20	20	21	266	R 2 c3	円形	40	38	52
179	R 2 d3	椭円形	22	20	45	223	R 2 G	椭円形	24	18	51	267	R 2 c3	椭円形	32	28	15
180	R 2 d3	椭円形	30	22	29	224	R 2 G	円形	34	32	18	268	R 2 c3	円形	32	30	19
181	R 2 d4	円形	12	12	22	225	R 2 G	円形	26	24	26	269	R 2 c3	椭円形	42	38	25
182	R 2 e3	椭円形	28	22	38	226	R 2 G	円形	29	20	21	270	R 2 b3	円形	30	28	21
183	R 2 e3	椭円形	22	18	42	227	R 2 G	円形	20	20	30	271	R 2 b3	円形	34	32	57
184	R 2 e3	椭円形	22	16	42	228	R 2 G	椭円形	28	22	21	272	R 2 b4	椭円形	26	20	12
185	R 2 e3	椭円形	22	20	33	229	R 2 G	円形	20	20	25	273	R 2 b4	円形	28	22	25
186	R 2 e3	椭円形	26	22	33	230	R 2 G	椭円形	38	32	23	274	R 2 b3	椭円形	24	20	12
187	R 2 e3	椭円形	34	28	44	231	R 2 G	椭円形	34	26	17	275	R 2 b3	円形	32	30	15
188	R 2 e3	椭円形	22	20	35	232	R 2 G	円形	26	24	19	276	R 2 b4	椭円形	28	20	40
189	R 2 e3	円形	26	24	35	233	R 2 G	円形	32	30	26	277	R 2 b4	円形	28	26	20
190	R 2 e3	椭円形	20	18	33	234	R 2 G	円形	50	46	18	278	R 2 b4	椭円形	22	20	17
191	R 2 d4	椭円形	24	20	50	235	R 2 G	椭円形	44	40	45	279	R 2 b5	円形	22	22	23
192	R 2 d4	椭円形	20	16	39	236	R 2 G	椭円形	28	22	15	280	R 2 a5	椭円形	26	20	18
193	R 2 d4	椭円形	20	14	26	237	R 2 G	円形	20	20	23	281	R 2 a5	椭円形	32	22	19
194	R 2 d4	椭円形	26	22	26	238	R 2 G	円形	30	28	25	282	R 2 a4	円形	32	32	40
195	R 2 d4	椭円形	28	24	20	239	R 2 G	椭円形	28	20	20	283	Q 2 24	椭円形	28	20	18
196	R 2 d4	円形	32	30	16	240	R 2 c2	円形	24	22	22	284	R 2 a4	椭円形	22	20	33
197	R 2 d4	椭円形	18	14	33	241	R 2 c5	椭円形	32	24	26	285	R 2 a3	円形	40	32	12
198	R 2 d4	椭円形	30	22	33	242	R 2 c5	円形	26	20	12	286	R 2 g5	円形	36	24	60
199	R 2 d4	椭円形	20	18	40	243	R 2 c6	椭円形	28	22	33	287	R 2 a3	円形	40	34	87
200	R 2 d4	椭円形	22	20	21	244	R 2 c6	円形	32	30	25	288	R 2 a3	円形	32	30	38
201	R 2 d4	椭円形	34	32	36	245	R 2 c6	椭円形	22	20	15	289	R 2 a3	円形	30	28	23
202	R 2 d4	椭円形	34	26	26	246	R 2 c6	円形	30	28	20	290	Q 2 23	円形	40	40	90
203	R 2 e4	椭円形	30	24	17	247	R 2 c7	椭円形	20	18	15	291	Q 2 24	円形	44	42	31
204	R 2 e4	椭円形	22	16	50	248	R 2 c6	椭円形	24	20	18	292	Q 2 24	椭円形	28	24	30
205	R 2 e4	椭円形	20	16	26	249	R 2 c6	円形	20	20	20	293	Q 2 23	円形	36	34	13
206	R 2 e4	椭円形	28	24	43	250	R 2 c6	椭円形	24	20	15	294	R 2 g5	椭円形	16	10	42

第2号ピット群ピット計測表

番号	位置	形状	規格 (cm)			番号	位置	形状	規格 (cm)			番号	位置	形状	規格 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	T 1 g5	円形	12	12	18	20	T 1 e8	椭円形	24	19	20	39	T 1 d9	椭円形	25	22	28
2	T 1 g5	椭円形	22	18	27	21	T 1 e8	椭円形	28	19	27	40	T 1 d9	椭円形	28	24	22
3	T 1 g5	椭円形	16	14	26	22	T 1 e8	椭円形	34	26	19	41	T 1 d9	円形	32	32	43
4	T 1 g5	椭円形	20	14	19	23	T 1 e8	椭円形	22	19	14	42	T 1 e9	椭円形	32	25	11
5	T 1 g9	[円形]	18	(10)	19	24	T 1 e8	椭円形	24	18	7	43	T 1 e8	椭円形	26	21	14
6	T 1 g9	椭円形	28	21	39	25	T 1 e8	円形	23	21	10	44	T 1 e8	椭円形	17	14	9
7	T 1 g9	椭円形	22	16	37	26	T 1 e8	椭円形	24	20	22	45	T 1 e9	椭円形	22	18	22
8	T 1 g9	椭円形	32	30	58	27	T 1 e8	椭円形	24	20	6	46	T 1 e9	円形	26	25	19
9	T 1 g9	椭円形	28	24	54	28	T 1 e8	椭円形	28	22	28	47	T 1 e8	円形	19	19	14
10	T 1 g9	円形	24	22	29	29	T 1 e8	椭円形	25	20	12	48	T 1 e9	椭円形	40	23	41
11	T 1 g9	椭円形	28	24	16	30	T 1 d8	椭円形	26	17	6	49	T 1 e9	椭円形	26	19	38
12	T 1 g9	椭円形	20	17	23	31	T 1 d8	椭円形	24	19	19	50	T 1 e9	椭円形	28	24	33
13	T 1 g9	椭円形	35	28	19	32	T 1 d8	椭円形	24	18	25	51	T 1 e9	円形	32	30	12
14	T 1 g9	椭円形	28	25	14	33	T 1 d8	円形	24	24	16	52	T 1 e9	椭円形	26	22	18
15	T 1 g9	椭円形	22	16	9	34	T 1 d8	円形	22	22	31	53	T 1 e9	椭円形	24	21	14
16	T 1 g9	椭円形	32	29	18	35	T 1 d8	円形	24	22	16	54	T 1 e9	円形	22	22	9
17	T 1 g9	椭円形	32	26	38	36	T 1 d8	椭円形	29	21	65	55	T 1 e9	椭円形	24	18	12
18	T 1 g9	椭円形	21	18	30	37	T 1 d8	椭円形	20	17	25	56	T 1 e9	円形	31	30	13
19	T 1 g8	椭円形	25	20	56	38	T 1 d9	円形	16	15	13	57	T 1 e9	円形	16	15	16

番号	位置	形状	幾何 (cm)			番号	位置	形状	幾何 (cm)			番号	位置	形状	幾何 (cm)		
			長辺	短辺	深さ				長辺	短辺	深さ				長辺	短辺	深さ
58	T 1φ	椭円形	22	17	28	111	T 2d1	椭円形	25	20	-	164	S 1φ	椭円形	30	26	15
59	T 1φ	椭円形	34	26	51	112	T 2d1	椭円形	30	25	45	165	S 1φ	椭円形	46	26	22
60	T 1φ	椭円形	18	15	26	113	T 2d1	椭円形	28	23	25	166	S 1φ	椭円形	32	27	25
61	T 1φ	椭円形	22	17	44	114	T 2d1	椭円形	32	26	28	167	S 1φ	椭円形	18	14	17
62	T 1e0	円形	17	16	30	115	T 2d1	円形	20	20	43	168	S 1φ	椭円形	30	24	31
63	T 1e0	円形	32	32	39	116	T 2d1	椭円形	30	24	16	169	S 1φ	円形	33	32	12
64	T 1e0	椭円形	28	20	24	117	T 2d1	椭円形	20	18	29	170	S 1φ	円形	30	28	51
65	T 1e0	椭円形	26	23	10	118	T 2d1	椭円形	(24)	23	10	171	S 1φ	椭円形	22	19	19
66	T 1e0	円形	20	19	12	119	T 2d1	椭円形	38	30	28	172	T 1φ	椭円形	24	21	27
67	T 1e0	椭円形	26	18	43	120	T 2d1	椭円形	32	28	31	173	T 1φ	椭円形	27	24	16
68	T 1e0	椭円形	32	29	46	121	T 2d1	椭円形	24	18	42	174	T 1e0	椭円形	22	18	28
69	T 1e0	椭円形	22	19	25	122	T 2d1	椭円形	22	18	43	175	T 1e0	円形	46	44	27
70	T 1e0	椭円形	37	30	67	123	T 1φ	椭円形	26	18	9	176	S 1φ	[椭円形]	(19)	38	52
71	T 1e9	椭円形	40	33	17	124	T 1d0	椭円形	29	24	24	177	T 1e0	円形	31	31	35
72	T 1e9	椭円形	26	23	27	125	T 1d0	円形	34	32	20	178	T 1e0	円形	35	30	22
73	T 1e0	椭円形	29	26	21	126	T 1d0	椭円形	26	19	16	179	T 2a1	円形	29	28	49
74	T 1e0	椭円形	40	35	31	127	T 1d0	円形	32	30	71	180	T 2a1	円形	21	20	23
75	T 1e0	椭円形	38	34	36	128	T 1d0	椭円形	34	28	24	181	T 1b0	椭円形	32	27	19
76	T 1e0	円形	33	32	34	129	T 1d0	円形	36	33	39	182	T 1b0	円形	30	30	43
77	T 1e9	椭円形	33	23	26	130	T 1d0	椭円形	23	20	32	183	T 1b0	椭円形	26	23	40
78	T 1e9	椭円形	22	18	21	131	T 1d0	椭円形	18	16	27	184	T 1b0	椭円形	32	25	34
79	T 1e9	椭円形	20	14	29	132	T 1d0	円形	28	24	21	185	T 1b0	椭円形	26	20	31
80	T 1d0	円形	19	18	25	133	T 1d0	円形	28	27	40	186	T 1b0	椭円形	28	21	37
81	T 1d0	椭円形	26	22	33	134	T 1d0	円形	27	27	28	187	T 1b0	[円形]	(22)	22	30
82	T 1d0	椭円形	28	25	24	135	T 1d0	円形	25	23	39	188	T 2b1	[円形]	(16)	16	17
83	T 1d0	円形	23	21	35	136	T 1d0	椭円形	36	30	19	189	T 2b1	[円形]	(23)	23	21
84	T 1e0	椭円形	46	34	70	137	T 1d0	円形	30	30	22	190	T 2b1	椭円形	20	17	25
85	T 1e0	円形	28	25	54	138	T 1b8	椭円形	28	25	18	191	T 2b1	椭円形	66	44	19
86	T 1d0	椭円形	40	33	47	139	T 1b8	円形	29	28	19	192	T 2b1	椭円形	30	23	17
87	T 1d0	椭円形	27	24	19	140	T 1b9	椭円形	28	24	14	193	T 2b1	椭円形	40	33	24
88	T 1d0	椭円形	26	23	22	141	T 1b9	椭円形	30	26	13	194	T 2b1	円形	29	28	37
89	T 1e0	椭円形	32	22	30	142	T 1b9	椭円形	31	24	20	195	T 2c1	椭円形	35	30	22
90	T 1e0	椭円形	38	28	59	143	T 1b9	椭円形	22	20	24	196	T 2c1	椭円形	27	24	49
91	T 1e0	[円形]	23	(18)	31	144	T 1b9	椭円形	49	28	48	197	T 2c1	椭円形	30	20	22
92	T 1e0	椭円形	28	19	27	145	T 1b9	椭円形	28	23	31	198	T 2c1	椭円形	26	22	19
93	T 1e0	[椭円形]	(32)	32	28	146	T 1b9	円形	17	14	26	199	T 2c1	円形	30	28	26
94	T 2e1	円形	26	24	37	147	T 1b9	椭円形	40	35	16	200	T 2c1	円形	24	24	22
95	T 1e0	椭円形	38	31	31	148	T 1d0	椭円形	32	20	17	201	T 2c1	円形	24	22	17
96	T 1e0	椭円形	20	18	19	149	T 1d0	円形	26	24	15	202	T 2c1	椭円形	27	24	25
97	T 2e1	椭円形	17	15	25	150	T 1d0	円形	30	26	17	203	T 2c2	椭円形	32	28	36
98	T 2e1	椭円形	30	27	27	151	T 1d0	椭円形	34	29	9	204	T 2c2	椭円形	44	34	25
99	T 2e1	椭円形	25	20	22	152	T 1d0	[椭円形]	(20)	30	28	205	T 2c2	円形	11	11	8
100	T 2e1	円形	26	24	57	153	T 1d0	円形	28	28	15	206	T 2c2	椭円形	14	10	6
101	T 2e1	椭円形	36	26	25	154	T 1d0	椭円形	18	13	10	207	T 2c2	椭円形	24	20	11
102	T 2e1	椭円形	20	18	22	155	T 1d0	椭円形	28	18	13	208	T 2c2	円形	44	41	18
103	T 2d1	円形	13	12	13	156	T 1d0	椭円形	16	13	28	209	T 2c2	円形	24	24	41
104	T 2d1	椭円形	28	25	19	157	S 1φ	椭円形	30	25	41	210	T 2c2	椭円形	21	17	44
105	T 2d1	椭円形	43	28	31	158	S 1φ	[椭円形]	(20)	24	27	211	T 2d2	椭円形	26	21	17
106	T 2d1	椭円形	40	36	42	159	S 1φ	椭円形	34	26	16	212	T 2d2	椭円形	38	30	67
107	T 2d1	椭円形	21	18	20	160	S 1φ	椭円形	38	31	24	213	T 2d2	椭円形	26	22	38
108	T 2d1	椭円形	23	20	25	161	S 1φ	椭円形	30	25	21	214	T 2c2	椭円形	25	22	38
109	T 2d1	椭円形	32	20	41	162	S 1φ	椭円形	32	28	14	215	T 2c2	円形	21	20	27
110	T 2d1	円形	22	21	-	163	S 1φ	椭円形	26	20	10	216	T 2c2	[椭円形]	(11)	19	41

第3号ピット群ピット計測表

番号	位置	形状	幾何 (cm)			番号	位置	形状	幾何 (cm)			番号	位置	形状	幾何 (cm)		
			長辺	短辺	深さ				長辺	短辺	深さ				長辺	短辺	深さ
1	U 2g1	椭円形	24	18	17	13	U 2d2	椭円形	28	24	48	25	U 2e1	椭円形	25	20	35
2	U 2g1	椭円形	20	15	21	14	U 2d2	椭円形	21	17	15	26	U 2e1	椭円形	24	18	34
3	U 2g2	椭円形	21	18	51	15	U 2d2	椭円形	25	22	15	27	U 2d1	椭円形	22	18	16
4	U 2d2	椭円形	22	18	26	16	U 2d2	椭円形	22	18	20	28	U 2d1	円形	20	20	18
5	U 2d2	椭円形	26	22	22	17	U 2d1	円形	28	26	24	29	U 2d1	椭円形	20	18	12
6	U 2d2	椭円形	24	22	19	18	U 2d2	椭円形	16	14	20	30	U 2d2	椭円形	24	18	41
7	U 2d2	椭円形	22	17	49	19	U 2d2	椭円形	31	22	22	31	U 2d2	椭円形	26	23	21
8	U 2d2	椭円形	18	15	20	20	U 2f1	円形	18	18	24	32	U 2d2	椭円形	30	36	30
9	U 2d2	円形	23	21	30	21	U 2f1	円形	21	21	15	33	U 2d2	椭円形	25	21	25
10	U 2d2	椭円形	20	18	22	22	U 2f1	円形	25	24	22	34	U 2d2	椭円形	26	(18)	44
11	U 2d2	椭円形	36	17	28	23	U 2f1	椭円形	17	15	18	24	U 2e1	椭円形	22	17	20
12	U 2d2	円形	19	18	26	24	U 2e1	椭円形	22	17	20	-					

第4号ピット群ピット計測表

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
1	O 3g3	楕円形	37	32	22
2	O 3g5	楕円形	45	42	17
3	P 3e1	楕円形	32	[31]	30
4	P 3e1	楕円形	21	[21]	15
5	P 3e2	楕円形	31	25	52
6	P 3e1	楕円形	30	22	17
7	P 3e1	楕円形	26	22	15
8	P 3d2	楕円形	26	23	46
9	P 3d2	楕円形	27	25	26
10	P 3d2	楕円形	29	21	12
11	P 3d1	楕円形	29	24	18
12	P 3d1	楕円形	24	20	31
13	P 3d1	楕円形	25	21	19
14	P 3d2	楕円形	22	21	20
15	P 3d2	楕円形	30	24	26
16	P 3d2	楕円形	22	21	23
17	P 3d2	楕円形	28	23	23
18	P 3d2	楕円形	18	17	12
19	P 3c1	楕円形	41	31	24
20	P 3d1	楕円形	23	23	24
21	P 3c1	楕円形	35	29	36
22	P 3c1	楕円形	26	24	15
23	P 3c1	楕円形	26	26	43
24	P 3c1	楕円形	27	23	27

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
25	P 3c2	楕円形	25	23	22
26	P 3c1	楕円形	26	22	35
27	P 3c1	楕円形	27	23	26
28	P 3c2	楕円形	31	29	35
29	P 3c2	楕円形	25	25	26
30	P 3c2	楕円形	29	28	14
31	P 3c1	楕円形	26	25	31
32	P 3c1	楕円形	26	26	17
33	P 3c1	楕円形	39	35	21
34	P 3a2	楕円形	27	25	28
35	P 3j2	楕円形	26	19	32
36	P 3j2	楕円形	23	21	33
37	P 3j2	楕円形	19	18	19
38	P 3j3	楕円形	24	21	29
39	P 3j3	〔楕円形〕	(25)	(10)	22
40	P 3j3	楕円形	27	23	44
41	P 3j3	楕円形	17	14	21
42	O 3j2	楕円形	25	21	13
43	O 3j2	楕円形	29	25	31
44	O 3j2	楕円形	23	23	29
45	O 3j2	楕円形	21	21	25
46	O 3j2	楕円形	22	20	38
47	O 3j2	楕円形	32	25	40
48	O 3j3	楕円形	21	18	13

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
49	O 3j3	楕円形	20	18	22
50	O 3j3	楕円形	18	17	15
51	O 3j3	楕円形	21	17	6
52	O 3j3	楕円形	19	18	45
53	O 3j3	楕円形	18	15	5
54	O 3j3	楕円形	19	18	39
55	O 3j3	〔楕円形〕	17	17	55
56	O 3j3	〔楕円形〕	43	(29)	19
57	O 3j3	楕円形	21	18	18
58	O 3j3	楕円形	18	16	15
59	O 3j3	楕円形	22	20	17
60	O 3j3	楕円形	19	18	18
61	O 3j3	楕円形	26	23	58
62	O 3j3	楕円形	37	35	29
63	P 3d2	楕円形	23	21	22
64	P 3d2	楕円形	34	31	60
65	P 3d1	楕円形	28	28	18
66	P 3d1	楕円形	23	20	22
67	P 3c2	楕円形	28	26	11
68	P 3c1	楕円形	25	22	18
69	P 3c1	楕円形	34	32	29
70	P 3bl	楕円形	33	29	37
71	O 3j2	楕円形	26	20	8
72	P 3a2	楕円形	43	30	21

第7号ピット群ピット計測表

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
1	S 2c1	不整円形	46	42	14
2	S 2c2	〔楕円形〕	(50)	(48)	29
3	S 2d2	楕円形	37	35	20
4	S 2d3	楕円形	41	36	28
5	S 2d3	楕円形	58	47	30
6	S 2d3	楕円形	50	48	34
7	S 2d2	楕円形	51	46	54
8	S 2d2	楕円形	43	40	21
9	S 2d1	楕円形	35	30	20
10	S 2c2	不整円形	60	50	18
11	S 2c2	不整円形	45	38	34
12	S 2c2	楕円形	48	39	60
13	S 2f2	楕円形	51	48	17
14	S 2f1	楕円形	43	37	23
15	S 2c1	楕円形	43	40	41
16	S 2e3	楕円形	41	31	38
17	S 2f1	楕円形	35	30	22
18	S 1b0	楕円形	39	35	20
19	S 2f2	楕円形	33	25	16
20	S 1e0	不整円形	39	39	15
21	S 1e0	楕円形	48	39	19
22	S 1e0	〔楕円形〕	(60)	52	46

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
23	S 1d9	〔楕円形〕	35	(30)	24
24	S 1d9	楕円形	56	47	27
25	S 1e9	楕円形	85	63	27
26	S 1g0	楕円形	33	27	18
27	S 1g8	楕円形	46	41	15
28	S 1e9	楕円形	46	40	31
29	S 2g3	楕円形	46	42	16
30	S 1d9	楕円形	36	29	47
31	S 1e9	楕円形	35	31	48
32	S 1e0	楕円形	35	33	31
33	S 2g3	楕円形	41	37	20
34	S 2g1	楕円形	31	29	11
35	S 1e9	楕円形	27	27	42
36	S 1g0	楕円形	49	36	28
37	S 1g0	楕円形	23	20	14
38	S 1h0	楕円形	23	21	26
39	S 2b2	楕円形	35	30	35
40	S 1g8	楕円形	40	27	26
41	S 2b2	楕円形	29	22	21
42	S 2b2	楕円形	27	24	22
43	S 2i2	楕円形	35	31	44
44	S 2i2	〔楕円形〕	40	38	66

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
45	S 1i0	楕円形	29	21	20
46	S 1h0	楕円形	33	33	36
47	S 1h0	楕円形	28	26	29
48	S 2h1	楕円形	42	34	18
49	S 2z2	〔楕円形〕	31	31	29
50	S 2i1	楕円形	32	30	26
51	S 1h0	楕円形	29	28	20
52	S 1h0	楕円形	26	25	23
53	S 1i0	楕円形	30	24	27
54	S 2j1	楕円形	33	29	12
55	S 2j1	〔楕円形〕	39	37	14
56	T 2a2	楕円形	43	42	24
57	T 2a1	楕円形	25	24	24
58	S 2i2	楕円形	40	26	15
59	S 1i9	楕円形	42	39	25
60	S 1h8	楕円形	34	32	47
61	S 2z2	〔楕円形〕	51	44	38
62	S 1j8	楕円形	49	47	38
63	S 1j9	〔楕円形〕	37	35	19
64	S 2z2	〔楕円形〕	29	28	26
65	S 1i0	〔楕円形〕	31	28	18
66	S 1c0	〔楕円形〕	63	62	69

第8号ピット群ピット計測表

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
1	Q 2i5	円形	37	37	33
2	Q 2i6	円形	49	45	20
3	Q 2i6	円形	42	39	36
4	Q 2h1	楕円形	22	19	31
5	Q 2h1	楕円形	58	43	22
6	Q 2g4	円形	33	31	24
7	Q 2g2	円形	24	22	33
8	Q 2g5	楕円形	29	25	24
9	Q 2f9	円形	30	29	46

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
10	Q 2g7	円形	25	23	20
11	Q 2e9	楕円形	32	28	34
12	Q 2e8	楕円形	51	46	30
13	Q 2e9	円形	36	33	44
14	Q 2e8	楕円形	32	27	9
15	Q 2e7	楕円形	30	24	20
16	Q 2e8	楕円形	32	29	56
17	Q 2e8	楕円形	31	26	30
18	Q 2e8	〔楕円形〕	41	32	53

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
19	Q 2e7	楕円形	23	20	31
20	Q 2e8	〔楕円形〕	29	26	35
21	Q 2e8	楕円形	34	29	18
22	Q 2f8	楕円形	23	20	28
23	Q 2d8	〔楕円形〕	27	25	36
24	Q 2e9	楕円形	46	37	30
25	Q 2e9	〔楕円形〕	35	31	20
26	Q 2e9	〔楕円形〕	33	31	25
27	Q 2e6	〔楕円形〕	(38)	34	25

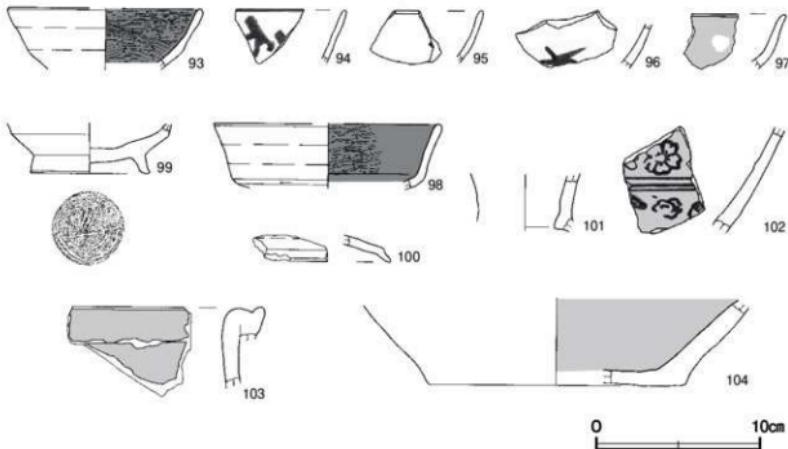
番号	位置	形状	規格 (cm)			番号	位置	形状	規格 (cm)			番号	位置	形状	規格 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
28	Q 2b7	楕円形	23	20	30	37	P 2.8	楕円形	36	32	23	46	P 2.9	楕円形	29	26	20
29	Q 2d9	円形	36	35	35	38	P 2.7	円形	39	38	48	47	P 2.10	円形	23	23	19
30	Q 2c9	楕円形	29	26	21	39	P 2.8	円形	38	36	49	48	P 3.3g	楕円形	31	27	39
31	Q 2b8	円形	[25]	25	29	40	P 2.0	円形	56	55	33	49	P 3.3g1	円形	32	30	29
32	Q 2c9	楕円形	29	25	31	41	P 2.8	楕円形	29	26	23	50	P 2.10	円形	27	26	21
33	Q 2c9	円形	29	27	31	42	P 2.6	円形	25	25	28	51	P 2.6e	楕円形	31	26	48
34	Q 2d6	円形	[33]	32	40	43	P 2.6	楕円形	31	25	34	52	P 2.6e	円形	36	33	25
35	P 2.8	円形	43	42	50	44	P 2.9	円形	29	29	35						
36	P 2.9	円形	32	30	33	45	P 2.9	[楕円形]	[40]	36	55						

表6 ピット群一覧表

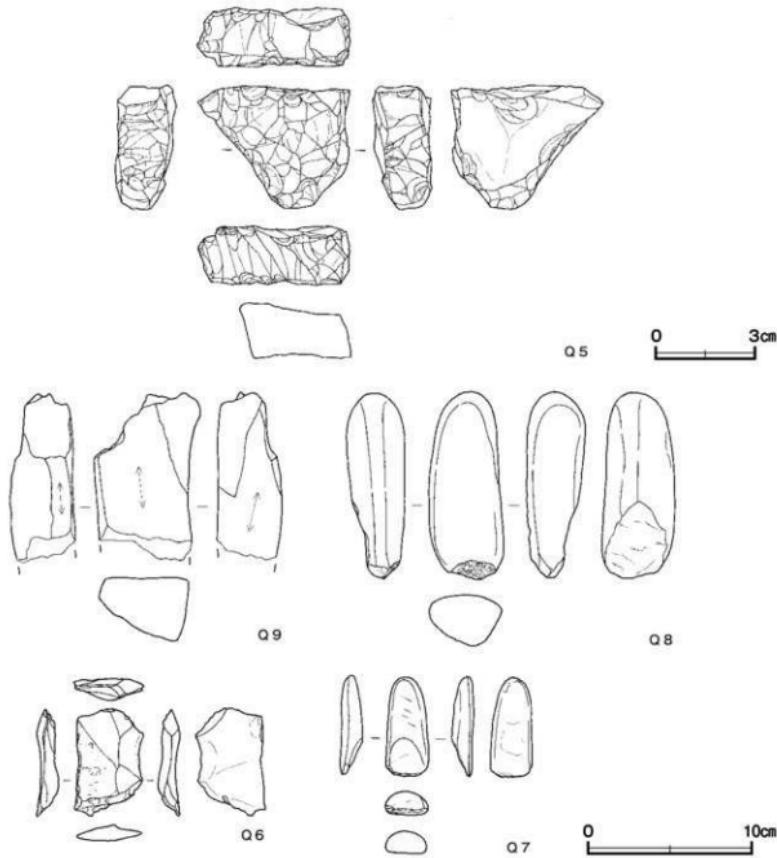
番号	位置	範囲	柱穴				主な出土遺物	備考
			柱穴数	平面形	長径(cm)	短径(cm)		
1	Q 2b1 - R 2j7	東西18m、南北40m	294	円形・楕円形	12 - 60	10 - (54)	10 - 87	SD 1・2・3・6と重複
2	S 1.8 - T 2g2	東西16m、南北30m	216	円形・楕円形	11 - 66	(16) - 44	6 - 71	
3	U 2b1 - U 2g2	東西10m、南北20m	34	円形・楕円形	16 - 36	14 - 26	12 - 51	
4	O 3gl - P 3e3	東西8m、南北25m	72	円形・楕円形	17 - 45	10 - 42	5 - 60	SD 5、SK18→本跡→SK17
7	S 1.8 - T 2a3	東西19m、南北35m	66	円形・楕円形	23 - 85	20 - 63	11 - 69	SD 9と重複
8	P 2e4 - Q 3l1	東西22m、南北35m	52	円形・楕円形	22 - 58	19 - 46	9 - 56	陶器
								SD15と重複

(6) 遺構外出土遺物(第35・36図)

今回の調査で、出土した遺構に伴わない遺物について、実測図と観察表を掲載する。



第35図 遺構外出土遺物実測図(1)



第36図 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表(第35・36図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
93	土師器	环	[12.0]	(3.8)	-	長石・石英・赤色 鉄物質	にぶい橙	普通 内面ヘラ磨き		表土	10%
94	土師器	环	-	(3.3)	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい黄	普通 内面ヘラ磨き 外面墨書き「□」		表土	5% PL 9
95	土師器	环	-	(3.3)	-	長石・石英・ 鉄物質	にぶい橙	普通 内面ヘラ磨き 外面墨書き「□」		表土	5%
96	土師器	环	-	(3.6)	-	長石・石英	にぶい橙	普通 内面ヘラ磨き 外面墨書き「△」		表土	5% PL 9
98	土師器	高台目环	[14.0]	(4.0)	-	長石・石英・ 鉄物質	にぶい橙	普通 体部外端下端絞りヘラ磨き 内面ヘラ磨き		表土	10% PL10
99	組合器	高台目环	-	(3.1)	[7.0]	長石・石英・ 鉄物質	にぶい黄	普通 成型周辺ヘラ磨き後高台貼付 ヘラ記号		表土	20% 木蓋下窓
100	土師器	壺	-	(1.7)	-	長石・石英	にぶい黄	普通 内面ヘラ磨き		表土	5%
101	組合器	長頭瓶	-	(3.5)	-	長石・石英	褐色・斑駁	普通 外・内面ロクロナデ 外面自然輪		表土	5%

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文 様・符 補	胎葉	産 地	出土位置	備 考
97	陶器	碗	-	(3.4)	-	緻密 にふい黄橙	外・内面ロクロナデ	灰釉	猪股窯	表土	5% PL10
102	陶器	鉢	-	(6.6)	-	灰黄(断面) 灰白(底面)(補)	模と雲の酒花文	鐵部釉	肅川美濃	表土	5%
103	陶器	甕	-	(5.0)	-	灰白・石英 にふい赤褐	外・内面ロクロナデ		常滑窯	表土	5%
104	陶器	甕	-	(5.3)	[15.8]	灰白・石英 赤褐	外面ヘラナデ		常滑窯	表土	20% PL10

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴		出土位置	備 考
Q 5	石核	38	47	19	37.1	瑪瑙	自然面残存		SI 4 表土中	
Q 6	剥片	66	43	13	32.1	頁岩			表土	
Q 7	磨製石斧	61	26	14	29.4	安山岩	片刃 全面研磨		表土	PL10
Q 8	磨石	11.5	4.6	3.7	228.5	安山岩	片端部に敲打痕		表土	PL10
Q 9	砥石	(103)	6.6	4.0	[278.4]	石英斑岩	砥面3面 他は破断面		表土	PL10

第4節 まとめ

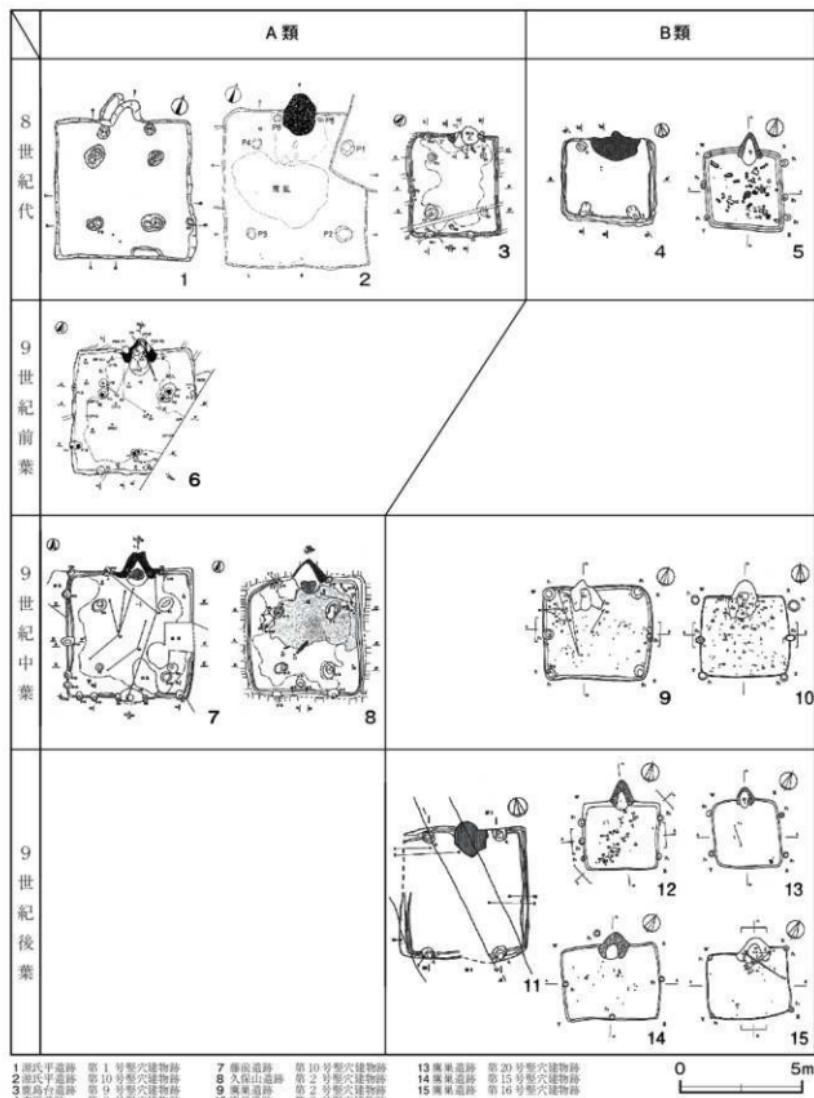
1はじめに

今回の調査で、縄文時代の陥し穴2基、平安時代の竪穴建物跡5棟、井戸跡1基。時期不明の火葬施設1基、土坑59基、溝跡18条、道路跡1条、ピット群6か所を確認した。遺物は、各遺構に伴う土器や須恵器の他に、墨書き土器や管状土錐、鉄製紡錘車などが出土している。ここでは、下大賀遺跡における集落の様相と、墨書き土器、井戸跡の様相について若干の考察を行い、まとめとしたい。

2平安時代の竪穴建物跡について

今回の調査で確認できた竪穴建物跡は5棟である。調査区域はA～C区までの南北に細長い3.734mである。この調査区域の南側のA区から北側のC区の間で確認できた竪穴建物跡は、調査C区北端の5棟だけである。第1～4号竪穴建物跡は、規模が約3mの方形状のもので、第2号竪穴建物跡が北竪、その他は東竪をもつ竪穴建物跡である。時期はいずれも出土土器から9世紀後葉に位置付けられるものである。第5号竪穴建物跡は、規模が約5mの方形のもので、他の竪穴建物跡より規模が大きく、北側に竈をもち、時期は9世紀前葉に位置づけられる。当竪穴建物跡は南東部の一部が調査区域外になるが、4か所の主柱穴と東西の壁際に2か所ずつ補助的な壁柱穴のある竪穴建物跡と想定できる。主柱穴のうち南東の1か所は調査区域外で不明だが、南西側の1か所は壁際に作られており、南東の柱穴もおそらく壁際に作られていると推測でき、南側の2か所の主柱穴は壁際に作られている。

このような壁際に柱穴をもつ竪穴建物跡については、当遺跡周辺の遺跡をみてみると、第37図のような状況である¹⁾。図は、時期と柱穴の配置状況により分類したものである。大きく2つに分けられ、一つは、一般的な竪穴建物跡にみられるように4か所の主柱穴を床面にもち、補助的な壁柱穴を備えるもので、A類とする。もう一つは、主柱穴が壁に作られ、さらに補助的な柱穴を備えるもので、B類とする。これらを時期別に概観してみると、8世紀代は、A類が1・2の源氏平遺跡の2棟と、3の鹿島台遺跡の1棟で確認できる。いずれも4か所の主柱穴を床面に構築し、竈脇に補助的な壁柱穴をもつものである。また、鹿島台遺跡については南壁に竈脇の壁柱穴と対になる壁柱穴を構築するものである。B類については、4の東原遺跡で1棟、5の鷹巣遺跡で1棟確認できる。東原遺跡のものは竈脇に2か所とそれに対をなす南壁に2か所の柱穴を作り、それを主柱穴とするものである。鷹巣遺跡のものは、東西の壁に3か所ずつ柱穴を作り、コーナー部の4か所を主柱穴とし、その間の柱を補助的な柱穴とするものである。次に9世紀代についてみてみると、9世紀前葉は、A類の6の下大賀遺跡のものが1棟あるのみである。床面に4か所の主柱穴を構築するものだが、南側の2か所が壁際に作られ、東西に2か所ずつ補助的な壁柱穴を作るものである。9世紀中葉では、A類のものが7の藤前遺跡で1棟、8の久保山遺跡で1棟確認できる。藤前遺跡のものは、4か所の主柱穴と竈脇に2本の補助的な柱穴を備えるものは源氏平遺跡と変わらないが、西側と南側の壁に計10か所の補助的な柱穴をもつものである。久保山遺跡のものは鹿島台遺跡と同じ構造だが、西側に補助的な壁柱穴がないものである。B類のものは9・10の鷹巣遺跡の2棟が確認できる。9の第2号竪穴建物跡は5の第19号竪穴建物跡と変わらないが、10の第3号竪穴建物跡は北側の2か所が竪穴外に作られることに特徴がある。次に9世紀後葉では、A類ではなく、B類で11の北郷C遺跡で1棟、12～15の鷹巣遺跡の4棟で確認できる。北郷C遺跡のものは、4の東原遺跡と同じ構造のものであるが、規模はA類の大きさである。鷹巣遺跡のも



1 圓式平道跡 第 1 号堅穴建物跡
 2 圓式平道跡 第 10 号堅穴建物跡
 3 堅穴行道跡 第 9 号堅穴建物跡
 4 東側走跡 第 8 号堅穴建物跡
 5 西側走跡 第 19 号堅穴建物跡
 6 下大員走跡 第 5 号堅穴建物跡

7 延面道跡 第 10 号堅穴建物跡
 8 久保山道跡 第 2 号堅穴建物跡
 9 廣葉道跡 第 3 号堅穴建物跡
 11 北側 C 道跡 第 3 分堅穴建物跡
 12 廣葉道跡 第 17 号堅穴建物跡

13 廣葉道跡 第 20 号堅穴建物跡
 14 廣葉道跡 第 15 号堅穴建物跡
 15 廣葉道跡 第 16 号堅穴建物跡

第 37 図 壇柱穴を伴う堅穴建物跡分類図

のは、柱穴数が減少しバラエティ豊かになる。12の第17号竪穴建物跡は、5や9と同じ構造だが、東側が2か所の柱穴になる。13の第20号竪穴建物跡は柱穴の配置が不規則で、壁よりやや外側に構築されるものである。14の第15号竪穴建物跡は、東・西・南壁の中央に各1か所ずつ柱穴をもち、北側は竈煙道部脇につくられる変則的なものである。15の第16号竪穴建物跡は4つのコーナー部に柱穴を持つものである。

時期ごとにA・B類の竪穴建物跡についてみてきたが、規模についてみてみると。A類は、3の鹿島台遺跡が4.22×3.76mと少し小規模になるが、その他はほぼ5~6mの方形のもので大きくなる。B類で、11の北郷C遺跡のものが約5mの方形でA類の大きさになるが、その他はほぼ3m前後の方形のものである。B類のものは、奈良・平安時代にみられる一般的な竪穴建物跡の規模と同等であり、柱穴を壁際に備えることで居住空間を広く利用するためと考えられる。B類において東原遺跡、北郷C遺跡を除けば、他は鷹巣遺跡から確認できるものである。鷹巣遺跡は、奈良・平安時代の竪穴建物跡23棟が確認されており、そのうち9棟が壁柱穴をもつもの、10棟が壁外に柱穴をもつもの、3棟が床面に柱穴をもつもの、1棟が柱穴をもたないものである。23棟中19棟が壁か壁外に柱穴をもつもので、この集落の特徴と考えられる。このことからB類は一般的な集落の竪穴建物跡としてとらえ、生活空間を最大限に利用しようとしたものと思われる。A類は、集落の中でも1~2棟の確認例であること、他の竪穴建物跡と比べて規模が大きくなることを考えると、集落の中における特別な存在が考えられる。豪族居館や居宅のような大規模なものではないが、それに準ずる階級の建物跡と想定できるのではないか²⁾。

次に、当遺跡の竪穴建物跡のそれぞれの位置関係をみてみる。第1号竪穴建物跡と第2号竪穴建物跡が一番南側に位置している。それより北約10mのところに第3・4号竪穴建物跡が位置している。そこから北に約15mのところに第5号竪穴建物跡が位置する。細長い調査区域内で確認できたことだが、この5棟の竪穴建物跡より南側には建物跡に関する遺構は確認できていない。このことから集落の南端部にあたる建物群であることが推測できる。しかしながら、調査区域西側や東側にも存在する可能性があり、今後の調査によって下大賀遺跡における集落の様相があきらかになることを期待したい。

3 「馬長」銘の墨書き土器について

墨書き土器は、今回の調査で、破片資料を含めて墨書き土器が18点出土している。その内訳をみると、18点全て土師器に墨書きされ、墨書きされる箇所についてみると体部外面に墨書きされているものが15点、底部外面に墨書きされているものが2点、体部外面と底部外面の2か所に墨書きされているものが1点である。その内判読できたものは、第3号竪穴建物跡から出土した「得宅内」、第5号竪穴建物跡から出土した「廣得」「馬／□長」「馬長」の4点である。「得宅内」「廣得」は、土師器坏の体部外面に横位で墨書きされている。「馬／□長」は、土師器高台付坏の体部外面正位に「馬」が⁶、底部外面に「□長」が墨書きされている。「馬長」は土師器高台付坏の底部外面に墨書きされている。第5号竪穴建物跡から出土している「廣得」は、名前の可能性が高い。「廣得」を名前とするならば、第3号竪穴建物跡から出土している「得宅内」は、この「廣得」の邸宅内のものという意味を表していると考えられるが、第5号竪穴建物跡は9世紀前葉、第3号竪穴建物跡は9世紀後葉に位置付けられるので、直接的な関連性は言い難い。

次に「馬／□長」「馬長」の墨書き土器であるが、「馬」と書かれている墨書き土器は全国で36点出土しており³⁾、そのうち「馬長」と書かれているのは、静岡県浜松市伊場遺跡からと当遺跡出土のものだけである。また、長を表す文字例で、馬に関連すると思われるものは、茨城県内では笠間市安居東平遺跡から出土している、土師器高台付坏の底部に「騎兵長・十」と墨書きされているものと⁴⁾、埼玉県川越市八幡前・若宮遺跡から出

土している「驛長」の2点だけである⁵⁾。「騎兵長・十」は、騎兵の統括者の職名と考えられ、十はその騎兵の数（十騎で一単位）を表しているとしている⁶⁾。この墨書き器の出土地点から北東約15kmのところに古代官道とされる五万堀古道が確認されている⁷⁾。「驛長」は、駅家に関するものと考えられ、近くに東山道の駅家を想定している⁸⁾。いずれも古代駅伝制に係る資料として注目されている。

古代駅伝制は中央集権を機能させようとして都と地方を結ぶ連絡用の道路として整備が行われた。駅制は、全国に七道が設けられ、大路・中路・小路に分けられ、30里（約16km）ごとに駅家を設置し、大路の駅家には駅馬20疋、中路の駅家には10疋、小路は5疋を置くよう定められていた。伝制は、公用の旅行者に対して宿泊と食料を供給する制度であり、原則として郡家がその供給を行っていた。しかしながら、郡家が必要もしも駅路沿いにあるとは限らないので、駅路とは別に郡家間を結ぶ道があったとされている⁹⁾。

下大賀遺跡が所在する地域は、吉田東伍著『増補大日本地名辞書』において田後駅の場所に比定されているところである¹⁰⁾。『日本後紀』弘仁3（812）年の条に、小田・雄薩・田後の3駅が設けられたことが記されている。また『延喜式』兵部省諸国駅伝馬条には「常陸國駅馬 横谷五疋、安侯駅二疋、曾瀬五疋、河内、田後、山田、雄薩各二疋。／伝馬 河内郡五疋」と記載され、田後駅は駅路が再編されたときに設置された新たな駅である。その場所については諸説あり、吉田東伍氏は那珂市下大賀および静、常陸大宮市下村田付近を推定しているが、現在有力な比定地としては、常陸太田市薺谷である¹¹⁾。ここは長者屋敷遺跡がある場所で、発掘調査によって「久寺」の墨書き器が出土したことから寺域の一部と考えられている¹²⁾。周辺では焼米や瓦が出土していることから久慈郡家が想定され、焼米が出土する地点は郡家の正倉の可能性があり¹³⁾、田後駅の駅家もこのあたりに推定されている。下大賀遺跡では、駅家に関する遺構は未発見であり、現段階では常陸太田市薺谷の地が有力である。

また、当遺跡から玉川沿いに約3.6km上流の常陸大宮市上村田小中遺跡では、「丈」の焼印が出土しており、報告書において「印面は8cmと大きく、木製品などに押したと考えるより牛馬におすための烙印ではないかと考えられる」とし、『延喜式』に載せられている田後駅と関連して「小規模ながら公牧、あるいは私の私牧の存在を考えることができるのではないか」として、牧の存在が想定されている¹⁴⁾。

また、墨書き器ではないが馬長に関する文字で、熊本県宇城市農野町に所在する淨水寺跡に残る古碑4基のうちの一つに、燈籠の竿部分があり、この石碑には燈籠建立の趣旨の「奘善和上／御願造奉／燈籠一基／延暦廿年／七月十四日／真上日乙／肥公馬長／化增薬蘭」の銘文が鏽刻されている。延暦廿（801）年七月十四日の紀年銘もあることから、平安時代の古碑として貴重な資料である¹⁵⁾。奘善和上の願いで燈籠一基を造ったもので、末尾に3名の人物名がある。このうち真上日乙と肥公馬長は、在地有力者と考えられており、馬長というものはある一定の階級の人物であることが想定されている¹⁶⁾。その他に、正倉院文書のなかに「□眞髮部酒刀自賣、年伍拾玖、 丁女／□奈女、年伍拾肆、 丁女／男占部鷦鷯、年貳拾壹」

中男／□馬長、年拾伍歳、 小男／女占部鷦鷯、年貳拾捌、 丁女（以下略）」と戸籍の記載がみられ¹⁷⁾、馬長は名前であることが確認できる。また、向坂鋼二氏は、伊場遺跡の大溝から北東に分流する枝溝から出土した「馬長」の墨書き器について、「伝馬を預かる長のことを「馬長」といったのではなかろうか」としている¹⁸⁾。渡辺晃宏氏は、同じく伊場遺跡から出土した「馬長」銘の墨書き器について「これを駅長として解釈するのは難しく、職名である保証はない。単なる人名ウマオサの可能性も否定できないだろう」と述べている¹⁹⁾。『厩牧令』や『倭名類聚抄』などにも馬長とする職名は記載されていないことや戸籍のなかに人名としてみられることから、「馬長」は人名である可能性が高い。

以上のことから、当遺跡で出土した「馬長」の墨書き器は、人名であることが想定できる。また墨書き器

が出土した第5号竪穴建物跡も他の4棟と比べて規模が大きいことから、馬を管理する人物で、郡家あるいは駅家に馬を供出していたのか、あるいは牧などを管理していた比較的地位の高い人物であることも考えられる。しかし、現時点では集落の一端を確認したに過ぎず、今後の調査による類例の増加に期待したい。

4 井戸跡について

当遺跡において、調査A区の中央部で井戸跡1基を確認した。規模は、確認面での径が2.88mの円形で、深さが4.5mである。土層図から、中心部幅1.2mで深さ1.75mのところまで漏斗状に掘り込み。そこより下部は長径0.95m、短径0.81mの円筒形で、深さ2.75mまで掘り込まれている。また、深さ1.75mのところまでは、中心部径の両脇が版築状を呈する堆積状況を示しており、井戸使用時は内部に木組みの枠板が構築されていた可能性が考えられる。井戸の廃絶とともに木枠は取り払われたものと考えられる。下層からは、須恵器甕が割れた状態で出土している。人為的に埋め戻されていると考えられ、出土した須恵器甕は、埋め戻しの過程で投げ入れられたものと考えられる。

調査C区北部で竪穴建物跡5棟が確認されており、ここを集落の南端と捉えると、井戸施設はそこより約250m南に位置する。生活に必需である水の確保は、建物跡に比較的近い場所へ設置されるはずである。今回の井戸の場所については、特別な意図があって離れた場所に設置されたのか、あるいは井戸西側や東側に集落が展開されるものと考えられる。特別な意図の場合、祭祀的なものも考えられるが、前述した「驛長」銘の墨書き土器が出土した埼玉県川越市八幡前・若宮遺跡において大形の井戸が確認されており、公に管理された井戸ではないかと指摘されている²⁰⁾。この井戸は、平面規模が南北7.0m、東西6.2mを測り、深さは4.5mである。径80~100cmの円筒形の外周に、漏斗状の掘り方や段状のスロープを配したいわゆる「マイマイズ井戸」と呼ばれる井戸で、構築後少なくとも2回の改修が行われているとされている。この井戸については、「国府にみられる大形の「降り井戸」の形態を踏襲し、また、桧扇・木皿等の出土遺物の構成が国府例によく似ていること、帳簿木簡が出土していることから、「公に管理された井戸」ではないかと考えられている。東山道の古代支路が近くに想定され、駅家の存在も指摘されていること、官衙的というのみならず、国府からの交通路に因るものともされている。8世紀前葉に構築され、9世紀末から10世紀初頭ごろに終末を迎えている²¹⁾。この八幡前・若宮遺跡の井戸と比べると、当遺跡で確認された井戸は一般的な井戸として作られたものに分類されるであろう。また、当遺跡の井戸より南側に道路状遺構が確認されており、出土遺物もなく時期が特定できないが、交通路と井戸との関係からこのようない集落から離れた場所に作られたのかも知れない。当遺跡が古代駅路から離れていることを考慮すると、交通路に想定されるのは支路に準ずるものか、あるいは、当遺跡西側の約1.5kmに、常陸國二ノ宮に挙げられる式内社の静神社が鎮座しており、この静神社へ繋がる道とも考えられる。残念ながら道路状遺構は、調査区域の南端の一部分でしか確認できず、東西方向にどのように広がるのか不明である。井戸の立地状況を考えると、今後の調査において集落の広がりと交通路について明らかになることを期待したい。

5 おわりに

以上のように、下大賀遺跡における集落跡の様相と「馬長」銘墨書き土器、井戸跡について若干の考察を行つてみた。調査区域が細長く限られていることから推定の域を出ないが、集落跡の境界が想定できた。また、「馬長」銘の墨書き土器及び竪穴建物跡の構造と規模から、在地有力者の可能性と古代駅伝制にかかる集落跡の可能性が考えられる。また、井戸の立地状況から今回確認できた集落跡とは別の集落跡が存在する可能性があ

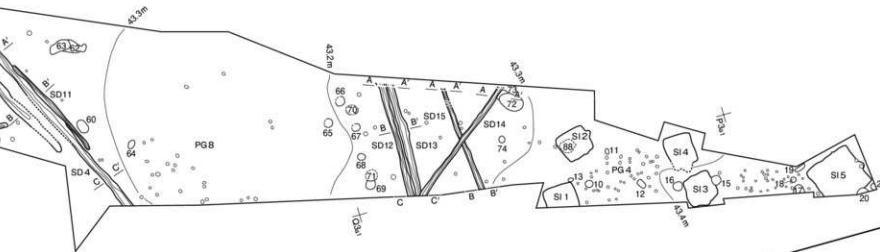
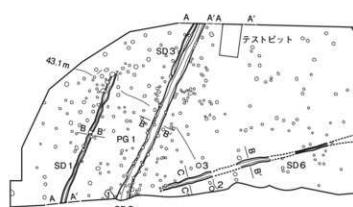
ること、あるいは交通路との関連性が考えられることが想定できた。

註

- 1) 各図は、以下の報告書より転載した。
 - ・那珂郡大宮町教育委員会『常陸源氏平 - 那珂郡阿波郷太郎里比定地に於ける集落跡の調査（遺構・遺物）』水戸市北部中央工業団地内埋蔵文化財発掘調査会 1985年3月
 - ・宮崎剛「鹿島台遺跡 保土通道路・都市計画道路平野杉木線道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財団文化財調査報告」第355集 2012年3月
 - ・上野修生「主要地方道瓜連馬渡線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 東原遺跡 石伏南遺跡」「茨城県教育財団文化財調査報告」第76集 1992年3月
 - ・井上義安・植田友次・大芦あさ子編『常陸鷹巣遺跡 - 第2次発掘調査報告 -』大宮町教育委員会・鷹巣遺跡発掘調査会 1987年12月
 - ・前島直人「藤前遺跡・並松遺跡：一般国道123号桂常北バイパス整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財団文化財調査報告」第343集 2011年3月
 - ・小松崎和治・栗田功「久保山遺跡：主要地方道那珂湊那珂線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財団文化財調査報告」第274集 2007年3月
 - ・加藤雅美・西野則史・浅井哲也「一般国道349号道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 北郷C遺跡 森戸遺跡（上・下）」「茨城県教育財団文化財調査報告」第55集 1990年3月
- 2) 菅原祥夫「東北の豪族居宅」「古代豪族居宅の構造と機能」奈良文化財研究所 2007年12月
- 3) 明治大学古代学研究所「全国墨書き土器データベース（2010）」を参考とした。
- 4) 海老澤稔・黒澤彰哉「岩間町東平遺跡発掘調査報告 - 推定安候駅跡出土の「騎兵長」墨書き土器 -」「婆良岐考古」第22号 婆良岐考古同人会 2000年5月
- 5) 富元久美子「八幡前・若宮遺跡（第1次調査）」川越市遺跡調査会調査報告書第31集 川越市教育委員会・川越市遺跡調査会 2005年3月
- 6) 註4) と同じ。
- 7) 長岡正雄・仲村浩一郎「総合流通センター整備事業地内埋蔵文化財調査報告書 仲丸遺跡 久保塚群 五万堀古道 向原遺跡・向原塚群 前原塚 仲丸塚」「茨城県教育財団文化財調査報告」第162集 2000年3月
- 8) 註5) と同じ。
- 9) 古代交通研究会編「日本古代道路事典」八木書店 2004年5月
- 10) 吉田東佐「増補大日本地名辞書」第6巻坂東 富山房 1970年6月
- 11) 註9) と同じ。
- 12) 矢ノ倉正男「主要地方道常陸郡那珂港山方線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 長者屋敷遺跡」「茨城県教育財団文化財調査報告」第117集 1997年3月
- 13) 註9) と同じ。
- 14) 大宮町教育委員会「上村田小中遺跡」大宮町教育委員会 1988年3月
- 15) 宇城市教育委員会「肥後国淨水寺古碑群II」2012年3月
- 16) 註15) と同じ。
- 17) 茨城県立歴史館編「茨城県史料 古代編」茨城県 1968年3月
- 18) 伊場木簡から古代史を探る会編「伊場木簡と日本古代史」考古学リーダー17 六一書房 2010年3月
- 19) 註18) と同じ。
- 20) 註5) と同じ。
- 21) 註5) と同じ。

北

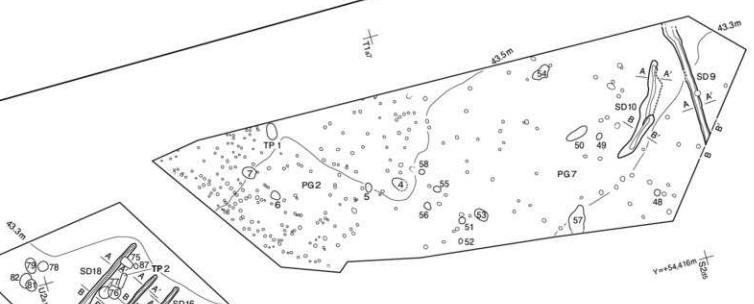
Y=54,400m



C区

北

Y=54,200m



B区

北

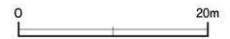
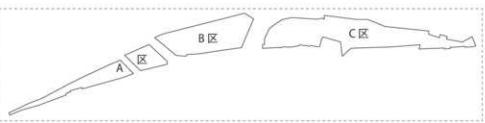
Y=54,416m



A区

北

Y=54,256m



第38図 遺構全体図

写 真 図 版



出土遺物集合



遺跡遠景
(調査 A 区・B 区)



遺跡遠景
(調査 C 区)



第1号陷穴
完掘状況

PL2



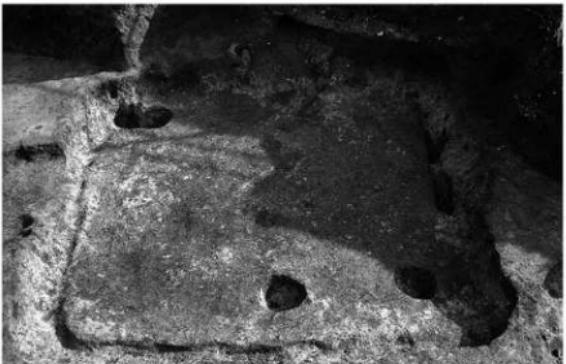
第1号竪穴建物跡
完掘状況



第2号竪穴建物跡
甕遺物出土状況



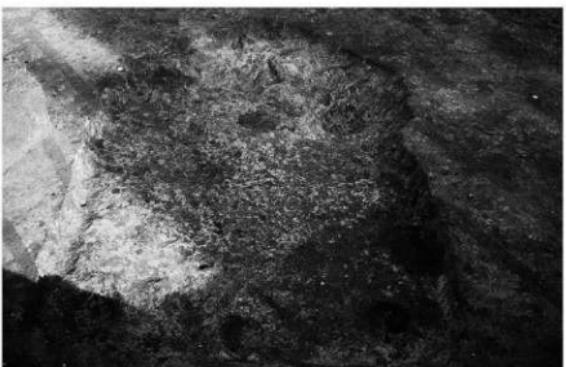
第2号竪穴建物跡
完掘状況



第3号竪穴建物跡
完 振 状 況



第4号竪穴建物跡
遺物（鉄製紡錘車）
出 土 状 況



第4号竪穴建物跡
完 振 状 況



第5号竪穴建物跡
遺物（支脚）
出土状況



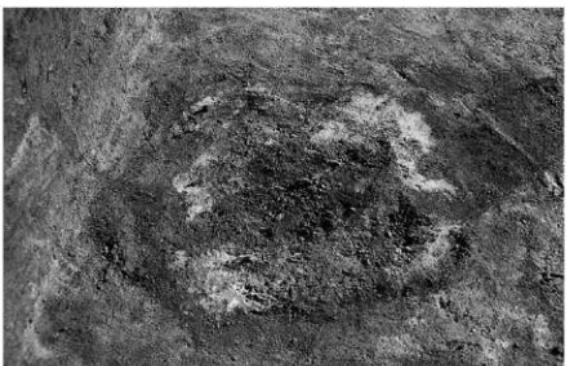
第5号竪穴建物跡
完掘状況



第1号井戸跡
遺物出土状況



第1号井戸跡
完掘状況



第1号火葬施設
確認状況



第1・2・3号溝跡
完掘状況



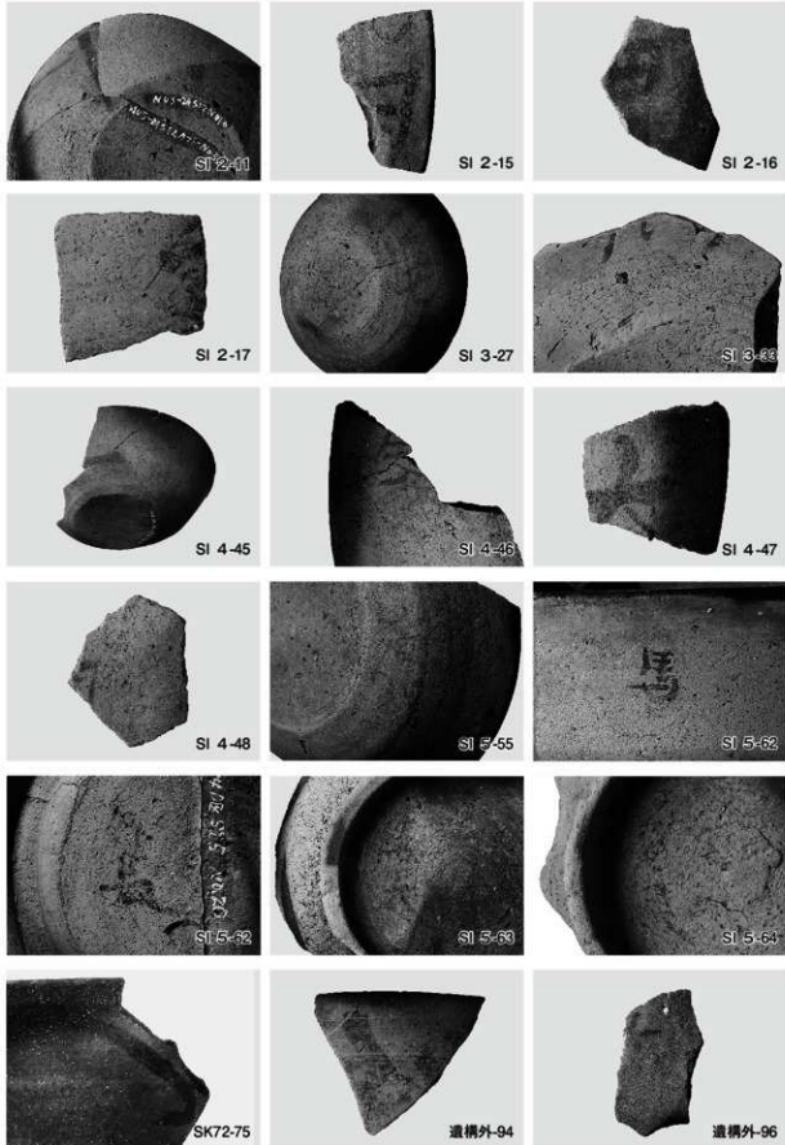
第1～5号竖穴建物跡、第2号溝跡、第72号土坑出土土器



第1·2·5号竖穴建物跡，第4号溝跡，第72号土坑出土土器



第2～5号竪穴建物跡、第1号井戸跡出土土器



第2～5号竖穴建物跡、第72号土坑、遺構外出土墨書土器

PL10



第1～5号竪穴建物跡、遺構外出土土器、土製品、石器、金属製品

抄 錄

印 刷 仕 様

編 集 O S Microsoft Windows 7
Home Premium ServicePack1
編集 Adobe InDesign CS6
図版作成 Adobe Illustrator CS6
写真調整 Adobe Photoshop CS6
Scanning 6 × 7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000ED
画面類 EPSON ES-G11000
使用Font OpenType リュウミンPro・L
写 真 線数 モノクロ175線以上 カラー210線以上
印 刷 印刷所へは、Adobe InDesign CS6でレイアウトして入稿

茨城県教育財團文化財調査報告第399集

下 大 賀 遺 跡

一般国道118号道路改築事業
地内埋蔵文化財調査報告書

平成27(2015)年3月13日 印刷

平成27(2015)年3月16日 発行

発行 公益財團法人茨城県教育財團

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 八幡印刷株式会社

〒310-0911 水戸市見和3丁目1528-38

TEL 0120-23-1473